

法 律 學 經 濟 學  
研 究 叢 書

第 四 冊

# 家族制度ノ發達

完

京都帝國大學  
法科大學助教  
河田嗣郎著

京都帝國大學  
法科大學內  
京都法學會發行



法 律 學 經 濟 學  
研 究 叢 書

第 四 冊

※

分	N 2
類	59
受入	

# 家族制度ノ發達

完

京都帝國大學  
法科大學助教授

河 田 嗣 郎 著

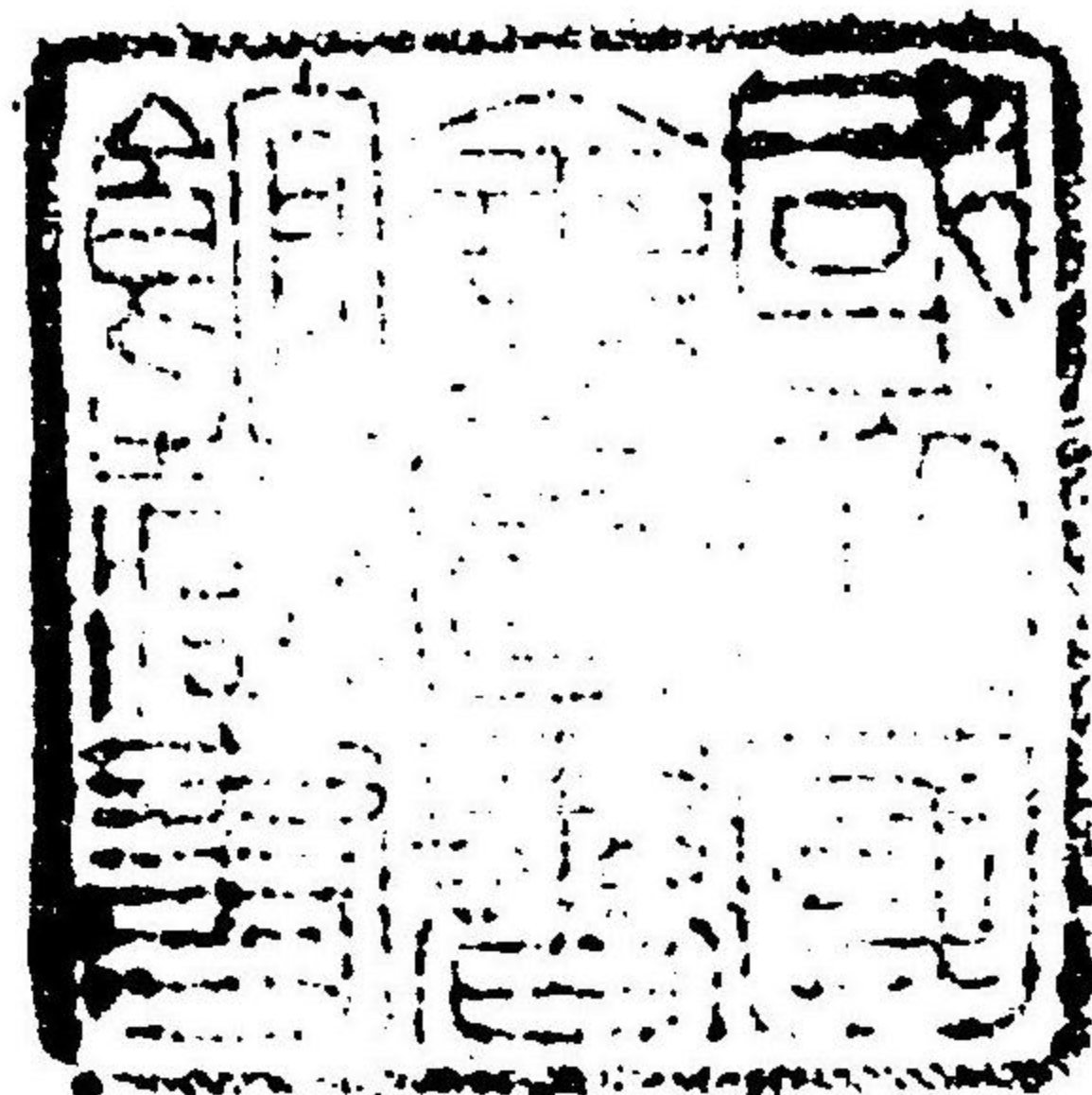
京都帝國大學  
法科大學內

京都法學會發行



362 Ka 746k

17k



目次

緒言

..... 頁

定義

..... 三

第壹篇 原始ノ家族制度

..... 八

第壹章 亂婚的狀態ノ下ニ於ケル家族

..... 一〇

第壹章 血族婚姻ノ家族

..... 二三

第貳章 團體婚姻ノ家族

..... 二一

第貳章 一時的個別婚姻ノ家族

..... 二六

第參章 族外婚姻制

..... 三四

第貳篇 氏族制度

..... 四一

目次



4  
115545



第壹章 氏族制度ノ構成及ヒ職能……………四四

第貳章 各種民族ノ氏族制度……………五三

第參章 日本ノ氏族制度……………六七

第四章 氏族制度ノ崩解及ヒ其源因……………八三

第參篇 父權的家長制ノ大家族制度……………九〇

第壹章 大家族制度ノ構成及ヒ職能……………九四

第貳章 諸民族ノ大家族制度……………一〇七

第參章 大家族制度ノ崩解及ヒ其源因……………一一九

第四篇 現代一夫一婦制ノ小家族制度……………一二三

第壹章 文化ノ發達力家族制度ニ及ホセル影響……………一二八

第貳章 小家族制度ノ構成及ヒ職能……………一三六

第參章 小家族制度ノ經濟的職分……………一四二

第四章 小家族ノ經濟生活……………一五三

第五章 家族制度崩解ノ氣運……………一六三

第六章 家族制度ニ對スル社會主義者ノ態度……………一七七

餘論……………一八五



## 引用書目

- Berolzheimer, Fritz,—System der Rechts- und Wirtschaftsphilosophie, IV. Bd. Philosophie des Vermögens, München 1907.
- Bosanquet, Helen,—The Family, London and New York 1906.
- Darwin, Ch.—The Descent of Man, London John Murray 1901, P. 846—
- Ellis Barker, P.—British Socialism, Lond 1908.
- Engels, Fr.—Der Ursprung der Familie, des Privateigentums und des Staates, 7. Aufl. Stuttgart. 1896.
- Fuchs, C. P.—Volkswirtschaftslehre, 2. Aufl. Leipzig 1905.
- do,—Art. Wohnungsfrage im Conrad'schen Hwb. f. d. Staatswiss. 2. Aufl. VII. Bd.
- Kukuda, T.—Die Gesellschaftliche und Wirtschaftliche Entwicklung in Japan.
- Gofhein—Art. Familie im Conr. Hwb. f. d. Stw. 2. Aufl. III. Bd.
- Grosse, Ernst—Die Formen der Familie und die Formen der Wirtschaft, Berlin 1896.
- Herrmann, Em.—Die Familie vom Standpunkte der Gesamtwirtschaft, Berlin 1899.



- Hozumi, N.—Einfluss des Ahnenkultus auf das Japanische Recht, Berlin 1901.  
 Lexis—Art. Handel im Schönbergs H. B. der P. Oe. II 2. Bd.  
 do—Art. Konsumtion im Schönb. Hb. d. P. Oe. I. Bd.  
 Lubbock, P.—The Origin of Civilisation and the Primitive Condition of Man, London 1889.  
 Mac Lennan—Studies in the Ancient History.  
 Morgan—The Ancient Society.  
 do—Die Urgesellschaft (deutsch von W. Eschhoff)  
 Mucke, Joh. Richard—Horde und Familie in ihrer Urgeschichtlichen Entwicklung 1895.  
 Parson, Elsie Clews—The Family, New York and London 1906.  
 Pearson, Ch. H.—National Life and Character, Lond & N. Y. 1894.  
 Pesch—Lehrbuch der Nationaloekonomie I. Bd. Freiburg in Breisgau 1905.  
 Riehl, W. H.—Die Familie 1889.  
 Roscher—System der Volkswirtschaft, 23. Aufl. I. Bd.  
 Schäffle—Bau und Leben des Socialkörpers.

- Schiller—Gesetzgebung des Lykurgus.  
 Schmoller—Grundriss der Allgemeinen Volkswirtschaftslehre, I. Bd. Leipzig 1908.  
 Schönberg—Gewerbe (Hb. II. Bd. 1. Teil)  
 do—Gewerbliche Arbeiterfrage (Hb. II. Bd. 2. Theil)  
 Schulze—Gävernitz—Marx oder Kant? 2. Aufl. Freiburg i. B. und Leipzig 1909.  
 Sombart, W. —Das Proletariat.  
 do—Warum giebt es in den Vereinigten Staaten von Amerika keinen Socialismus? Tübingen 1906.  
 Stephan Bauer—Art. Haushaltsstratistik im Conr. Hwb. f. die Stw. 2. Aufl. V. Bd.  
 Zenker, Ernst Victor —Die Gesellschaft, I. Bd. Natürliche Entwicklungsgeschichte der Gesellschaft,  
 Berlin 1899.

ギンヂェンクス社會學 越藤隆吉譯

フエヤバンクス社會學 十時彌譯

小中村清矩著 陽春廬雜考

栗田寛著 氏族考



引用書目

福田德三著

國民經濟原論

山路彌吉著

源頼朝

古事記傳

令之義解

# 家族制度ノ發達

助教授 法學士 河田 嗣 郎 著

## 緒言

シユモ一ラ一教授曰ク當今經濟組織ノ單位ヲ爲スモノハ即チ個人ナリト雖トモ然モ個人カ經濟的活働ヲ爲スハ大底或ル團結ヲ以テ成ル社會的機關ニ結合スルコトニ依リテ之ヲ行フモノナレハ國民經濟ノ構造ヲ知ラント欲セハ此ノ結合ノ様式及ヒ態型ヲ研究セサル可ラス。蓋シ國民經濟ナルモノハ之ヲ其ノ社會的方面ヨリ觀察スレハ各種機關ノ連絡アル活動ヲ以テ成ル一大機械タルニ過キサレハ也。而シテ是等諸機關ノ中主トシテ研究サルモノハ(一)家族的結合(二)地理的結合(三)就中地方團體及ヒ國家(三)企業上ノ結合ノ三者之ナリ。就中前二者ハ比較的古キ歴史ヲ有シ其ノ職能モ亦經濟上ニ局限セララルニ非スシテ社會萬般ノ事ニ及ヘトモ最後ノモノハ極メテ近時ノ發達ニ係リ其ノ活動亦一步モ經濟ノ外ニ出テス。



而シテ今若シ此等ノ團結ニ就キテ其ノ性質機能等ヲ明カニセント欲セハ之カ歴史的研究所試ムルニ若クハ莫シト。

Gustav Schmoller, Grundriss der Allgemeinen Volkswirtschaftslehre I. Bd. S. 231.

本論ニ於テ吾輩ハ以上三種ノ機關中ノ家族ナルモノニ就キテ其ノ起源其ノ發達其ノ現狀及ヒ其ノ將來ニ關スル研究ヲ試ントスルモノナレトモ、曾テグロツセー氏カ之ヲ歎シタルカ如クスノ如キハ所詮不可能ノ事業タルヤモ未タ以テ知ル可ラス、假令不可能ナラストスルモ極メテ困難ナル事業タルヲ免レス、能ク家族ノ發達史タルヲ得可キ事實的説明ト理論的斷定トノ首尾一貫セルモノヲ成シ得可キヤ否ヤ甚タ疑ハシキ所ナリ。

特ニ一言スルノ要アルハ吾輩ノ右ノ研究ハ之ヲ法律學經濟學ノ範圍ニ局限スルヲ得サルコト之ナリ、然リ法律經濟ノ範圍内ニ屬ス可キ部分ハ却テ尠少ニシテ社會學的研究ト見サル可ラサルモノ十ノ八九ニ居ル也、然レトモ之レ問題ノ性質上素ヨリ然ラサルヲ得サル所ニシテ其ノ然ルコトハ決シテ法律學經濟學研究叢書ノ一トシテ此書ヲ著述スルノ妨トナルモノニハ非サル可キ也。

### 定義

總テ幼稚ナル科學ニ在リテハ術語不正確ニシテ學者ハ各其ノ好ム所ニ從ヒテ擅ニ之ヲ用ユルノ弊アルヲ免レス、特ニ社會學人類學等ニ在リテハ研究ノ材料ヲ異種多樣ナル旅行日記探險記等ニ採ルノ結果益々其ノ然ルモノ有ルヲ見ルナリ、然レトモ斯ノ如キハ研究上大ナル障礙ヲ爲スモノナレハ吾輩ハ先ツ以テ此所ニ術語ノ意味ヲ確定シ置キテ然後研究ニ入ルノ必要アルヲ思フ。

先ツ研究ノ題目タル家族ト云フ名詞自身ニ付キテ之ヲ見ルモ通常二様ノ意義ヲ有シ一ハ血縁ト云フ關係ニ依リテ連結セル人ノ一團ヲ指シ狹義ノ家族トハ之等ノ内更ニ近親ナル者カ其ノ血縁ヲ自覺シテ結合セルモノヲ稱ス、然ルニ他ノ意義ニテハ家族ハ共同生産若クハ共同消費ノ爲ニスル一家ノ所屬員全體ヲ包含シ血族ノ外尙ホ姻族奴婢等ニシテ之レニ從屬スル者ヲ總括スル也、即チ現今法律上ノ意味ニ於ケル家族權ノ根柢ヲ爲スモノハ血縁ナルニ社會上ノ用語ニ於ケル家族ハ一家ヲ組織シテ共同生活ヲ營ム人ノ一團ヲ總稱スルモノノ如シ、而シテ斯ク用



語ノ一定セサルハ、モト沿革上ノ理由ニ依ルモノニシテ未開時代ニ在リテハ親族  
 Geschlecht ト家屬共產體 Hausgemeinschaft トハ嚴格ナル區別ヲ有シタリシガ後文化  
 漸ク開ケテ社會關係複雜ヲ加フルニ從ヒ兩者互ニ融和シテ終ニ家族 Familie ナル  
 中性的名詞ヲ見ルニ至リシカ爲ナリ。註二然レハ現今多數ノ學者ハ狹義ノ家族ト  
 云ヘハ永續的結合ノ下ニ男女二人ヨリ成ル夫婦ト其ノ間ニ生レタル子女トヲ以  
 テ組織セル小團體ヲ意味シ之ヲ小家族若クハ個別的家族 Sonderfamilie ト稱ス而シ  
 テ廣義ノモノトシテハ所謂大家族 Grossfamilie ヲ指シ之ハ前者ノ如ク僅カニ二代  
 ノ血族ヨリ成レルニ非スシテ父母及ヒ子女ノ外ニ子女ノ配偶者及ヒ其ノ子女、又  
 其子女ノ配偶者及ヒ其子女ト云フカ如ク三四代ノ血族ヲ包含シ之ニ奴隸僕婢ノ  
 類ヲ加ヘタル所謂家屬共產體ニシテ大底父權ノ下ニ立ツ家長制ノ家族即チ Patri-  
 archat ナルモノト同意義ニ用ヒラル。註三然レトモ夫婦關係ガ原則トシテ永續的結  
 合ト云フコトト夫婦各一人ヨリ成ルト云フコトトヲ基礎トスルニ至リシハ家族  
 制度カ十分完成セル以後ノコトニ屬シ原始及ヒ野蠻時代ニ在リテハ此ノ二要素  
 ヲ缺除スルヲ例トス、而シテ斯ル状態ニ在ルモノヲ家族ト名クルコトノ穩當ナル

可キヤ否ヤハ疑ナキニ非サレトモ少クトモ家族制度ノ進化ノ狀況ヲ窺フニハ等  
 シク之等ヲモ觀察シ研究スルノ要アルカ故ニ吾輩ハ之ヲ呼フニ同シク家族ノ名  
 ヲ以テセント欲ス。

註一 Gothein—Art. Familie, im H. v. b. d. staatswissenschaften III. Bd. S. 700.

註二 Grose—Die Formen der Virschafte u. die F. d. Familie S. 10; Bacherns Lexikon S. 339 ff. Einl. Brit. 福田博  
 士國民經濟學論第一卷五一頁。

右二者ニ對比ス可キモノハモルガン氏ノ所謂血族婚姻ノ家族 Blutsverwandschaftfa-  
 milie—Consanguine family 團體婚姻ノ家族 Punaluanische Familie 及ヒ暫時的個別婚姻ニ  
 依ル家族即チ Syndasmische Familie ニシテ第一ノモノハ肉親ノ兄弟姉妹及ヒ從兄弟姉  
 妹等カ相互ニ團體的ニ婚姻スルニ依リテ成立スル家族ニシテ第二ノモノハ夫  
 團體ト妻ノ團體トノ間ニ血縁無キ家族而シテ第三ノモノハ永續性ヲ缺ク所ノ夫  
 婦一對ノ婚姻ヲ以テ成ル家族ナリ。註二而シテ吾輩ハ此ノ三者ノ内第一ノモノハ  
 制度トシテノ其ノ存在ヲ否認シ他ノ二者ニ就キテモ尙ホ大ニ研究ノ餘地アルヲ  
 思フ者ナリ。

是等各種ノ家族制度ト共ニ説明セサル可ラサル所ノモノハ氏族制度 Sippenverfass-



ungs, Genitororganisation ニシテ氏族トハ謂ハハ血族全體ヨリ成ル團體ナリ、就中父ノ血統ヲ享クル者ノミヨリ成ルモノヲ父系氏族 *Vatersippe* ト云ヒ母ノ血統ノ者ノミヨリ成ルヲ母系氏族 *Muttersippe* ト稱ス。而シテ氏族カ多數結合スレハ種族 *Stamm* ト爲リ多數種族結合シテ民族 *Volk* ヲ成ス。然レトモ同一種族ニ所屬スルノ事實ハ家族及ヒ民族ニ所屬スルト異リテ必スシモ血縁關係ヨリ來ルニ非ス共同ノ土地ニ居住シ同一ノ言語ヲ使用シ同一ノ權力ニ服從スル點ヨリ來ルモノ也、即チ種族ハ文化的ニシテ地域的ナル團集ニシテ政治的團體ノ根本ヲ爲スモノナリ、故ニ國民ナルモノハ大底種族ノ集合擴大セルモノニ外ナラス而シテ多クハ又其間血縁關係存在スルコト有ル可シト雖トモ必スシモ之ヲ必要トセサルナリ。(註二)

註一 Morgan—The Ancient Society—Die Urgesellschaft, deutsch von v. Eschhoff.

註二 Schmoller—Grundriss I. Bd. S. 235; Groese a. a. O. S. 10 ff.

血統ヲ母方ニ依リテ踪蹤スルモノヲ母系 *Mutterfolge* ト稱シ父方ニ依ルモノヲ父系 *Vaterfolge* ト云フ世人稍モスレハ此ノ二者ヲ以テ母權的家長制 *Matriarchat* 及ヒ父權的家長制 *Patriarchat* ト混同スレトモ之等ハ截然區別ス可キモノニシテ父系ヲ認ムル所ニ在リテハ *Patriarchat* 即チ父ノ支配ノ下ニ立ツ大家族制度ヲ見ルコト普通ナ

レトモ反對ニ母系ニハ常ニ *Matriarchat* 即チ母ノ支配權行ハル、モノト爲スヲ得サル也、*Mutterrecht* ナルモノモ亦血統上ノ觀念ニシテ子女後裔ハ族名、稱號、地位、自由等ニ於テ母ヲ繼承スル謂ナリ決シテ權力支配上ノ意義ヲ有スルモノニハ非サル也、*Mutterrecht* ハ大底父權的家長制ヲ前提トシ一家支配ノ權ハ通常母ノ兄弟ニ屬ス。謂フニ由來カカル血統關係ト權力關係トヲ明瞭ニ區別セサリシカ爲メニ家族制度發達ノ研究上非常ノ紛雜ヲ惹起シタリシカ如シ、依テ先ツ此所ニ之ヲ明カニスル所以ナリ。

註 Zenker—Die Gesellschaft I. Bd. Natürliche Entwicklungsgeschichte der Gesellschaft, S. 100ff.

Darjun—S. 2;

Groese—a. a. O. S. 11.



### 第壹篇 原始ノ家族制度

家族制度ハ婚姻制度ニ伴ヒテ起リタルモノナルヤ疑ナケレトモ婚姻ノ成立ヲ促ス動機ニ付キテハ論争アルヲ免レス。或人ハ全然之ヲ以テ性慾關係ニ基因ストナシ、或人ハ又性慾關係が最モ強キ動因タルヲ否定セサレトモ婚姻ナル制度カ全然生理的慾求ノ満足ト云フコト而已ヲ目的トシテ發生セリト爲スハ過キタリト主張シテ經濟關係ノ閑却ス可カラサルヲ説ク、即チ此ノ論者ハ曰ク既ニ原始野蠻ノ人類ト雖トモ管ニ愛情ノ爲メニ婚姻ヲ結ヒ更ニ經濟關係ニ顧慮ヲ及ホササルヲ以テ非難ス可キコトト爲スノミナラス原始人ニ在リテハ愛情ノ念ハ決シテ當今ノ如ク發達セルモノニ非ス彼等ハ寧ろ生存維持ノ必要上天賦勞働力ノ相違ヨリ來ル相互補償ノ利益ニ浴センカ爲メニ婚姻スルモノナリト。

註 野蠻人ハ其妻ヲ得ントスルニ當リテハ容貌ノ美醜ヨリモ體力勞働力ノ優リタルモノヲ選ブノ風アリ *Turkmenen* ガ處女ニ對スルヨリモ寡婦ノ爲メニ多額ノ代價ヲ支拂フト云フハ畢竟後者カ家政ノ經驗ニ長ケタルヲ以テナリ又女子ノ方ヨリ云フモ若シ選擇ノ自由カニアラハ必スヤ能ク自己ヲ扶養シ且ツ十分ノ保障ヲ與フルニ適スル男子ヲ選ブナリ可シ何トナレハ文化開ケス生存困難ナル時ニ當リテハ自然ト外敵トニ拮抗スルノ必要甚々大ナレハ也 (*Gen.*

1890—1908, S. 147f)

然リト雖トモ原始人類ノ愛情ノ有無濃薄等ニ付キテハ到底議論アルヲ免レサル可ク(註二)吾輩ハ斯ル問題ニ深ク立入ルノ寧ろ愚ナルヲ思フ。サリ乍ラ吾輩ハ婚姻(特ニ家族)ノ發生原因トシテ經濟關係ヲ上クルコトハ最モ當ヲ得タル見解ナルヲ信スルモノユシテ少クトモ當今吾人カ了解スル家族ト云フ觀念ニハ經濟的分子ノ包含サルヲ否定ス可カラス、先天的ニ男女間ニ存スル生理的差異ト之ニ伴フ經濟能力ノ長短ヲ結合調和シテ以テ生存維持ノ便宜ヲ計ラントセルコトハ家族制度ノ發生ヲ促セル有力ナル一原因タリシヤ争ヒ難キ所ナリ(註二)

註一 野蠻人ニモ美醜ノ觀念ハ著シク發達シ顔面扁平ニシテ體骨秀テ眼ハ細ク鼻ハ扁平ニシテ頭長ク耳ノ大ナルヲ以テ美醜ナル女子ト爲シ男女之間ハ顔面若クハ肢體ニ顔料ヲ塗抹シ頭髪ヲ裝飾シ入墨ヲ施シ鼻唇耳等ニ小棒若クハ圓環類ヲ挿シ或ハ門齒ヲ脱キ爪ヲ染メ以テ男女相互ノ戀愛ヲ買ハントス蓋シ大凡野蠻人ハカク裝飾ヲ喜ビ邊幅ヲ飾ルモノハ無キ也。  
(Darwin—Descent of man p. 872—891)  
Zenker—a. n. O. S. 108.

Lubbock—The Origin of Civilization P. 69—71.

註二 ..... muss ein gewisses Zusammenwirken, eine Art Arbeitsteilung zwischen Mann und Frau Platz greifen haben  
Schmoller Grundriss I. Bd. 235.



然シ乍ラ何ヲ云ヒテモ性慾上ノ要求ト生兒哺育上ノ必要トカ婚姻制度發生ノ第一動因ナルコトハ爭フニ由ナキ所ナレハ吾輩ハ以下家族ノ原始的狀態ヲ説カンカ爲メニハ先ツ主トシテ婚姻關係ヨリ入門セサル可カラサルヲ見ル也。

### 第一章 亂婚的狀態ノ下ニ於ケル家族

人類原始ノ狀態ニ在リテハ何等制度ト名ク可キモノ無ク全然無秩序ニシテ萬事渾沌タリ從テ男女關係ノ如キモ極メテ亂雜ニシテ所謂亂婚ノ狀態 *Promiskuität* ヲ呈シ親子兄弟男女老幼紛然トシテ相交リ到底家族ト名ケ得可キ程ノモノハ其形蹟タモ之ヲ見ルニ由ナシトハスベンサー以下多數學者ノ唱道スル所ニシテ或ハマク、レナン氏カ之ヲ現存蠻民ノ狀態ニ考ヘ又文明民族ノ歴史ニ徴シテ曾テハ男女關係亂雜ニシテ之ヲ指シテ婚姻ト稱シ得可キ夫婦相對的ノ關係存在セザリシコトヲ知ルニ難カラスト爲シ、或ハモルガン氏カ家族ノ形式ヲ分チテ五ト爲シ第一第二ノ形式ニ於テ亂婚の制度ヲ認メタルカ如キ、或ハ又ラボツク氏カ右二氏ノ

說ヲ承ケテ一般男女ノ關係亂暴ニシテ婚姻ノ制度確立セス部落内ノ男女ハ各々互ニ妻タリ夫タルノ狀態ノ存在ヲ是認スルカ如キ皆之レ亂婚ノ狀態ヲ以テ人類ノ原始的狀態ト爲スモノナリ、然ルニ近時漸ク此說ヲ否認セントスルモノ多キヲ加フルニ至リシユモ、ラー教授ノ如キハ或ル特別ノ場合ニハ元ヨリ斯ル狀態モ存在セサルニシモアラサル可ケレト原則トシテハ夫婦一對ノ個別的婚姻制度ハ原始時代ヨリシテ行ハレタルモノトセサルヲ得スト主張シグロツセー氏ハ現存スル多數ノ蠻族ノ實例ニ付キテ之ヲ見ルモノトシテ亂婚ト云フカ如キ渾沌タルモノ在ル莫ク緊密ナル個別的家族ハ例外ナク存在スル所ナリト道破シダルヰイシ氏亦嫉妬ハ動物通有ノ性情ニシテ人類獨リ之ニ漏ルルコト無シ亂婚ノ行ハレタリト云フカ如キハ信用スルニ足ラスト揚言セリ。

惟フニ總テ之等ノ論爭ハ婚姻トカ家族トカ云フ辭義ヲ極メテ粗畧ニ解釋スルト之ヲ當今ノ文明社會ニ於テ了解サルルカ如キ意義ニ近ク解釋セントスルトノ見解ノ相違ヨリ來レル者ナル可ク人類原始ノ狀態ニ於テ全然家族的生活組織ヲ缺除セシヤ否ヤハ俄カニ斷言シ難キ所ナリ、然レトモ吾輩ノ見ル所ヲ以テスレハ全



ク亂婚ノ状態之レナカリシトモ云ヒ得可カラサルカ如シ。亞弗利加及ヒ濠太利ノ或ル蠻族中ニハ現ニ此ノ状態ヲ呈スルモノアリ又之ヲ史乘以外ノ事蹟ニ求ムレハ大古ニモ斯ル状態ノ存在シタリシヲ知ルニ足ルモノ有リ、要スルニ人類原始ノ状態ニ在リテハ亂雜ナル集合的婚姻ノ制度ハ個別的ナル男女一對婚姻ノ制度ヨリモ種屬維持ノ爲メニ便利ナリシナル可シトハ想像シ易キ所ニシテ兄弟其他ノ血族間ニ妻ノ共有アリシナル可シトノ想像ニ至リテハ甚タ眞實ニ近キモノト見サル可ラサルニ似タリ、唯タ斯ル亂婚ノ状態カヨシ之レ有リトスルモ之ヲ以テ或ル時代ニ於ケル各民族ノ一般ノ習俗ナリシト見ルカ如キハ大ナル誤謬ニシテ此點ニ就キテハモルガン氏ノ如キハ最モ批難ヲ免レ難キモノナル可キ也。

而シテ一部落内ノ男女混然トシテ相交リ其間何等ノ規律ナク禽獸ノ状態ト多ク選フ所ナキ極端ナル亂婚ノ状態ノ存在セシヤ否ヤハ甚タ疑問ナレトモヨシ實際存在セシコトアリトスルモ家族制度ニ付キテ研究セントスル吾輩ノ目的ニハ殆ント關係ナキカ故ニ暫ク之ヲ措ク、吾輩カ此所ニ其ノ存在ヲ承認セントスル亂婚ノ状態ト云フハ稍々規律アル所謂團體婚姻ヲ意味スルモノニシテ以下吾輩ハ之

ニ關スルモルガン氏ノ所説ヲ叙ヘテ其ノ批評ヲ試ミ併セテ自家ノ所見ヲ明ニスル所アラントス。

モルガン氏カ其著 *The Ancient Society* ニ於テ説ク所ニ依レハ亂婚的状态ノ下ニ於ケル家族制度ハ所謂血族婚姻ノ家族 *Consanguine family* ト團體婚姻ノ家族 *Punaluan family* トノ二者ニシテ其ノ如何ナルモノナルカハ卷頭ノ定義ニ於テ述ヘタル所ノ如シ。

### 第壹 血族婚姻ノ家族

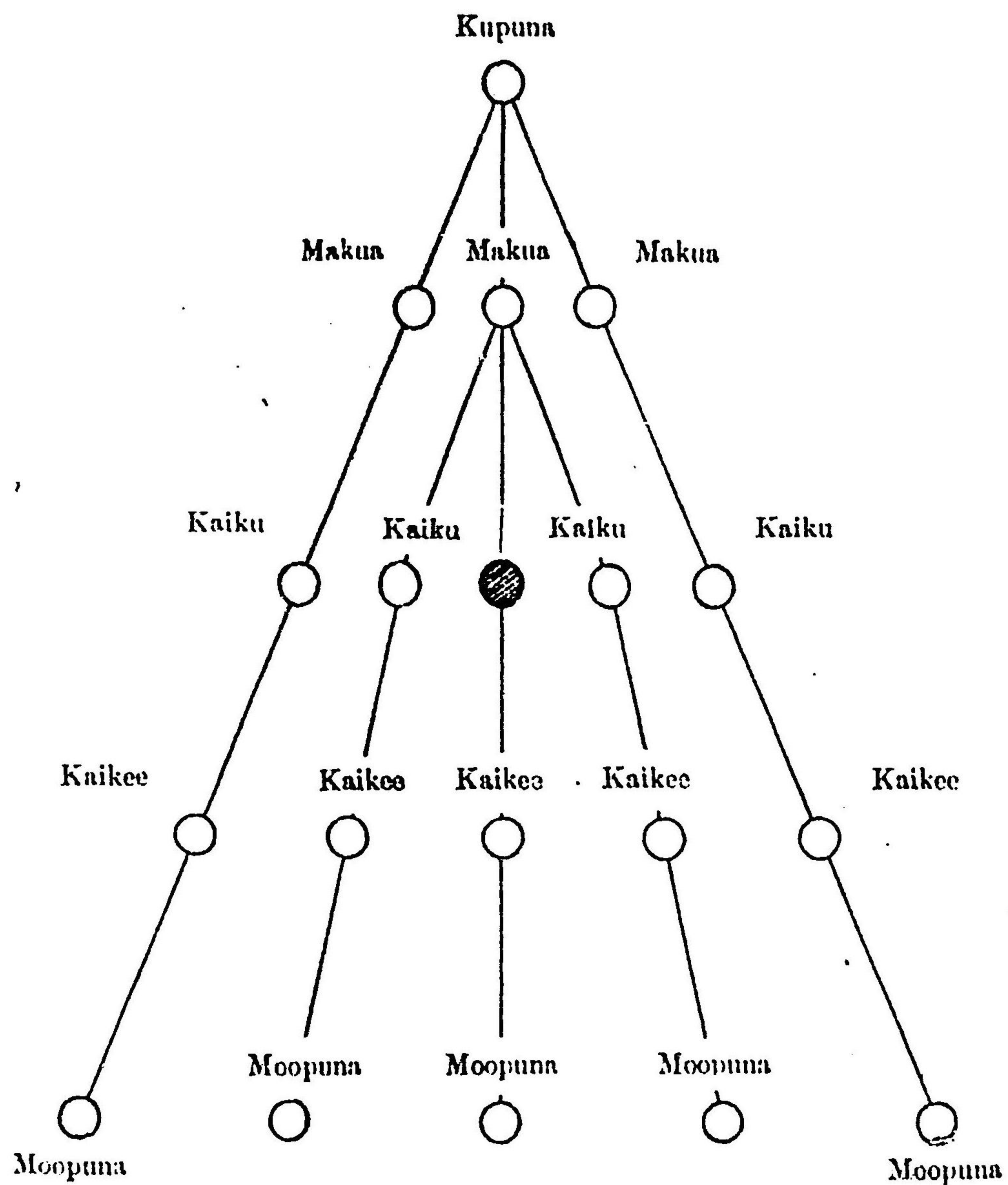
モルガン氏ノ説ク所ニ依レハ血族婚姻ノ家族 *Consanguine family*, *Die Blutsverwandschafts-familie* ナルモノハ人類最古ノ家族制度トセラレトモ現存ノ蠻族中ニ在リテハ如何ニ文化低度ナル境遇ニ在ルモノト雖トモ既ニ一トシテ此ノ状態ヲ有スルモノ無ク史上又其ノ存在ヲ證スルニ足ルノ事實無シ、單ニ兄妹結婚ト云フノ事實ハ史蹟及ヒ現存ノ蠻俗ニ之ヲ發見シ難キニ非サレトモ全體ノ兄弟ト其ノ姉妹ノ全體トカ團體的ニ婚姻ヲ爲シ然カモ其事カ社會一般ノ制度タリシト云フカ如キ



ハ如何ニモ信シ難キ所ナリ。然ラハモルガン氏ハ何ノ據ル所アリテ斯ル家族制度ノ曾テ存在シタリシコトヲ主張スルヤト云フニ他ナシ斯ル家族制度ノ行ハレタルニ非サレハ到底發生スルヲ得スト信セラルル血統制度ノ存在スルモノアルカ爲ナリ。

其ノ血統制度ト云フハ所謂馬來式血統制度ナルモノ之ニシテ人類最古ノ血統制度トシテ契史以前ニ存在シタルモノトセラレ、而シテ現ニ此ノ制度ヲ保存スルハポリネシア人ニシテ就中布哇ニ行ハルルモノハ之ニ與フルニ模型的地位ヲ以テスルニ足ル可ク現存人類間ニ知ラレタル最劣等ノモノトシテ研究上之ヲ尊重スルノ價值アリ、然レトモ時代ノ經過ニ連レテ其カ甚タ寛和サレタルモノアルハ注意セサル可ラサル所ニシテ當初ノ原始的狀態ハ今ヤ之ヲ實見スルニ由ナシト云ハル。

然ラハ此ノ所謂馬來式血統制度ナルモノノ實質如何ト見ルニ遠近總テノ血族ヲ五階段ニ區別スルモノニシテ第一段ニ屬スルモノハ自己、兄弟姉妹、從(再從三從等)兄弟姉妹等ニシテ此ノ親等ニ屬スルモノハ何レモ我カ兄弟姉妹ナリ、第二段ハ父



祖父母	Kupuna	{ 祖父母	Kupuna	Kana Waheena
父母	Makua	{ 父母	Makua	Kana Waheena
子女	Kaikee	{ 子女	Kaikee	Kana Waheena
孫	Moopuna	{ 孫	Moopuna	Kana Waheena



母、伯叔姑、其ノ從(同上)兄弟姊妹等ニシテ何レモ皆我カ父母ナリ、第三段ハ父方ノ祖父母、其ノ兄弟姊妹及ヒ從(同上)兄弟姊妹等ヲ以テ成リ何レモ皆我カ祖父母ナリ、第四段ハ子女、甥姪及ヒ其ノ從(同上)兄弟姊妹等ニシテ何レモ皆我カ子女ナリ、第五段ハ孫及ヒ其從(同上)兄弟姊妹等ニシテ何レモ皆我カ孫兒ナリ而シテ此ノ以外ニハ血統階段ヲ認メラルルコト無シ。

註 馬來式血統制度ハ甚ダ支那ノ血統制度ニ類似スレトモ後者ニアリテハ此ノ五階級以外ニ尙ホ上下各二段ヲ加ヘテ總テ九階級ト爲セルヲ異レリトス Dene—Das Familienleben S. 31 參照

モルガン氏ガ馬來式血統制度ヨリ遡リテ肉身ノ兄弟姊妹間ニ團體婚姻ノ行ハレタル事實ヲ承認セントスルハ一人稱カ其ノ傍系親ニ當ルモノニ對スル關係ヨリ推及シテ然カ承認スルニ非サレハ到底其ノ關係ヲ了解スルニ由ナキモノアルヲ信スルカ爲ナリ。即チ一男子ハ其ノ兄弟ノ子女(甥姪)ヲ呼フニ自己ノ子女ヲ以テシ之等ハ總テ其男子ヲ呼フニ父ヲ以テスルノ事實ハ兄弟ノ一團ト其ノ姊妹ノ一團トカ婚姻關係ニ立ツニ非サレハ到底生シ得可カラサルコトナリト爲ス也。

註 父 = Makua kana = 伯父等

母 = " Wahoona = 伯叔母等

子 = Kaikee kana = 兄弟姊妹ノ子等

女 = " Wahoona = 兄弟姊妹ノ女等

而シテモルガン氏ハ斯ル兄弟姊妹ノ團體婚姻ハ決シテ偶然ニ發生セルモノニハ非スシテ甚タ自然ナル一般ノ制度タリ人類有ルト同時ニ發生シ、初メ唯タ肉身ノ兄弟姊妹間ノ婚姻ナリシモノ漸大ニ擴大シテ傍系ノ兄弟姊妹即チ從(再從三從等)兄弟姊妹ヲモ包含スル團體婚姻タルニ至リシモノナリト信ス。而シテ其ノ證左トシテ次ノ姻族關係ヲ上ケタリ。

我が兄弟ノ妻 ..... Wahoona(我妻)

我が妻ノ姉妹 ..... (同前)

妾ガ夫ノ兄弟 ..... Kana (妾カ夫)

我父ノ兄弟ノ子ノ妻即チ從兄弟ノ妻 ..... Wahoona(我妻)

我母ノ姉妹ノ子ノ妻同前 ..... (同前)

尙ホ曰ク亞米利加ノ宣教師カ初メテ布哇ニ入リシ時ニハ現ニ兄妹婚姻及ヒ父娘婚姻行ハレ且ツ夫ノ一團ト妻ノ一團トヲ以テ一ノ婚姻關係ヲ形成スル所謂團體婚姻行ハレタリト云フ。而シテ團體婚姻ハ未タ全クハ亡滅セサル血族婚姻ノ進化上ノ成果タルニ過キサレノミナラス其ノ當時布哇ノ血統制度ハ確カニ兄弟姊妹ノ團體的婚姻ノ曾テ存在シタリシヲ證シテ餘リ有リ、要スルニ血族婚姻ノ家族ナ



ルモノハ人類最古ノ家族制度ニシテ人類ハ此ノ發足點ヨリ出發シ漸次進化シテ今日ノ文明ニ到達セルモノナリト。

註 Morgan—The ancient Society P. 337—348.

Fr. Engels—Der Ursprung der Familie S. 9—50.

總テ斯ル婚姻状態ハ座ロニ吾輩ヲシテブラトーノ『レバブリック』ヲ聯想セシムルト同時ニ

註 The Republic 中ノ一節ニ曰ク

We devised means that no one should ever be able to know his own child, but that all should imagine themselves to be of one family, and should regard as brothers and sisters those who were within a certain limit of age; and those who were of older generation they were to regard as parents and grand-parents; and those who were of a younger generation as children and grandchildren.

他方又 Galatophagi 族ガ團體婚姻ヲ爲シ老年者ハ總テ之ヲ父ト呼ヒ幼少ノ者ハ總テ之ヲ子ト稱シ同年代ノ者ハ互ニ兄弟ト指稱スルノ事實(註二)ヲ併セ考フレハ吾輩ハモルガン氏ノ奇抜ナル論定ニ對シテ甚タ疑ヲ挿マサルヲ得ス、即チ劣等民族ニ在リテハ血統ニ關スル觀念ノ冷淡ナルト日常慣用ノ言語ノ數少クシテ一部類ニ屬ス可キモノノ各個ニ對シテ一々區別アル名詞ヲ有セス一部類ヲ總括セル名詞ニ依リテ其ノ用ヲ足スヲ例トスルカ爲メニ自己ノ子タルト兄弟ノ子タルト姉

妹ノ子タルトヲ問ハス若年者ハ總テ之ヲ子女ト呼ヒ伯叔父母ノ如キハ總テ之ヲ父母ト爲スコト少ナカラス、其ノ用語ノ共通ナルカ爲メニ直チニ兄弟ト其ノ姉妹トノ團體婚姻行ハレタリト爲スハ如何ニモ輕忽ニシテ亂暴ナル決論ト云ハサル可ラサル也、而シテマツタ、レナン氏ノ如キモ其著原始婚姻論ニ於テ反對ノ決論ヲ試シ(註三)ヲボツタ、氏亦文明起源論ニ於テ之ヲ評論シ、而シテ最後ニ以上述ルカ如キ System of nomenclature ハキヤン、マン、シツク其他ノ航海先達者ガ實見セル所トハ一致セズト揚言シテ事實の根據ヲ覆サント試ミタリ、(註三)

註一 Labbock—The Origin of Civilisation P. 95.

註二 Mc Lennan—The Primitive marriage P. 372—407.

註三 Labbock—a. n. P. 90—94.

尙又モルガン氏ガ據テ以テ金城湯池ト恃ム所謂馬來式血統表ニ付キテ之ヲ見ルニ兄弟姉妹ノ團體的婚姻ニ於テ男子ノ姉妹ハ同時ニ其ノ妻タリ女子ノ兄弟ハ同時ニ其夫タリシト爲スコトハ十分之ヲ證スルニ足ルモノ無ク、僅カニ母ノ兄弟ヲ以テ父 Makukana ト爲スアルノミニシテ妻ノ父ヲ以テ父ト爲サスシテ姻父 Makuhitihaiti ト稱シ、又 Kaikeelka = Schwager, Schwägerin, ト云フ特別ノ用語アルノ事實ハ却テ夫



妻カ兄妹ニ非サルノ確證タラスンハ非サル也。  
 次ニ又妻ノ姉妹ノ夫及ヒ夫ノ兄弟ノ妻ヲ以テ我カ親愛ナル同伴者 *Companion* ト爲シテ我カ兄弟又ハ我カ姉妹ト爲ササルハ夫ノ團體必スシモ兄弟ヲ以テ成ラス妻ノ團體必スシモ姉妹ヲ以テ成ラサルヲ證スルモノナリ。サレハ吾輩ハ兄妹相互ノ團體的婚姻カ曾テ一般ノ婚姻制度トシテ存在シタリト云フコトハ之ヲ否認セザラントスルモ得サル也。

要スルニ斯ル問題ニ關シテ明了ニシテ正確ナル觀念ヲ得ント欲セハ就テ研究スル民族ノ習慣風俗ヲ知悉スルノ必要アリ唯單ニ血統上ノ用語ノミニ依リテ論斷ヲ試ルニ於テハ多クノ場合誤謬ニ陥ラサルヲ期シ難カル可シ多數ノ劣等蠻族間ニ於ケル血統制度上ノ用語ハ決シテ吾等カ當今了解スルカ如キ血統觀念ヲ包含スルニ非サレハモルガン氏ノ論斷ハ所詮學者トシテノ慎重ノ態度ヲ缺クノ譏ヲ免レ難キニ似タリ。

支那ニ在リテハ古クヨリシテ血族ノ婚姻ヲ禁シ其ノ嚴重ナルコト他ニ多ク比類ナキ所ニシテ九等親ノ制度ハ恰モ血族婚姻ヲ禁センカ爲メニ存在スルノ實狀アリ唐律ニモ同姓婚姻ヲ禁シ犯シタル者ハ各徒二年ニ處シ總麻以上ハ姦ヲ以テ論ストアリ之ニ關シテモモルガン氏ハ誤レル所ナ

爲セリ序ナレハ正シ置ク。

次ニ日本ノ古代ノ習俗ヲ察スルニ尤恭天皇カ盛夏六月御膳ノ滂汁凝リテ水トナレルヲ異トシ密購セシメ給ヒシニト者曰ク内亂アラシ蓋シ親姦スルカト奏上シタリシカ推問ノ結果皇太子木梨之輕ト同母妹輕大郎ト姦アルヲ知リ大ニ震怒シテ太子ヲ伊豫ニ流シ給ヒシト云フ事蹟ニ徵スレハ(註)同母兄妹ノ如キ最近親間ノ婚姻ハ之ヲ禁シタルヲ明ナリ然レハ一男子カ妻ノ姉妹數人ト婚シタルノ事例ハ少カラズ又鷲草葺不合尊カ其姨ト婚シ開化天皇カ庶母伊賀迦色許賣命ト婚シテ崇神天皇ヲ生ミ仁德天皇カ庶妹八田ノ若耶女及ヒ菟道若耶女ニ婚シ給ヒ敏達天皇カ庶妹炊屋姫ト婚シ給ヒシカ如キ事例アルヲ見レハ必スシモ近親者間ノ婚姻行ハレサリシト論斷スルヲ得ス然レトモ之レ血統ヲ重セラルルコト特ニ重キ皇室ノ事例ニシテ他ニ高貴ノ家少キニ依リ巴ムヲ得サルニ出テタル場合ヒ尠サカラサル可ク以テ當時一般ノ風習トハ爲ス可ク況ンヤ之ヲ以テ血族婚姻ノ制度カ曾テ一般規律的制度タリシノ遺跡ト爲スカ如キナヤ。

註 古事記ニ曰ク天皇崩御後定木梨之輕太子所知日繼未即位間姦其伊呂妹輕大郎女中略以是百官天下人等背輕太子(中略)故其輕太子者流於伊余湯也。  
 又古事記傳ニ曰ク

書紀云二十三年春三月立木梨輕皇子爲太子容姿佳麗見者自感同母妹輕大郎皇女亦麗妙也太子恒念合太娘皇女長有罪而默之然感情既盛將至死後以爲徒非死者雖有罪何忍乎遂竊通

## 第貳 團體婚姻ノ家族

團體婚姻ノ家族トハ數人ノ兄弟カ數人ノ妻ヲ共有シ若クハ數人ノ姉妹カ數人ノ良人ヲ共有スルモノニシテ家族制度トシテハ最モ粗雜ナル實質ヲ有シ其ノ團結



トシテノ統制力ノ脆弱ナルコト云フ迄モ莫シ。從テ當今吾人カ普通ニ了解スル家族ノ觀念ヲ以テシテハ等シク之ヲ家族ト稱スルコト如何ニモ比倫ヲ失スルヲ免レス。夫婦カ各一人ヨリ成ラスシテ各團體ヲ爲シ又其ノ結合カ永續ト云フコトヲ原則トセサルノ二點ニ於テ當今ノ家族觀念ト甚タ面目ヲ殊ニスルナリ。然レトモ暫ク之ヲ家族ト稱ヒテ家族制度發達ノ第一階底ニ置クハ研究上實ニ已ムヲ得サル所ニ屬ス。兎モ角斯ル婚姻團體ハ其間ニ生レタル子女ト共ニ一家族ヲ形成スルモノナレハ從テ其ノ家族ノ様式ニツアリ、一ハ良人ノ團體カ兄弟ナル場合他ハ妻ノ團體カ姉妹ナル場合之ナリ、即チモルガン氏カ掲ケタル親族表ニ付キテ之ヲ見ルモノ一ノ場合ニハ男子ハ其妻ノ姉妹ヲ呼ンテ同シク之ヲ妻ト爲スニ拘ラス妻ノ姉妹ノ夫ハ其男子ヲ *Punala* 即チ「親愛ナル仲間」ト云フヨリシテ之ヲ見レハ此ノ場合ニハ妻ノ團體ハ姉妹若クハ從、再從姉妹等ナルニ夫ノ團體ハ兄弟ナラサルヤ明カナリ、然ルニ他ノ場合ニ付キテ之ヲ見レハ妻ハ夫ノ兄弟若クハ從(再三從等)兄弟ヲ呼ンテ等シク夫ト爲スニ拘ラス夫ノ兄弟ノ妻ヲハ *Punala* ト稱ス之レ夫ノ團體ハ兄弟ナルニ妻ノ團體内ニハ姉妹ノ關係ナキコトヲ示スモノナリ。

モルガン氏ノ見ル所ニテハ此ノ家族ハ血族婚姻ノ家族ヨリ脱胎シ人類ノ進化上之ニ次クモノニシテ兩制度ノ異ル所ハ肉親ノ兄弟ノ婚姻ヲ禁スルト否トニ在リ肉親ノ兄弟ト云フカ如キ最近親者間ノ婚姻ハ有害ニシテ恐ル可キ結果ヲ齎スモノナリト云フ鐵則ハ如何ニ劣等ナル野蠻人類ニ在リテモ知覺セラレサルヲ得サル所ニシテ禽獸タタナラサル無明長夜ノ夢ヨリ醒メタル蠻族ハ終ニ血族婚姻ノ衣ヲ脱キ捨テテ茲ニ團體婚姻ノ新衣ヲ飾ルニ至レルモノナリト爲ス也。然レトモ此ノ制度ノ必然的前提トシテ血族婚姻制度アリト爲スノ誤レルヤ前ニ述ヘタル所ヨリシテ直チニ之ヲ知ルヲ得可シ。

又モルガン氏ノ說ニ從ヘハ團體婚姻ノ家族ハツラン式血統制度ト相伴ヒテ起レルモノニシテ若シ團體婚姻ノ家族存在セサリシナラハツラン式血統制度ハ發生スルヲ得ス、而シテ斯ル血統制度ハ亞細亞亞米利加ノ兩大陸ニ多ク保存モラレ就中典型ト見得可キハ亞米利加ニ於テハ *Seneka Irokesen* ノ制度、亞細亞ニ於テハ南方印度 *Tamulen* ノ制度ナリトノコト也。

*Seneka Irokesen* ノ血統制度ニ於テ團體婚姻ノ存在ヲ立證スルニ足ルノ事實ハ(一)予カ男子ナル場合



ニイ兄弟ノ子女ハ亦予ノ子女 (Ia-ah-wak, Ia-ah-wak) ニシテ之等ハ又予ヲ呼フニ父 (He-nih) ナ以テ  
 ス(ロ)予ノ姉妹ノ子女ハ予ノ甥姪 (Ia-ya-wanda, Ka-ya-wanda) ニシテ之等ハ予ヲ呼フニ伯(叔)父 He-no'sah  
 ト爲ス次ニ(二)予ニシテ女性ナルトキハ兄弟ノ子女ハ甥姪 (Ia-oh-nah, Ka-oh-nah) ニシテ予ハ彼等ノ  
 姨 (Ah-er-nuk) ナリ(ロ)ノ姉妹ノ子女ハ又予ノ子女ニシテ之等ハ予ヲ呼フニ母 (Nah-yeh) ナリ以テ又予ハ  
 妻ノ父ナ De-nah-ose ト稱シ夫ノ父ナ Ha-ge-ah ト呼フ此ノ名稱アルハ即チ夫婦カ兄妹ナラサルノ證左  
 ナリト。

註 以上 Morgan—n. n. P. 357—375; Fr. Engel's n. n. O. S. 20—30.

團體婚姻ノ制度ガ曾テ人類ノ歴史ヲ汚シ又現存ノ蠻民間ニ其ノ實例ヲ見ルコト  
 ハ學者ノ多ク一致スル所ニシテゴータイン氏モ人類カ渾沌タル無秩序ノ域ヲ脱  
 シテ初メテ粗雜ナル規律ヲ見ルニ至リシハ現今深太利ノ或蠻族間ニ行ハルルカ  
 如キ團體婚姻ノ制度ナリト爲シ一家ノ中ニ共棲スル一族ノ男子カ妻ヲ共有スル  
 制之レナリト説明ス而シテ團體婚姻トシテノ多夫主義 Polyandrie ハ比較的開化セ  
 ル父系的豪族ニ於テモ之ノ見ルヲ得可シト云ヘリ(註)一妻多夫制ニ就キテハ京都  
 法學會雜誌第三卷第八號所載拙稿婚姻制度論ニ詳シ)

註 Gothein—Art. Familie im H. d. S. W. III. Bd. S. 794.

ラボック氏亦團體婚姻制カ人類最初ノ婚姻制度ナリシコトヲ認ムルモノニシテ

氏ノ妻女掠奪及ヒ族外婚姻ニ關スル明快ナル立論ハ實ニ此ヲ以テ立脚地ト爲ス  
 也試ニ氏ノ説明セル所ニ就テ見レハ文化低劣ノ民族ハ曾テ團體的婚姻状態ニ在  
 リ又現ニ此ノ状態ニ在ルモノ多キハ事實ノ證明スル所ニシテ希臘ノ古代ニ於テ  
 ハ Cecrops 迄埃及ハ Menus 迄之ヲ行ヒタリト傳ヘラレ太平洋諸島特ニ布哇 Queen-  
 Charlotte-Irlands ニモ行ハレ傳説ニ依レハ深太利ノ蠻族間ニモ行ハレタルコト明カ  
 ナリト云フ。

註 曾テ深洲ニ派遣サレタル英國ノ宣教師 Mr. Palmer カ未タ其ノ地ノ習俗ニ慣レサル頃土人ト  
 親密ナラントシテ一青年男子ト兄弟ノ契ヲ結ヘリ然ル後或時其ノ成年ノ妻ニ會シ予ハ御身  
 ノ郎君ト兄弟ノ契ヲ結ヘリ從テ今後御身トハ兄妹ノ交ヲ爲ササル可ラスト語リシニ彼女ハ  
 地腹絶倒シテ曰ク否トヨ然ラハ君ハ今妾カ親愛ナル其人タル可キナリト  
 Lubbock—a. n. P. 86—90.

要スルニ團體婚姻カ文化劣等ナル民族間ニ廣ク行ハレ若クハ廣ク行ハレタルノ  
 形蹟アルコトハ爭難キ事實ニシテ之ヲ以テ婚姻制度ノ最モ原始的ナルモノト爲  
 シ之ニ依リテ組織サレタル家族ヲ以テ等シク家族制度ノ原始的形態ト見ルコト  
 必スシモ多ク咎ム可キニ非サルニ似タリ然レトモ之等カ決シテモルガン氏ノ説  
 明セルカ如ク規律アル制度トシテノ面目ヲ備ヘ其ノ家族制度カ人類普通ノモノ



ニシテ人類ハ必スヤ一度此ノ状態ヲ經過シテ進化シ來レルモノト爲ス可キニ非  
 テナルヤ十分注意ヲ要スル所ナリ。從テ或ル民族ニ於ケル團體婚姻ハ夫ノ團體カ互  
 ニ兄弟タルコトアル可ク、或ル民族ニ在テハ妻ノ團體カ姉妹タルコトアル可シ。然  
 レトモ或ル民族ニ在リテハ團體内ニ何等兄弟タリ若クハ姉妹タルノ關係無ク又  
 或ル民族ニ至リテハ全ク團體婚姻ノ制度ヲ有セサルモノ有ル可キ也。

## 第二章 一時的個別婚姻ノ家族

前章述ルカ如ク亂婚の状態ノ下ニ於ケル家族制度タル團體婚姻ノ家族ナルモノ  
 ハ之レヲ家族制度ノ原始的形式トシテ研究ノ出發點ト爲スコト敢テ必スシモ不  
 可ナシト雖トモ然モ之ヲ各民族ニ普遍ナルモノトシテ各民族ノ家族制度ハ必ス  
 ヤ此ノ組織ヨリ進化シテ以テ現今ノ發達セル組織ヲ有スルニ至レルモノト爲ス  
 ハ聊カ過キタルノ譏ヲ免ル可ラス。若シ求メテ斯ノ如キヲ得ントセハ吾輩ハ終ニ  
 一時的個別婚姻ノ下ニ於ケル家族ナルモノヲ上ケサル可ラサルヲ見ル也。  
 一時的個別婚姻ノ家族ト云フハ永續性ト排他性トヲ缺除セル男女ノ一對關係ニ

成ル個別的婚姻ヲ基礎トスル家族組織ナリ。男女ノ關係ハ已ニ一對的ナリト雖ト  
 モ其ノ結合ノ期間ハ當事者ノ任意ニシテ從テ當今ノ意味ニ於ケルカ如キ永續性  
 ヲ其ノ要素トセス又婚姻關係ノ繼續中他ノ男女トノ交通ヲ排斥セサルモノナリ。  
 元ヨリ此ノ永續性ト排他性トノ欠除ハ唯タ原則トシテ然ルモノニシテ例外ハ之  
 レ有ルヲ免レス特ニ排他性ニ至リテハ夫カ妻ニ對シテ絶對ノ貞操ヲ要求スルコ  
 ト寧口通例ナリト見テ大過ナカル可キモ貞操ヲ以テ夫婦相互ノ義務トシテ之ヲ  
 道德的要件トスル當今ノ婚姻トハ大ニ其ノ趣ヲ異ニスルナリ(註二)然レトモ兎モ  
 角モ夫婦カ一對的ノ婚姻關係ニ立ツコトハ吾輩カ今日普通ノ意味ニ於テ了解ス  
 ル所ノ家族制度ノ根柢ヲ爲スモノナルカ故ニ當今ノ家族制度ノ前身トシテ其ノ  
 進化上ノ連絡ヲ有スルモノトシテハ此ノ一時的個別婚姻制ノ家族ヲ上ケサル可  
 ラス。

一時的個別婚姻ノ家族ニ在リテハ各家族相集リテ一家屋ニ居住スルヲ常トス之  
 レ各家族獨立シテ生活上ノ困難ト戰ハンニハ其ノ實質餘リニ脆弱ナルニ因ルモ  
 ノ也。然レトモ原始人類ノ生存スル地方ハ多クハ瘦瘠ニシテ使用ノ道具亦極メテ



幼稚ナルカ故ニ食料ハ常ニ空亡ヲ告クルノ結果其ノ生存モ分離ナルモノモ少カラス食料可也十分ニシテ團體生活ヲ許ス所ニ在リテモ二十人乃至百人ヲ越ユルコト無キヲ普通トスルモノノ如シ(註二) 遮莫夫婦ハ既ニ一對的ノ關係ニ立チ其點ニ於テハ稍々後世ノ Monogamie ト似タルモノ有リ妻ハ夫ノ同伴タリ子女ノ養育者タリ而シテ子女モ父ノ確定スルト共ニ夫婦間ノ楔子ト爲リテ其ノ結紐ヲ堅クスルニ與リテ大ニカアルニ至リタリ(註三)

註一 Morgan, The Ancient Society P. 384—390.

Langels, Ursprung d. Familie S. 30—47.

註二 Schnoeller Grundriss I. Bd. S. 235; Grosse a. a. O. S. 35 ff.

註三 一時的ナル男女一對ノ夫婦關係ハ團體婚姻制ノ下ニモ存在セサルニ非ス男子カ多數ノ妻女ノ内ノ或者ヲ以テ主タル妻ト爲シ多數ノ男子中其女ニ對シテハ主タル夫タルノ地位ヲ占ムルカ如キ状態ヲ見ルニ難カラス而シテ此ノ傾向ハ氏族制度發達シテ近親者間ノ婚姻困難ナルニ及ヒテ益々顯著ナルヲ致セリ(註三) Fr. Langels, a. a. O. S. 30; Zenker, die Gesellsch. I. Bd. S. 91.

婚姻ハ元來原則トシテ永續性ト排他性トヲ有セサルカ故ニ良人ハ多ク愛情ニ依リテ妻ヲ得ルニ非スシテ生活上ノ便利ト必要トノ爲メニ婚姻ヲ結フヲ例トス。サレハ婚姻ノコト大底母ノ手ニ委セラレテ子女ハ殆ント之ニ關セス全然不見不識

ノ人ト結婚スルコト稀ナラス而シテ子女ハ通常母ノ取定ニ逆フコト無シ從テ斯ル状態ニ在ル蠻族ノ中ニハ全ク戀愛ノ何タルヲ解セサルモノモ無キニ非ス。Hottentots, Kausse Kafirs ノ如キ其例ニシテ愛情ヲ解セス又 Finnie Indians モ "dear" "beloved" 等ノ語辭ヲ有セス Cherokees 族モ兩性間ノ愛情ヲ歌フ可キ詩歌ヲ欠クト云フ又 Hairy Bira 族ノ結婚モ極メテ冷淡ナルモノニシテ稻ノ穂ヲ刈リ取ルト何ノ選フ所ナシ、Mandingoes 族ノ夫婦關係モ甚タ淡薄ニシテ夫ハ妻ヲ奴隷ト爲シ夫婦共ニ歡樂スルカ如キコト決シテ無シ夫ハ妻ヲ御スルノ妨ト爲ルヲ恐レテ之ニ向テ打笑ムコト無ク總テ妻ノ境涯ハ最モ憐ムニ堪ヘタルモノナリト云フ。

註 Lnhock, the Origin of Civilization P. 69—73.

婚姻繼續期限ハ全ク當事者ノ意思ニ從フモノニシテ夫ハ其意ニ滿タサルコトアレハ任意ニ妻ヲ放逐シ妻モ亦何等カノ理由ノ下ニ夫ヲ捨テテ他ノ男子ニ就クト其ノ好ムカ儘タル可シサレトモ通常夫婦間ニ斯ル不和ノ持上ルコト有レハ双方ノ親族ハ來リテ調停和解ヲ試ミテ好結果ヲ得ルコト稀ナラス離婚ニ當リテハ妻ハ夫ノ家ヲ捨テ自己ノ財産ニシテ夫カ之ニ對シテ要請權ヲ有セサルモノハ悉



ク之ヲ携去ス子女ニ關シテハ男子女兒共ニ母ノ有ニ歸スルモノト夫ハ女子ヲ取  
 ヲ妻ハ男兒ヲ取ルモノト有リ、兩シテ一家ノ支配カ妻ノ親族ノ手中ニ存スル場合  
 此ノ場合ヲ多シトス——ニハ夫ハ妻ノ家ヲ去ルナリ、總テ右ノ如キハイロケ  
 ーゼン其他多數印度民族ノ風習ナリトス。

個別的婚姻ノ家族が團體婚姻ノ家族ヨリ發生發達セル原因及ヒ過程ハ後ニ詳論  
 ス可ケレトモ茲ニ之ヲ約言スレハソハ唯タ夫ノ團體ト妻ノ團體トノ中ヨリ一人  
 ノ夫ハ一人ノ妻ニ對シテ特別深厚ノ關係ヲ有スルニ至リ終ニ一對的ノ個別關係  
 ニ入レリト云フニ過キサレトモ更ニ悉細ニ其ノ理由ノ存スル所ヲ見レハ氏族制  
 度ノ力カ大ニ其勢ヲ助ケタルヲ否定ス可ラス、即チ氏族制度ハ其初メ生理上及ヒ  
 宗教上等ノ原因ヨリ近親者間ノ婚姻ヲ禁シタルカ爲メニ同一宗母ヨリ分岐セル  
 一切ノ母系血族者間ノ婚姻不可能ト爲リ男子ハ其妻ヲ得ルノ範圍甚シク制限セ  
 ラレ從テ之ヲ得ルノ困難ノ度ヲ加ヘタリ、然ルニ尙進ンテ母系父系ヲ問ハス總テ  
 同族者間ノ婚姻ヲ避ケルニ至リテヨリハ男子ハ勢ヒ妻ヲ他族者中ヨリ求メサル  
 可ラサルニ至リ或ハ戰爭ノ捕虜ヲ以テ之ニ充テ他ハ他ノ部落中ヨリ掠奪シ來リ

若クハ又賣買取引ニ依リテ之ヲ得ルノ必要ヲ生スルニ至リタリ、而シテ斯ク妻ヲ  
 得ルカ爲メニ多大ノ努力ト犠牲トヲ供セサル可ラサルニ至リテハ人情ノ自然ト  
 シテ其獲物ヲムサシク他人ニ分與スルヲ好マス數人共同シテ妻ヲ有スルハ甚シ  
 ク人情ニ悖ルニ至リ茲ニ漸ク一對的個別關係ノ基礎ヲ堅メタル也。  
 右ノ發展ノ勢ヲ助ケシモノハ生活狀態ノ改良ト云フコト之ニシテ既ニ狩獵漁撈  
 ヲ以テ唯一ノ生存手段ト爲スノ域ヲ脱シテ定住ノ俗ヲ立テ農工ノ業ヲ知リ手工  
 ノ術ヲ解シ家屋ノ構造食料ノ生産等總テノ方面ニ於テ經濟生活ノ程度上進スル  
 ニ至レハ又昔日ノ如ク團體的生活ノ下ニ團體的婚姻ヲ爲スノ必要ナキニ至リ終  
 ニ個別的婚姻ノ下ニ獨立ノ個別的家族生活ヲ營ムコト益々容易ナルヲ致ス可キ  
 ヤ甚タ賤易キ所ナリ、然リト雖トモ文化極メテ劣等ナル所謂漁獵民ニ就キテ之ヲ  
 見ルモ個別的家族組織ハ極メテ廣ク行ハレ團體婚姻ノ家族組織ノ下ニ在ルモノ  
 ハ寧ロ少シ(註)之レ併シ乍ラ文化低劣ナルモノニ在リテハ生活資料缺乏シ生産ノ  
 用ニ供ス可キ道具甚タ備ハラス且ツ未タ生産行爲ト見ルニ足ル可キ程ノモノア  
 ラサルカ爲メニ到底多數人ヲ集團ヲ造リテ群棲ヲ爲スヲ許ササルノ事情アルカ



爲メニ然ルモノナレハ文化稍々開ケテ生産行爲ノ稍々整ヘルモノニ在リテハ多數家族相集リテ共同ノ家計ヲ立テ共同經濟ノ生産セル物ヲ得テ其生ヲ營ムヲ常ト爲スコト既述ノ如シ。

註 此點ハ亂婚制度ノ存在ヲ主張スル者ニ對シテカロツセー氏ガ報曉明目シテ論證セル所ナリ詳クハ京都法學會雜誌第一卷第十一號以下ニ連載セル拙譯「家族ノ形態」ト經濟ノ形態ヲ參照アリタシ。

集合的生活狀態ノ下ニ在ルモノニ在リテハ個別的家族制度ノ行ハルルト同時ニ氏族制度ノ并ヒ行ハルルヲ多數ノ場合ト爲スハ甚ク注意ヲ要スル所ニシテ試ニ斯ル狀態ニ在ルモノノ居住ノ有様ヲ見ルニ一家屋ハ五乃至二十家族ヨリ成リ共同住舍タル長屋ニ生活ス、長屋ノ中央ヲ通シテ一端ヨリ他端ニ至ル道アリ道ノ兩側ニ居室櫛比シテ一室ニ一家族住居ス道ノ中央ニハ一烈ノ燃火アリ二家族モシクハ四家族ニ一個ノ割合トス財產ハ共有ニシテ食物ハ狩獵漁撈ニ待チ之ヲ獲ルニ其人ヲ選ハス土地ノ作物モ亦共同財產ヲ爲ス而シテ此ノ一家ヲ支配スルモノハ大底老婆ニシテ經濟ヲ整理シ勞働ヲ案配ス食物ハ地上ノ火ニ依リテ調理セラレ老婆ハ各家族ノ必要ニ應シテ之ヲ配與スル也サレハ男子カ其ノ狩獵ノ捕獲物

ヲ提供スルト否トハ大ニ其ノ地位ニ關係シ之ヲ供シ得サル男子ノ境遇ハ甚ク不幸ナルヲ免レス蓋シ男子ハ通例他族ヨリ來リテ家族ノ夫トナル者ナレハ也。婚姻關係ノ一時的ナルモ生活ノ必要ヨリ來レルモノニシテ夫婦ノ情愛薄ク排他獨占ノ風無キヨリ腕力ト冷淡トハ一般ノ風習ナリ子ハ獨立ノ生存ニ適スルニ至レハ直チニ親ヲ捨テ到底今日ノ夫婦親子ノ觀念ヲ以テ之ヲ推スヲ得可ラス而シテ氏族制度ノ最モ好ク發達セル所ニ在リテハ各個ノ家族ハ殆ント其ノ存在ノ理由ヲ失ヒテ氏族内ニ沒了シ各個人ハ其ノ家族ニ從屬スルノ自覺ヨリモ多ク氏族ノ所屬員タルノ自覺ヲ有ス、即チ氏族カ各個人ヲ結合スルコト緊密ニ過キ全ク之ヲシテ家族的生活ニ入ラシメサルノ觀ナキニ非ス從テ人ヲシテ動モスレハ團體婚姻其他ノ亂雜ナル婚姻狀態ノ存在ヲ信セシムルモノ無キニ非サル場合尠ナカラサレトモ然モ個別婚姻ト個別家族トハ儼然トシテ存在スルモノ多ク文化極メテ劣等ナル種族ニ在リテモ既ニ其ノ然ルヲ見ル也(註)而シテ尙ホ吾輩ハ個別的婚姻制度ノ發達ヲ助ケタル族外婚姻制及ヒ其ノ原因等ニ就キテ述ヘサル可ラス。請フ章ヲ更メテ論セシメヨ。



註 Schmolter Grundriss I. Bd. S. 235; Zenker, a. a. O. S. 94; Grosse, a. a. O. S. 174 ff.

### 第三章 族外婚姻制

婚姻ノ形式ハ之ヲ族内婚姻 Endogamie ト族外婚姻 Exogamie トニ二大別スルヲ得可シ。即チ妻ヲ同氏族中ヨリ娶ルト他氏族ヨリ娶ルトノ區別ナリ。族外婚姻ニ在リテハ母系親族若クハ父系親族相互間ノ婚姻ヲ嚴禁シ妻帯セントスル者ハ必ス之ヲ他族ヨリシテ得サル可ラスト爲シ嚴重ニ此ノ區別ヲ勵行スル也。而シテ族内婚姻制ハ實ニ亂婚ノ時代ニ多カル可キ形式ニシテ族外婚姻制ハ稍々進歩セルモノナリ。

右婚姻ノ二様式中家族ノ發達ニ關シテ重要ナルハ族外婚姻制ニシテ個別的婚姻ノ發生及發達ヲ助ケタルコト實ニ尠少ナラス、稍ヤ家族ト稱セララルルニ足ル可キモノハ此ノ族外婚姻アルカ爲メニ發生スルヲ得タリト見サル可ラス。若シ此ノ規則ナカリセハ今日ノ所謂家族制度ナルモノハ終ニ其ノ發生ヲ見ル無クシテ終リシヤモ未タ以テ知ル可ラサル也。<sup>(註一)</sup>蓋シ他族ヨリ得來リタル婦人ニ對シテ獨占

權ヲ行フコトハ團體内ノ一般ニ認容スル所ナル可ク個別的家族ハ容易ニ其ノ存立ノ餘地ヲ見出シ得タル可ケレハ也。<sup>(註二)</sup>

註一 Schmolter, Grundriss I. Bd. S. 236.

註二 Schäffle, Bau und Leben des Sozialkörpers II. Bd. S. 81.

族外婚姻ノ原因ニ關シテハ學說一致セス、一説ハ近親血族ノ婚姻ヲ以テ子女ノ身體上精神上ニ惡影響ヲ及ホスモノトシテ之ヲ禁止スルニ始マルト主張ス即チシユモーラー氏ハ近親者間ノ婚姻ヲ避クルノ風ハ漸次ニ發達セルモノナリト爲ス<sup>(註一)</sup>ギツヂン最モ古クヨリ存在シ寧ロ人類ノ天性ヨリ發露セルモノナリト爲ス<sup>(註二)</sup>グロツヂン氏ハ好奇心ト自然淘汰トノ保護ニ依リテ育成セラレタル遺傳的天性トシテ人ハ近親婚姻ヲ避クルモノナリト説明ス<sup>(註三)</sup>グロツシー氏亦曰ク族外婚姻制ノ原因ニ關シテハ子ハ父娘母子兄妹ノ如キ近親者ノ婚姻ニ依リテ生レタル子女ハ體質虛弱精神不完全ナルカ爲メニ之ヲ避ケントスルニ出テタルモノナリト爲ス舊キ學說ニ賛成セントスルモノナリ反對論者或ハ幼稚ナル原始人類ニハ斯ル進歩セル生理上ノ智識ナシト駁撃スレトモ原始人類ト雖トモ直接ニ利害休戚ヲ感スル問題ニ就キテハ相當ノ智識ハ之ヲ欠カサルヲ忘ル可ラスト<sup>(註三)</sup>モルガン氏ノ



見ル所モ之レト異ラス。

註一 Schmoller a. a. O. B. 236.

註二 遠藤氏譯社會學三三二頁。

註三 Grosse, die Formen d. Familie, S. 60 ff.

然ルニムツケー氏ハ全ク別途ノ觀察點ヨリ之ヲ説明シテ予ハ Familieト Eheトヲ截然區別シ前者ニ在リテハ使役關係ヲ後者ニ在リテハ夫婦關係ヲ表示スルモノト爲スカ故ニ此ノ問題ノ解決ハ甚タ困難ナラス即チ原始人ハ婚姻ハ血族間ニ於テモ之ヲ爲スヲ避ケサリシト雖トモ家族ノ關係ヲ取り結フコトハ之ヲ避ケタリ何トナレハ後者ニ在リテハ服從關係ヲ生スルモノナレハ同族中誰一人其ノ同族者ニ從屬スルヲ欲セサル可ケレハナリト(註一)

更ニグロツセー氏カ劣等農耕民間ニ行ハルル氏族ノ族外婚姻ニ就キテ下セル説明ハ純然經濟上ヨリシテ其ノ原因ヲ説カルトセルモノニシテ參考ニ資スルニ足ル可キモノアリ其ノ大槪ニ曰ク此ノ風俗ハ劣等農耕時代ニ入リテ初メテ行ハルルニハ非ス今少シク古キ起原ヲ有スルモノナレトモ最モ多ク其ノ發達維持ヲ助ケタルモノハ劣等農耕民ニシテ其ノ原因ハ全ク經濟上ノ理由ニ存ス即チ牧畜民

カ最モ尊重スル所ハ家畜ナルニ反シ農民ノ最モ尊重スル所ハ勞働力ニシテ團體ノ人員多ケレハ多キニ從テ其ノ勞働力増加シ從テ收穫ヲ増スコト明カナレハ親ハ子カ婚姻ヲ爲スニ當リテハ之ヲ他族ノ女ト結ハシメテ以テ一人ノ新來者ヲ氏族ニ加ヘント欲スル也而シテ此事ハ特ニ母權制ノ農民ニ取リテ然ル可キ所ニシテ娘ノ夫ヲシテ勞働ヲ供セシムルコトハ蓋シ大ナル利益ナルニ相違ナシ故ニ一言以テ之ヲ掩ヘハ氏族ノ外婚ハ經濟上有利ナル制度ナルカ故ニ之ヲ勵行スルニ過キスト(註二)

註一 Mucke, Horde u. Familie S. 115.

註二 Grosse a. a. O. S. 172 ff.

然レトモ近親者間ノ婚姻ヲ嚴禁スル原因ニ關スル最モ有力ナル説ハ右等ト越ヲ異ニシ野蠻蒙昧ノ劣等民族ハ血族婚姻カ齋ス可キ生理上ノ惡結果ニ付キテ洞察シ又其カ齋ス經濟上ノ利益ヲ智覺シ得ルニ足ルタケノ理性ヲ有スルモノニ非ス斯ノ如キハ先見ト考慮ト經驗ト認識トヲ要スル複雑ナル問題ニシテ智識發達セル開化民族ニシテ甫メテ之ヲ解シ得可ク原始人ハ決シテ之ヲ了解セルニ非スシテ然モ事實上血族ノ婚姻ヲ禁スルコト一般ノ風習ナルハ他ニ理由アツテ然ルモ



ノトセサル可ラスト主張ス。而シテ蠻族カ近親者延キテハ同一宗祖セリ出テタル者(若クハ出テタリト信セラルルモノ)ノ全體ノ間ノ相互ノ結婚ヲ禁シ族外婚姻ヲ勵行スル原因ニ付キテハラボック及ヒマクレナン氏ニ依リテ最モ痛快ナル説明ヲ試ミラレタリ。後者ハ蠻民一般ノ習俗ナル幼女殺害ノ結果男女數ノ不平均ヲ來シ其ノ平衡ヲ得セシムルカ爲メニ妻ハ之ヲ他族ヨリ取リシコトカ因襲ノ久シキ終ニ一定不動ノ規則トナリテ妻ハ總テ之ヲ他族ヨリ娶ル可キモノトセラルルニ至リ其手段トシテハ婦女ノ掠奪ヲ行フモノナリト説明シ、前者ハ之ト趣ヲ異ニシテ原始人ハ當初一般ニ團體婚姻ノ俗ニ在リテ一男ハ一女ヲ獨占スルヲ得サルヨリ終ニ捕獲等ノ方法ニ依リテ他族ヨリ女子ヲ得テ之ヲ獨占スルノ風ヲ生スルニ至リ個別婚姻ヲ行ハンカ爲メニ婦女子ノ掠奪ヲ行ヒ其ノ結果習ヒ則トナリテ族外婚姻ヲ勵行スルニ至レリト説明ス。我輩ハ兩說其何レヲ可トス可キカヲ知ラスト雖トモ族外婚姻ノ行ハルル所ニハ必ス掠奪婚姻ノ之ニ伴フ有リ掠奪ノ儀式行ハルル所ニハ必ス曾テ妻女掠奪實際ニ行ハレ掠奪實際ニ行ハルル所ニハ必ス同族者ノ婚姻ヲ禁シテ族外婚姻ヲ勵行スルヲ見ル。Celt 然リ羅馬ノ Plebians 然リ古代

印度ノ俗然リ其他 Rhonds, Fuegians, Kalmucks, Circusians 等一トシテ然ラサルナシ。惟フニ同族内部ノ婚姻ハ incest トシテ信仰的ニ嚴禁セラレ其ノ結果婚姻ハ之ヲ他族者トノ間ニ求メサル可ラサルコトトナリ之ヲ行フノ手段トシテ掠奪ヲ行ヒ其後暴力ニ依ル掠奪ハ世ノ開明ト共ニ漸次購買ト云フカ如キ平和的手段ヲ以テ代ラルルニ至レリト説明スルハ(註)最モ條理一貫セル説明ノ方法タルヲ失ハサル可シ。而シテ血族ノ婚姻カ齎ス惡結果ニ就キテ原始人カ之ヲ洞察スルノ明アリシヤ否ヤノ論争ニ至リテハ所詮水掛論ニ終ラサルヲ得ス。族外婚姻ヲ實行スル所ノ現存ノ蠻民ノ如キハ既ニヤヤ進化セルモノニシテ決シテ之ヲ原始人トシテ見ル可ラス。彼等カ同族婚姻ヲ incest トシテ排斥スルニ至レル迄ニハ可也。長キ年月ノ經驗ヲ經タルモノト云ハサル可ラサレハ現存ノ蠻民ニ關スル觀察ノミヲ以テ直チニ歸納的ニ此ノ問題ノ解決ヲ見出サントスルハ誤謬ニ陥ルヲ免レ難シ。

註 Fritz Beroelheimer, Philosophie des Vermögens S. 173—177—Die Vorstellungswelt, aus welcher die Gruppenethik erwächst, ist eine religiös-mitische. Der Totemismus—Regelirerscheinung des Totemismus ist die Exogamie. Der Begriff der Blutschande geht infolge des Totemglaubens soweit, dass jede Geschlechtverbindung innerhalb des gesamten Familienverbandes als incestus erscheint; Die Frau muss von aussen geholt werden.—Die Frau wird gemüht: Raubhe—Die Raub-



ehe schwücht sich weiterhin zur Kaufehe ab; mehrfache Raubsymbole ragen noch lange Zeit in die Epoche der Kaufehe hinein.

要スルニ同族内ノ婚姻カ Incest トシテ禁セラレルニ至レル源因カ天啓ノ洞察ニ在ルニセヨ女子ノ缺乏ニ在ルニセヨ將又團體婚姻ノ行ハルルカ爲メニ獨占ヲ得サルノ欠ヲ補フニ在ルニセヨ兎モ角モ掠奪婚姻若クハ賣買婚姻(註)ニ依ル族外婚姻カ家族制度ノ發達ノ上ニ及ホセル影響ノ甚大ナル實ニ計リ知リ難キモノアル也。

註 掠奪婚姻及ヒ賣買婚姻ニ就キテハ京都法學會雜誌第三卷第七號ニ詳論シ置キタレハ就テ參照アリタシ。

## 第貳篇 氏族制度

前篇ニ於テ詳論セルカ如ク人類原始ノ生活狀態ハ居住地方ノ經濟條件ノ異ルニ從ヒテ其趣ヲ異ニス。從テ家族制度ノ如キモ或ル地方ニ於テハ團體婚姻ノ制度行ハレテ殆ント緊密ナル家族の結合ヲ欠キ、又或地方ニ住スルモノニ在リテハ男女ノ一對的結合ヲ以テ成ル個別的ノ婚姻行ハレテ之ヲ基礎トスル個別的ノ家族組織ヲ見ルノ有様ナリ。而シテ多數ノ學者ハ團體婚姻ト云フカ如キ亂婚ノ狀態カ曾テ人類ノ歴史ヲ汚シタリト云フニハ何等十分ナル證據無シトシテ之レヲ否定シ個別的ノ家族制度ハ原始時代ヨリシテ普テ人類ノ社會生活ヲ組立テタリト主張ス。グロッセー氏ノ如キハ文化ノ最下底ニ在ル劣等及ヒ高等漁獵民ノ家族生活モ總テ此ノ個別的家族組織ニ依ルヲ痛論セリ。甚而シテ是等ノ個別的家族組織ハ或モノハ元ヨリ夫レ自體一個獨立ノ存在ヲ有シタリト雖トモ多數民族ノ實例ニ就キテ見レハ多クハ氏族ナル大組織ノ下ニ包含セラレ恰モ其ノ下級組織トシテ存在シ各人ハ家族ヲ組織スルト同時ニ多數家族相集リテ一氏族ヲ組織シ以テ生



存競争上ノ諸條件ヲ充シ來リタルヲ知ルニ足ル也。是レ然シ乍ラ原則トシテ永續性ヲ欠クカ如キ脆弱ナル個別家族ト云フ小團體ヲ以テシテハ自然界及ヒ競争ヨリ來ル生存上諸多ノ危難ニ對抗シ得可カラス苟モ同一祖宗ヨリ出テ親族タルノ知覺ト傳説トヲ有スルモノハ多數相結ヒテ以テ此ノ危難ニ對抗シ其他他氏族若クハ他部落ニ對スル一切ノ交通、賣買、取引、復讐、賠償等ニ就キテ氏族ノ名ヲ以テ共同ニ之ヲ行ヒ、又食料ノ獲取採集ヤ進ミテハ經濟貨物ノ生産ヲモ共同ニ之ヲ營ムノ必要ト便宜トヲ有シタルニ因ラスンハ非サル也。サレハグロツセー氏カ劣等及ヒ優等農耕民トシテ上ケタルモノニ就キテ其ノ家族生活ノ状態ヲ檢スレハ個別的家族ハ殆ント影ヲ潛メテ氏族制度ノミ獨リ生活上ノ組織タルノ實狀ヲ呈スルヲ見ル也。

註 Pösch, Lehrbuch der Nationalökonomie I. Bd. S. 146 ff.—Phantastische Schriftsteller (Spencer, Lubbock, Morgan u. a.) haben gar mancherlei von den ganz oder halbierischen Zuständen der Urnenmenschen zu erzählen gewusst, von den ungezählten Jahrtausenden, die zwischen uns und jenen Tagen liegen, wo die Menschen, wie heute die Zedellen, die Elephanten, die Affen und andere Tiergattungen, in grösseren oder kleineren Herden oder Horden umherschweiften. Statt die Ehe he-rsche da die vollste Ungebundenheit, "Promiskuität" der geschlechtlichen Vermischung, der vagus concubitus. Die Geschichte weist davon allerdings nichts, nicht einmal das Beispiel einer einzigen Nation ist nachgewiesen worden, in der wir-

Kirche Promiskuität des Geschlechtsverkehrs als erkannte gesellschaftliche Einrichtung bestanden hat.

Grosse, a. a. O. S. 42.

然ラハ氏族制度トハ如何ナルモノソト見ルニ前ニ定義ヲ上ケタル折ニ説明シタルカ如ク云ハハ血統全體ヲ包含スル所ノ團結ニシテ多數家族ノ結合體トモ見ルヲ得可キモノナリ(註)サレハ元來同血ト云フ觀念ニ基ク自然の組織ナレトモ又一方ニ在リテハ同一氏名ヲ保持シ血族婚姻ヲ禁シ血統ヲ統一スルノ必要ヨリ來ル便宜的人爲制度タラスンハ非ス。殊ニ氏族カ先ニ云ヘルカ如キ生存上ノ職分ヲ有スル場合ニ在リテハ其ノ組織ハ益々人工的ニシテ民族ヲ異ニシ地方ノ事情ヲ異ニスルニ從ヒテ其ノ榮枯盛衰モ同一ナラス、其ノ最モ好ク發達セルモノニアリテハ住居上其他一般經濟上ノ共同團體タリ更ニ進ンテハ行政的組織タルニ至レルモノスラ之レ有ルナリ。請フ吾輩ヲシテ其ノ組織狀態、職分ノ一般并ヒニ其ノ崩解ノ原因等ニ就キテ説カシメヨ。而シテ我カ日本ノ氏族制度ハ最モ發達セルモノニシテ一ノ典型ト爲スニ足ルモノナレハ特ニ一章ヲ設ケテ之ヲ叙シ之ヲ論セシメヨ。



### 第壹章 氏族制度ノ構成及ヒ職分

氏族ノ組織ハ元來氏族ナルモノカ血縁ヲ基トスル自然的ノ組織ナルノ點ヨリシテ其ノ血統ヲ母系ニ依リテ踪蹤スルト父系ニ依リテ定ムルトニヨリテ母系氏族ト父系氏族トノ二様式ヲ有スル也。而シテ此ノ兩者ノ關係ニ就キテハ色々説アレトモ原始時代ニハ母系制廣ク行ハレ文化ノ開明ト共ニ漸次父系制ニ依リテ取テ代ラレタリト爲スヲ以テ理ニ近シトセサル可ラサルニ似タリ。

母系氏族 共同婚姻ノ行ハルル團體ニ在リテハ氏女ハ總テ其團體ニ屬シ特別ノ父若クハ母ニ從屬スルコト無カル可キハ自然ノ理ナレトモ文化稍々進ミテ個別の婚姻ノ行ハルル所ニ在リテモ子女カ父母双方ニ屬ストセララルハ寧ロ後代ノ發達ニ係リ未タ原始狀態ヲ遠ク去ラサル民族ニ在リテハ前既ニ之ヲ述ヘタルカ如ク夫婦ノ關係個別的ナルニ拘ラス其ノ結合脆弱ナルカ故ニ父子ノ關係モ從テ密ナルヲ得ス子女ハ現ニ其腹ヲ痛メ其血ヲ分チタル母ニノミ屬ス可キモノトセララルヲ常トスサレハ母系ノ制ヲ有スルモノニ在リテハ相續ハ子ニ傳ハラス

シテ姉妹ノ子即チ甥ニ傳ハルヲ例トス蓋シ父子血縁ハ之ヲ知ルニ難キモ自己ト同腹ナル姉妹ノ腹ヨリ出タル甥カ自己ノ親族ナルコトト男子トシテハ最も自己ニ血縁近キモノナルコトトハ之ヲ認知スルコト甚タ容易ナレハナリ。從テ母系制ノ行ハルル所ニテハ母方ノ伯叔父ノ權力ハ極メテ強大ニシテ子女ノ監督其他一家一切ノ經理ニ任スルモノ少ナカラス其狀恰モ父系氏族ノ父カ子ニ對スルト異ラサルモノアルナリ。

ギニアニテハ富者死スレハ其ノ財産ハ之ヲ血族タルノ故ヲ以テ姉妹ノ子ニ傳フ(Lagosノ町ハ先王ノ甥ニ當ル四人ノ男子ニ依リテ支配セララル中央亞弗利加ノ種族ニ就キテ見ルモ王位ハ一家ノ世襲ニシテ常ニ叔甥相承ク之レ王統ヲ絶タサル最モ安全ナル而シテ合理的ナル方法トセララルヲ以テナリ又南亞弗利加ニ於ケル Orange Valleyノ Bangalaモ姉妹ノ子女ハ其ノ伯叔父ニ屬シ之等ハ其ノ負債ヲ償却センカ爲メニ甥ヲ賣却スルコト稀ナラス Kanji亦然リ北亞弗利加ニテハ Barber 人此ノ俗ヲ有シコンゴーマダカスカルニモ此ノ習俗行ハル其他一般ニ北亞弗利加ノ印度人ハ母系制ニ依リ男子ハ其ノ姉妹ノ家ノ長タルヲ常トスボリネシア濠太利ニモ此ノ制度ヲ見ル——Tuhia

母系ノ制ハ文化極メテ劣等ニシテ經濟組織ノ甚タ幼稚ナルモノニモ之ヲ見ルヲ得可シト雖トモ之ノ制度ニ依リテ構成サレタル氏族組織ニ至リテハ農耕ノ俗ニ入レル種族間ニ最も汎ク行ハレ農耕民ノ氏族制度ト云ヘハ大抵母系制ニ依レル



ノ觀アリ、然ラハ何故ニ農耕ノ俗ト母系制ノ氏族制度トカ相伴フカニ就キテ考フルニ之レ必竟農耕ト云フ經濟形態ノ本質ニ歸因スルモノニシテ狩獵牧畜カ強力ヲ要シ勇敢ヲ尊フ男子的業務ナルニ反シ植物ノ採培ヲ之レ事トスル農耕ハ平和ナル女性的業務ナルノ結果古來男女間ニ行ハレタル分業ハ女子ヲシテ専ラ農耕ノ事ニ當ラシメタルニ因ルモノナリ『女子ハ農耕ヲ發明セリ』トハ千古ノ金言ニシテ農耕ノ業タル素ト女子カ草根木皮ヲ採取シタルヨリ發達セルモノナルヤ疑無ク女子カ専ラ農耕ノ業ニ當リ荒蕪ノ地ヲ化シテ肥沃ノ土タラシメシ結果ハ女子ヲシテ漸次ニ土地ニ對スル權利ヲ取得セシメ此ニ女子ノ土地ノ上ニ母系的氏族制度ヲ發達セシメ終ニ生活上ノ共同團體タルマテニ至ラシメシ也。

母權的氏族 母系制ハ右述フルカ如ク劣等民族間ニ稍々廣ク行ハルル所ナリト雖トモ其ノ行ハルル所必スシモ母權制ヲ見ルニ非ス母權制ナルモノハ社會進化論者カ抱懷スルカ如クニ廣ク行ハルルモノニハ非サル也。惟フニ血統關係ト權力關係トハ截然區別ス可キモノニシテ前者ハ天然ノ血縁テフ事實ヲ基礎トシ後者ハ之レト全ク獨立ナル歴史の基礎ノ上ニ立ツモノナリ、從テ前者ハ子女後裔カ

族名稱號地位持權者ニ就キテ母ヲ繼承スルノ謂ニ過キスシテ權力的支配ノ觀念ヲ包含セス。サレハ血統ハ母系ニ依リ乍ラ權力ヲ掌握スルモノハ男子ニシテ或ハ非常ノ壓制ヲ試ミ或ハ權力ヲ濫用スルモノ決シテ其例ニ乏シカラス。

註 中央亞米利加ノ Cariben 南亞米利加北部ノ或ル地方ナリ。コノ母系印度人ホリネシアノ南ニ Britain 等ニ就キテ見ルニ血統ハ母系ニ依ルニ拘ラス婦人ハ男子ノ所有物ニシテ男子ハ之ニ對シ生殺與奪ノ權ヲ有ス——Zanker, Die Gesellschaft I. Bd. S. 100 ff. Mucke, Horde und Familie S. 126; Gailig, Sociology; Grosse a. a. O. S. 160—164.

然レトモ例外トシテハ母系制ト併セテ母權制ノ行ハルル所ナキニ非ス其ノ氏族制度ハ全然母權ニ依リテ構成セララルモノモ之レ有リ。

註 Thronen, Irokesen ニ在リテハ土地ハ總テ女子ニ屬シ收穫物亦之ニ歸屬ス氏族ノ支配ノ地位ニ立ツ婦人ハ宣戰講和ノ全權ヲ有シ財產ヲ管理シ奴隸ヲ使役シ子女モ全然其ノ治下ニ立ツ殊ニ「プローチン」ニ在リテハ各氏族ハ四人ノ婦人ヨリ成レル參事會ヲ有シ其婦人ハ一人ノ男子ヲ選ヒテ首長ト爲シ各氏族ニ於ケル此ノ兩機關相集リテ大參事會ヲ作り全部落ニ關スル事務ヲ處理ス、之ト同様ノ制度ガロス間ニモ行ハレ男子ハ女子ニ從屬シテ困難ナル勞働及ヒ戰爭ニ從事シ他ノ重要ナル職務ハ總テ婦人ノ手中ニ在リ Kochノ制度モ亦頗ル之ニ類似シ夫ハ妻ノ母ノ氏族ニ從屬ス Maritoni ニモ斯ル母權制ノ形骸存在スレトモ女子ハ既ニ全權ヲ有スルコト無ク氏族ノ首長ハ男子ナリ、サレトモ其妻ハ依然トシテ強大ノ勢力ヲ有ス Davak ニ在リテハ公權私權共ニ純粹ニ男女同權ニシテ男子ヨリモ遙カニ敏腕ナル巾幗政治家アリ (Mackay) Tesノ Injingsen 及 Makasaruノ女子ノ地位モオサレ之等ニ劣ラス女子ハ萬事ニ干渉シ公事ニ



關シテモ屢々男子ノ商議ニ與リ選舉王制ノ行ハルル所ニ在リテハ王位ニ上ケララルコトス

注意ス可キハ總テ母權制ノ行ハルル氏族ノ下ニ在ル家族ニ在リテハ同シク妻ノ權力強大ナルコト之ニシテ多數種族ノ例ニ付キテ見ルニ母系制ノミ行ハレテ母權ノ行ハレサル氏族ノ下ニ立ツ家族ニ在リテハヤハリ男子ノ權力ハ強大ニシテ妻ノ地位ハ下劣ナリトス。

註

Hirouhen, Irokesen ニ在リテハ主婦ハ家族ニ關スル全權ヲ掌握シ財產ハ總テ之ニ屬シ相續ハ年長ノ女子之ヲ爲シ主婦ハ娘等ノ品行ヲ監督シ婚姻ノ同意權ヲ有ス娘ヲ得ントスル男子ハ主婦ニ贈物ヲ爲ササル可ラス Gardsノ狀態マダ略ホ之ニ同ジク男子ハ愛情ニ富メル配偶者トシテ妻ヲ愛リ之ヲ敬ス寡婦ハ依然トシテ主婦ノ地位ニ立チ娘ノ夫ハ之ヲ姻母トシテ尊敬スル而已ナラス又妻トシテ其ノ事實ヲ表章セサル可ラス Nicobaren 人モ妻ノ家族ニ入り婦人ノ力能ク男子間ノ紛争ヲ和解スルニ足リ腕力ニ於テモ優ニ男子ノ亂暴ヲ制スルニ足ル者アリト云フ Dayak 人亦妻ノ家ニ入レトモ其ノ財產ニ對シテハ何等ノ容喙權ヲ有セス妻ハ些細ノ事由ニ依リテ夫ヲ離縁スルコトヲ得可シ Morinenノ婦人モ男子以上ノ權力ヲ有シ血統ハ總テ母系ニ依リテ定メラレ妻ニ罪科アレハ夫ハ之ニ連坐ス妻姦通スレハ夫ハ其ノ財產ヲ留置シテ妻ヲ放逐シ相手方ヲ誅戮スルヲ得レトモ若シ夫姦通シ又ハ其疑アルニ於テハ其境置ハ更ニ憐ム可キモノ有リ即チ近在ノ婦人悉ク集リ來リテ之ヲ處罰シ財產ヲ破壊ス夫死スレハ其ノ財產ハ妻ノ有トナレトモ妻死スレハ其ノ子女又ハ近親者之ヲ相續ス以上ト反對ニ婦人ニシテ氏族ニ於テ權力ヲ享有スルコト無カラシカ家族ニ於テモ何等特別

ノ權利ヲ保有スルコト無シ尤モ母系制ノ行ハルル所ニ在リテハ幾分カ優遇ヲ被レトモ決シテ之カ爲メニ其ノ法律上ノ地位ヲ高ムルコト無シ Kol 人ノ如キハ妻ヲ好同伴ト看做シ重大事件ハ之ト商議スルノ風習アレトモ妻ハ財產ヲ所有スルコト無ク娘ハ父ノ死後遺產トシテ取扱ハレ兄弟間ニ分與セラル Beren Konumaニ在リテハ婦人ハ大ニ尊重セラレ系統相續共ニ母系ニ依レトモ然カモ何等ノ私權ヲ享有スルコト無シ Menusien Archipel ニモ母系制行ハル然シ家長ハ男子ニシテ支配權ヲ有シ夫ハ妻ヲ父ノ家ニ連レ歸ル妻ノ姦通ハ死ヲ以テ罰セラルルニ度シ夫ハ隨意ニ妻ヲ他人ニ貸與スルヲ得ニ三島ノ婦人ノ境涯ハ最モ憐ム可キモノニシテ母權ノ行ハルルト云フニ梅ヲス婦人ハ寺院ニ參詣シ又ハ多量ノ食物ヲ取ルヲ禁セラレ全然其人所有ノ家畜タルノ觀アリ終ニ其ノ辛働ニ堪エ得スシテ自ラ吊首スル者多シト云フ (Grosve, n.a. O. S. 178—181.)

父系及ヒ父權氏族 母系ノ俗ハ廣ク行ハルル所ナリトハ云ヘ婚姻ノコトカ稍々尊重セラレ家族ノ組織緊固ヲ加ヘテ家屬相互ノ愛情濃厚ナルニ至レハ叔甥相

承クルノ風ハ甚シク人情ニ叶ハサルニ至リ父ハ我子ヲ確認スルヲ得テ愛スル此者ニ後ヲ讓ラントシ子モ亦乃父ノ後ニ立タント希フニ至ルハ自然ナリ茲ニ於テカ母系制ハ漸次母系制ヲ推移シ始メタリ。

然リ父系制カ漸次母系制ヲ壓倒セシハ事實ナリ然レトモ此ノ事實ヨリシテ直チニ前者ハ後者ヨリモ古キ存在ヲ有スト爲スハ必スシモ正當ナラズ或ハ前者ヲ欠



キテ後者獨リ存在シ若クハ又兩者カ同時ニ併存スルコトアルヲ忘ル可ラス。母系制ニ於テ母子ノ親族關係ノミカ承認セラレテ父子ノ關係カ認知セラレサルカ如ク父系制ニ在リテモ其ノ原始的ナルモノニ至リテハ父子ノ親子關係ノミラ認メテ母子ノ關係ヲ否認スルモノモ無キニ非ス(註)然レトモ之レ寧ロ人爲的ニラルモノ多クシテ母系制ノ場合ニ於ケルカ如ク自然的ニ親子ノ關係カ認知セラレサリシ場合アルカ爲メニハ非サル也。サレハ父系制ニ在リテハ父子ノ關係ヲ認ムルト同時ニ母子ノ關係ヲモ併セ認ムルヲ例ト爲ス。

註

アカメムノソノ妻グリテムネストヲ其夫ヲ殺シタルノ故ヲ以テ其子オレステスハ父ノ仇ヲ讎イン爲メニ母ヲ殺セリ此ニ於テ血族ノ血ヲ流シタル者ヲ處野スルヲ以テ役目トスルエリニエスハ其ノ法廷ニオレステスヲ召喚シテ之ヲ審判セリ被告ハ之ニ抗辯シテ曰ク諸神ハ何故ニアガメムノソノ殺害ノ故ヲ以テグリテムネストヲ罰セサルヤ法官答ヘテ曰ク加害者ハ被害者ノ血族ニ有ラサレハ也。She was not the kindred of the man whom she slew. トオレステス殺チ曰ク然ラハ其ノ同一法則ニ依リテ諸神ハ又予ニ一指ヲモ觸ルルヲ得ス如何トナレハ子ハ父ノ親族ニシテ母ノ親族ニ非レハ也ト此ノ見解ハ今代ノ目ヨリ見レハ甚々奇怪ナルモノナレトモ尙ホ能クアボロ及ヒミネルフアノ賛同ヲ得テ諸神ノ大多數ノ容ルル所トナリタリ。

氏族ノ大多數ニ就キテ見レハ母系血統及ヒ母系ノ相續法ヲ有スルモノト雖トモ大抵男子ノ支配權ノ下ニ立チ所謂父權制ハ最モ廣ク行ハルル所ナリ學者多ク

ハ母權の母系制ヲ以テ原始ノ氏族制度ト爲シ父權の母系制之ニ次テ起リ前者ハ後者ノ前身ナリト説明スレトモ恐クハ誤レリ之ヲ實例ノ示ス所ニ徵スルモ母權的組織ニ次イテ直チニ父系制ノ行ハルルモノ少カラス。要スルニ母系制ナルモノハ唯タ血統關係ヲ定ムルニ過キスシテ必然的ニ母權制ヲ伴フモノニ非サルコト既述ノ如シトセハ父權の母系制ハ新シキ組織ニシテ原則タリ母權の母系制ハ古キ形式ニシテ例外タリト爲スモ敢テ咎ム可キニ非サレトモ寧ロ父權的母系制ト母權的母系制トハ種族ノ異ルニ從テ時ヲ同クシテモ存在シ必スシモ時代ノ前後アルニ非ス前者ハ原則ニシテ後者ハ例外ナリト爲スニ若カサル也。

最後ニ氏族制度ノ職分ニ就テ一言スレハ氏族ニ所屬スル者ハ共同ノ神ヲ祭リ同一ノ祖先ヲ崇拜シ(註)墓所ヲ共ニシ氏族ノ名ハ多ク動物植物地方若クハ祖先ノ名ヲ以テ之ヲ呼ビ困難襲撃等ニ會シテハ氏族舉リテ防禦救助ヲ共ニスル而已ナラス氏族ノ一員ニ對スル殺傷等ニ關シテハ氏族ハ即チ氏族ノ名ニ於テ之カ賠償ヲ求メ若クハ復讐(註)ニヲ爲ス從テ氏族ノ所屬員ノ犯セル不法行爲ニ對シテハ氏族全體ニ於テ其責ヲ負擔スルヲ例トナス也又多數氏族ヨリ成レル種族ノ饗宴等



ノ場合ニ際シテハ各氏族々々ニ於テ共同ノ遊戯舞蹈ヲ爲シ祭祀モ戰爭モ多クハ此例ニ倣ヘリ。而シテ經濟上ノ業務ハ氏族内部ニ於テ共同ニ之ヲ爲スコト有リ又各人順番ヲ定メテ之ヲ營ムトアレトモ生計上ノ業務ハ一個人若クハ少數ノ母系屬ニ一任スルヲ常ト爲ス。家屋ハ一氏族カ之ヲ共有スル場合多ク其家ハ優ニ四十人乃至五百人ヲ容ルルニ足ルモノ有リ。獵區モ大底一氏族毎ニ分配セラレ耕地亦通例氏族ノ共有ニシテ共同ニ之ヲ耕作ス。其他祭場、客舍、青年ノ演武場等モ總テ氏族ノ共有ニシテ食事スラ共同ニ之ヲ爲スモノ少カラスシテリクルグスノスバルタニ於テ見ルカ如キ事例ハ氏族制度ニハ寧ろ普通ナリ。氏族ハ又青年ノ後見ノ任ニ當リ女子ノ婚姻ニ干涉シ或ルモノニ至リテハ所屬各員ノ所有スル動産ニ對シテ相續權ヲ領有スルモノ有リ。商賣ノコト亦氏族ノ手ニ依リテ行ハルルコト尠カラス。

註一 穂積博士ノ祖先祭祀論ニ曰ク大古草昧ノ時代ニ於テ始メテ人類ナシテ共同生活ニ入りシメシ第一原因ヲ爲スモノハ血統關係ナルヲ疑ナケレトモ然モ變人ニ在リテハ血縁者間ノ愛情ナルモノハ極メテ狭キ範圍内ニ行ハレタルニ過キサル可ケレハ此ノ以外ニ尙ホ他ノ要素ノ來リテ之ヲ助ケル莫カリセハ終ニ克ク其ノ結合ヲシテ堅固ニ且ツ永續的ナラシムル能ルノ主義即チ之ナリ——Zanzer, Die Gesellschaft, I. Bd. S. 97 ff.

ハサリシヤ必セリ然ラハ他ノ一要素トハ何ソヤ祖先崇拜之ナリ、ケニヤ共同ノ祖先ヲ禮拜シ之ニ附隨シテ幾多ノ禮拜ノ儀式ヲ行フコトハ動モスレハ分散離放セントスル血縁者ヲ結合シテ更ニ緊密ナル相互關係ノ自覺ヲ新ニスルヲ得セシメ相倚リ相助ケルノ情ヲ熾ナラシメシヤ明カナリト——Einfluss des Ahnenkultus auf das Japanische Recht, S. 5 ff.

註二 血縁ノ智覺ヲ堅固ナラシムルニ最モ大ナル力ヲ有スルモノハ復讐 Mithradie ナリ蓋シ變人ニ取リテハ血ハカリ神聖ナルモノハ無ク人生ノ纏綿ハ總テ血ニ依リテ結ハレ生存ノ謎語ハ總テ血ニ依リテ釋カレト爲ス、サレハ一人ニ依リテ濃カレタル血ハ同族全體ノ血ナレハ宜シク全體ノ血ヲ以テ離ヒラレサル可ラス眼ニ報ニ眼ヲ以テシ齒ニ離ユルニ齒ヲ以テスルノ主義即チ之ナリ——Zanzer, Die Gesellschaft, I. Bd. S. 97 ff.

尙ホ氏族制度ノ職分ノ詳細ニ至リテハ次章各種民族ノ氏族制度ヲ論述スル所ニ於テ之ヲ明カニスルアラント欲ス。

## 第貳章 各種民族ノ氏族制度

經濟組織發展ノ階段ヲ分ツ可キ方法ハ種々アル可シト雖トモ今假リニグロツセ  
 Ⅱ氏ニ從テ之ヲ五階段ニ分類シ(註其ノ各階級ニ於ケル該民族ノ氏族制度ノ構成  
 及ヒ職分ニ就キテ觀察スル所アラントス。

註 福田博士著國民經濟原論第一卷總論上冊八一頁以下并ヒニ京都法學會雜誌第一卷第十一



號以下連載拙著『家族ノ形態ト經濟ノ形態』參照

文化ノ最モ幼稚ナリトセララルル劣等漁獵民族ニ在リテハ既ニ氏族制度ヲ有スルモノ尠カラズ中央カリホルニア人ハ一氏族ヲ爲セル血族相集リテ一住屋内ニ生活シ(Squad)ノ如キハ二十人乃至三十人ノ血族ヲ含容スル小舎ニ住シ各舎一酋長ヲ戴キ多數ノ小舎集リテ一村ヲ爲スサレハ其ノ氏族制度ハ已ニ地方的ノモノニアラスシテ共產的ノモノタルナリ其他グリーンランド人ノ村落團體モ一氏族ニシテ濠太利モ氏族制度ヲ有シ各民族ハ動植物ナル『トートテム』ヲ奉持セリ次ニ高等漁獵民ニアリテモ實際ノ生活團體ヲ爲スモノハ父系的氏族ナルカ如シ是等劣等民族間ニ於ケル氏族制度ハ漸次其ノ職分ヲ増シ共同經濟體ヨリ化シテ政治的團體タラントスルノ傾向無キニ非サレトモ此ノ傾向タルヤ常ニ食料ノ不足ト云フ事實ノ爲メニ妨ケラレテ其ノ目的ヲ達シ得サルコト劣等高等漁獵民共ニ同シキ所ナリ然レトモ高等漁獵民ニアリテハ食料ハ前者ヨリモ遙ニ豐饒ナルモノ有ルカ故ニ可也裕カニ多數者ヨリ成レル團體ヲ養フニ足リ團體ハ漸次擴大シテ勞働ノ分業組織ヲ生シ外部ニ對シテハ仇敵ニ對スル戰鬪力ヲ増加セリ從

テ高等漁獵民ノ氏族制度ハ地方的ニシテ政治的ナルト同時ニ又經濟的ナル共同團體ニ變化スルニ足ル可キ十分ナル傾向ヲ有ストセサル可ラサル也然リト雖トモ之ヲ大多數ノ實例ニ徵スレハ是等民族間ニ於ケル母系氏族ノ職分ハ血族間ノ婚姻ヲ禁止スル位ノコトニ止リ其他ニ重要ナル職分ヲ有スルモノ少シ唯タPlen-氏族ノ母系氏族ハ其ノ内部ニ於テ戰鬪ヲ開クヲ得ストセラレ又同一氏族ノモノハ相互ニ復讐ノ義務ヲ負ントセラルルカ如キモノモ無キニ非ス而シテ總テ一家若クハ一村内ニ共同生活ヲ營ム血族ハ先ツ第一ノ意味ニ於テハ防禦的團體タルニ過キサレトモ時ニ掠奪的團體タルコト有リ而シテ其カ果シテ生産的共同團體ナルヤ否ヤハ詳カナラサレトモ狩獵漁撈ニ當リテハ堪能ナル一支配者ノ指揮ノ下ニ團體カ共同ニ之ヲ爲スハ疑ナキ所ナルカ如シ牧畜民ノ血統ニ關スル觀念ハ甚ク微弱ナルモノニシテ大團體的ナル氏族組織ト云フカ如キハ彼等ノ多ク相關知セサル所ナリ乍然由來掠奪強盜ヲ以テ神聖ノ職務ト爲ス程ノモノナレハ之カ防禦ニ備フルカ爲ニハサスカニ大團體ヲ組織スルノ必要ナキニ非ス從テ常ニ掠奪ノ危險ニ在ル Tungusen ノ如キニ在リテハ堅固ナ



ル氏族制度存在シ中央亞細亞人モ亦氏族 Druk ヲ組織シテ首長ヲ戴ク、其他平時ニ在リテハ大家族ヲ以テ生活ノ團體ト爲シ其ノ家長共カ會合シテ防禦ノ畫策訴訟ノ判決等ノ事務ニ任シ一朝有事ノ日ニハ各家族集合シテ一團體ヲ形造ルモノ尠カラス。

右ノ如ク牧畜民ノ氏族制度ハ外敵ニ拮抗スルノ必要ニ迫ラレテ形成セラレタル攻守同盟的團體ナレハ防守攻撃ノコトハ云フモ更ナリ他族ニ對スル賠償ノ要求若クハ其支拂ノ如キモ氏族ノ名ニ於テセラルル例ト爲ス、然レトモ此ノ團體ハ決シテ緊密堅固ナルモノニハ非スシテ之レヲ組織スル各家ハ各自獨立ノ存在ヲ有シ又獨立的ニ生活ヲ營ムナリ、土地ハ氏族ノ共有ニシテ其ノ使用收益權ハ氏族ノ長ニ依リテ各家族ニ分授セラルト雖トモ元來牧畜民ニ取リテハ土地ハ餘リ尊重ニ値スルモノニ非ス貴フヘキハ家畜ナリ而シテ其ノ家畜ニシテ私有ナル限リハ土地ノ共有ト云フコトハ甚タ氏族ノ團結ヲ強クスルモノニハ非サルナリ、尙ホ牧畜民ノ父系氏族ハ婚姻ノコトニ關シテモ重大ナル働ヲ爲スモノニ非ス近親者間ノ婚姻ハ元ヨリ之ヲ避クレトモ廣ク其ノ禁止ヲ氏族ノ全範圍ニ及ホスカ如キ

ハ稀ナリ、但シ皆無ニハ非ス北方亞細亞ノ Kalmyken, Jakuten, Samoyeden, Ostigen, Somali, Kofern ノ如キ之レナリ。

次ニ劣等農耕民ニ至リテハ生活團體トシテ最も重要ナル地位ヲ占ムルモノハ氏族組織ニシテ幾多ノ社會的團體ニ分屬ス可キ職分ヲ一手ニ專有スルノ觀アリテ完全ナル意味ニ於ケル生活上ノ共同團體タリ、就中最モ顯著ナルモノヨリ叙フレハ Menangkabau ノ馬來人ハ母系氏族ナル『サク』内ニ生活シ一村内ニハ數多ノ『サク』アリ各々一定地域ニ居住シ總テ一母腹ヨリ出テタル者全體ヲ包容シ結婚セル女子モ依然トシテ母ノ氏族内ニ留リ新家族ノ爲メニハ氏族ノ共有家屋中ニ一室ヲ増築ス斯クテ『サク』餘リニ多人數トナレハ別レテ二家ト成ル氏族ハ最年長ノ男子タル首長ニ依リテ支配セラレ團結極メテ堅固ナリ『サク』ノ財產ハ家屋及ヒ土地ニシテ素ヨリ共有ナリ又『サク』内部ノ婚姻ヲ許サヌ一村ノ各氏族間ニ『エキソガミ』ヲ勵行シ各氏族相互間ノ地位ハ平等ナリ、他ノ馬來人ハ多ク父系ノ氏族制度ヲ有シ Batak ノ父系氏族ハ一村二個ヨリ成リ一ハ他ノ上級ニ立チ其ノ長ハ同時ニ村ノ長タリ Nias 亦一家屋内ニ多數ノ家族同様シ Bern 及ヒ Cerum ノ Alifuru ノ



父系氏族ハ花嫁ノ代價ヲ共同ニ受領シ又支辨ス從テ嫁ハ氏族ノ財産ヲ爲シ其ノ死後ハ氏族ノ男子ハ何レモ之ニ求婚スルヲ得レトモ最近者ニ特權アルカ故ニ大抵亡夫ノ長兄ノ有ニ歸ス Minahasa ノ Alfuren ノ父系氏族亦同一家屋内ニ同棲シ一家三百人ニ及フモノ有リ土地ハ氏族ノ共有ニシテ首長ハ氏族内ノ各人ニ對シ毎年其ノ持分ヲ定メ又勞働交替ノ規律ヲ爲ス Dayak ニハ母系氏族制行ハレ一家ノ人員五百人ニ達スルコトアリ。

南亞細亞大陸ニテハ Assam ノ Guro ノ家ヲ『マハリー』ト稱シ内部ノ婚姻ヲ禁シ子女ハ母ノ家ニ屬ス首長ノ選舉ハ婦人ノ意思ニ繫カル Santal ノ氏族ハ土地ヲ共有シ經濟總テ共同ナリ。

Melanesien ニテハ Viti 島ノ氏族組織カ村落團體ヲ爲シ族外婚姻モ行ハレ子女ハ母ノ親族トセラレ相續ハ妹ノ子ニ傳ハル、サレトモ子ニシテ介殼ヨリ成レル貨幣及ヒ家ノ類ヲ以テ賠償ヲ爲スニ於テハ父ノ遺産ヲ相續スルヲ得可シ土地ハ氏族ノ共有ニシテ各人ハ唯々其上ニ終生ノ用益權ヲ有スルニ過キササルニ似タリ Florida ニ在リテハ所有權ハ氏族ニ屬シ相續ハ母系ニ依ル、 Mikronesien 特ニ Norfolk 島ニ在

リテハ氏族制度最モ能ク行ハレ一村ハ母系ノ親族團體ヨリ成リ其ノ首長ヲ『ソモール』ト呼ビ男子ハ大家屋ノ内ニ首長ト共ニ起臥シ女子ハ其ノ周圍ニ在ル數多ノ小舎ノ中ニ在リ而シテ之ヲ妻トスル男子ニシテ其ノ氏族ニ屬セサルモノハ此ノ小舎中ニ妻ト同棲ス、 Neuseeland 及 Zimbar 島ニモ能ク氏族制度保存セラレ Maori ノ母系氏族ヲ『ハプー』ト稱シ母系ニ依リテ相續ヲ爲シ土地ハ共同ニ之ヲ耕作ス、サモアノ母系氏族ハ五十人位ヲ包容シ集會來客等ノ爲メニ一大家屋ヲ所有シ之ト駢列シテ四五ノ家屋ヲ有ス財産ハ總テ共有ニシテ氏族ニ『トーテム』アリ而シテ一村内ニハ多數ノ氏族存在シ氏族ノ各員ハ首長ヲ互選シ首長ハ村長ヲ互選シ村長ハ又地方長ヲ互選ス。

亞米利加大陸ニ現住スル劣等農耕民ノ狀態モ多ク以上ト異ラズブラジル人ハ土地ヲ以テ種族ノ共有ト爲セトモ開墾セル土地ハ又之ヲ一家内ニ共住セル家族ノ集團(即チ氏族組織ニ外ナラス)ノ共有ト爲スモノ有リト云フ又ナウベオ族ハ大長屋ヲ造リテ共同生活ヲ爲シ一家ハ十二ノ家族ヨリ成リ其ノ人員百人ニ及フヲ例トシ一家一村ヲ爲スモノモ之レ有リ此ノ一家ハ即チ氏族組織ト見テ誤ナキモノ



ニシテ婚姻ハ之ヲ同一氏族内ニ禁止スルノミナスラ唯タ遠隔セル他種族トノミ之ヲ許ス、カピレン島ニ在リテハ夫ハ妻ノ氏族ニ入籍シ經濟ハ氏族共同ニシテ收穫物ノ共同保存ヲ爲シ各家族ハ適法ノ持分ヲ願タルルノミ。次ニ北米大陸ニテハ Iaugunen, Puebloindianerノ町ハ種族又ハ家族ニ分割セラレ各家族ハ鳥獸草木其他四大要素ノ一ヲ以テ家名ト爲シ土地ハ原則トシテ共有ナリ Huronehハ十二ノ母系氏族ヨリ成リ土地ハ種族ノ共有ニシテ種族ノ參事職ニ依リ各氏族ニ分與セラレ二年毎ニ之ヲ更新ス耕作ハ共同ニ之ヲ營ミ各家族毎ニ勞働能力ヲ有スル婦人ヲ舉リテ之ニ從事セシム Irokosen 亦外婚制ノ母系氏族ヨリ成リ五十若クハ二十ノ家族ヲ容レ得可キ長屋ニ同棲シ共有財產制ノ下ニ共同經濟ヲ行ヒ相續ハ總テ母系ニ依ル而シテ此ノ族ハ攻守的同盟團體ニシテ復讐報償總テ氏族ノ名ニ於テ之ヲ行ヒ各氏族ハ紋所トシテ『トートテム』獸ヲ有ス其他北米大陸ノ劣等農耕民ハ大抵氏族制度ヲ有シ此俗ニ在ルモノ三十一ニ下ラストハモルガン氏ノ記述スル所ナリ。亞弗利加ニ在リテハ氏族制度ハ既ニ大抵崩解ニ歸シ好ク保存サレタルモノハ稀ナリ唯タ下ギニアノ二三種族ハ外婚の母系氏族ヲ有シ之ヨリ西ニ位スル劣等農

耕民モ之レト類似ノ組織ヲ有シ『Egip』諸民族間ニ八十二ノ大家族團體アリテ各『トテム』ヲ崇拜シ其ノ團結ハ堅固ニシテ子女ハ母ニ屬シ父權弱シ Sklavenkisteニ在リテハ土地共有制行ハレサレトモ各家族ハ其ノ家屬カ爲シ若クハ受ケタル生命及ヒ財產上ノ侵害ニ對シテ賠償ノ請求權及ヒ支拂義務ヲ有ス相續ハ母系ニ依ル Ferrandopo 其ノ他ニ於テモ氏族ノ共同經濟行ハレナイル河ノ上流ナル Madiニテハ一村ノ住民相扶ケテ耕作ヲ爲スノミナラス食事モ之ヲ共同ニス、以上ノ外亞弗利加ノ劣等農耕民中其ノ狀態ノ最モ明瞭ニ紹介セラレタルハ蓋シ Kabylenニシテ其ノ行政團體ヲ村及ヒ之ヲ組成スル父系氏族ト爲ス後者ハ一家族若クハ數家族ヨリ成リ實際上ノ社會單位ニシテ殆ント氏族ニ近キ大家族ナリ經濟ハ共同ニ行ハレ各人ハ全體ノ利益ノ爲メニ働ケトモ之カ爲メニ自己ノ權利ト自由ヲ捨ツルコト無シ從テ此ノ民族ハカリ各人平等ニ近クシテ共產主義ニ遠キモノハ有ラサルナリ氏族ハ各人ニ供スルニ農耕ノ具ト武器ト商業ノ資本トヲ以テシ各員ハ又氏族ニ對シテ勞力ヲ供シ首長ニ奉仕スルノ義務ヲ負フ家長ハ老年ノ男子ナリ、以上ハ之レダロツセ氏ノ列記セル所ニ就キテ比較的整ヘルモノヲ摘録セルモノ



ニシテ全世界ニ涉リテ現存スル劣等農耕民ノ大部分ヲ點檢シテ略ホ遺漏ナキモノナリ而シテ誠ニグロツセ氏ノ道破セルカ如ク種族ヲ異ニスルニ依リ多少色彩ノ差異コソアレ其ノ社會組織ノ構成ニ至リテハ悉ク其ノ形態ヲ同クシ社會單位ヲ爲スモノハ氏族ニシテ實ニ居住上所有關係上生計上ノ共同團體タリ而シテ其然ル所以ノモノハ農耕ト云フ經濟組織カ性質上集合的ニシテ漁獵牧畜ノ如ク分散的ナラサルニ歸因セズンハ非ルナリ。

最後ニ優等農耕民ノ氏族制度如何ト見ルニグロツセー氏ハ即チ曰ク劣等農耕民ノ氏族制度カ其ノ經濟組織ニ源ヲ成スモノナリトノ吾人ノ所説ハ優等農耕民カ曾テ劣等農耕民ノ階級ニ在リシ時ニ悉ク皆テ氏族制度ヲ有シタルノ事實ニ依リテ確證セラルル所ナリ而シテ現今ノ多數開明國民ニ就キテハ史蹟ニ就キテ總カニ之ヲ探知シ得ルニ過キサレトモ國ニ依リテハ特別階級ノモノ今モ尙ホ古代ノ狀態ト甚タ遠カラサル「習俗ヲ保存スルモノ無キニ非テ」此事實ハ氏族制度ノ研究ノ爲メニ極メテ價値アル貢獻ヲ爲スモノナリト請フ實例ニ就キテ見セシメヨ。優等農耕民中最モ劣等農耕民ノ域ニ近キモノハメキシコ人ニシテ其ノ Pueblo ナ

ルモノハ地理上四區ニ分タレ各區ハ血族ノ團體ヨリ爲リ共同生活ヲ營ミ各又小區ニ區分セラル此ノ小區分ハ即チ劣等農耕民間ニ行ハルル氏族制度ニ酷似セルモノナリ。

支那ノ父權的家長制ノ家族制度ハ古代ニ行ハレタル氏族制度ヲ偲ハシムルモノニシテ同一氏名ヲ有スル者ノ婚姻ヲ禁シ又他ノ氏名ヲ襲ク者ヲ取リテ相續人ト爲スヲ絶對ニ禁止スルハ氏族ノ特色ヲ傳フルモノニ外ナラサル也。

古代ノ埃及人ノコトハ詳ナラサレトモ其ノ *Clan* ハ氏族組織ニ似タルモノニシテ共同經濟ヲ行ヒ共同ノ神ヲ有シ其神ハ氏族ノ「トールテム」ニ當ルトノコトナリ印度ニモ氏族制度行ハレ「メヌー」及ヒ「ナランダ」法典ニ依レハ「ウエダ」時代ニ在リテハ家長ハ一家ニ同接スル六等親迄ノ全家屬ニ對シテ絶對權ヲ掌握シ祖先祭祀ノ役ヲ司リ此事大ニ其ノ團結ヲ固メタリ而シテ南方印度ニ在リテハ土地ヲ共有スルヲ得ル者ハ曾テ其地ニ定住ノ根ヲ下ロシタル祖先ヨリ出テタル者ニ限り然ラサルモノハ有償的ニ之ヲ獲得セサル可ラサリキ又北方印度ノ村落團體ハ血族ノ集團ニシテ土地ヲ共有シ或ル場合ニハ支配人ヲ選出シテ其監理ニ任セシムルコト有



レトモ多クハ種族内ニ於ケル最モ古キ系統ニ屬スル代表者ニ依リテ管理セララル  
而シテ此ノ團體ハ皆ニ血族團體タリ共同經濟ノ團體タルニ止ラスシテ組織整然  
タル社會團體ヲ爲シ共同經濟ヲ營ム外有司ヲ置キテ警察司法徵稅其他ノ公務ヲ  
分掌管理セシムル所ノ團體タリ。

雅典ノ *Genos* モ一ノ血族團體ニシテ父系氏族ニ外ナラサレトモ其初ハ母系氏族ナ  
リシコト疑ナシ而シテ有史以後ニ在リテハ此ノ團體ハ祖先ヲ祭ルカ爲メノ祭祀  
的團體タルニ過キスト雖トモ此事ヲ以テ直チニ曾テ他ノ職分ヲ有セシコト無シ  
ト爲スハ過キタルノ譏ヲ免レス曾テハ居住所有及ヒ防禦上ノ共同團體タリシ也。  
次ニ古代ノ羅馬人ハ *Momensen* 氏ノ研究ニ依レハ多數ノ血族團體ニ分レ耕地ヲ共  
有シ共同ニ之レヲ耕シ收穫物ハ團體所屬ノ各個ノ家族ニ分割セラレタルカ如シ、  
末世ノ羅馬ニ在リテモ共有者同居シテ共同經濟ヲ營ムコト屢々之レ有リ又法制  
史ニ依ルモ初メ財産ト見ラレタルモノハ家畜及ヒ土地ノ使用權ニシテ個人ノ私  
有ト爲リシハ頗ル後代ノコトニ屬ス又十二銅表第五表ニ依ルモ *Si intestato moritur*  
*Qui gans heres nec ait agnatus familiam habeto; si agnatus nec escit gentilis familiam nancitor.* 卜定

メラル、要スルニ羅馬ノ氏族制度ハ雅典ニ於ケルヨリモ能ク古代ノ權力ヲ保持シ  
所屬各人ハ艱難相扶クルノミナラス賠償贖罪等總テ共同ニ之ヲ爲シ一人訴追セ  
ラルルコト有レハ *Genus* ノ各人ハ之ト伴ヒテ *Tribunal* ニ到リ各員相互ニ訴訟ヲ提起  
シ又ハ反對ノ證言ヲ爲スガ如キハ宗教上ノ義務ニ戻ルモノトセラレタリ、而シテ  
總テ斯ノ如キハ後代『*ゲンス*』ニ就キテモ同様ナレトモ漸次ニ古ノ權力ヲ失墜シ終  
ニハ祭祀上ノ團體タルニ過キサルニ至リ曾テハ裁判官タリ將軍タリシ首長ハ今  
ヤ一個ノ僧侶タル職務ヲ有スルニ過キサルニ及ヒタリ然レトモ其ノ宗教上ノ勢  
力ハシセロノ頃マテハ有力ナルモノナリキ。

北方歐羅巴民族ノ組織モ以上ト略ホ同一形態ヲ有シケルト、ゲルマン、スラーヴノ  
何レニモ氏族經濟ヲ見サルハ無シ『*フレホン法*』ヲ以テ知り得ラル可キ時代ノ愛蘭  
人ハ多數ノ *Clan* ニ分レ是ハ同一祖先ヲ有スル種族團體ニシテ各一人ノ首長ヲ戴  
キ『*クラン*』ノ人員過多トナレハ又多數ノ小團體ニ分離シテ氏族ヲ爲セリ土地ハ氏  
族ノ共有ニシテ其ノ監督ノ下ニ各家族ニ分與セラル、山地蘇格蘭ニモ同様ナル組  
織一七三〇年頃迄保存セラレタリ、日耳曼人モ血族ヲ以テ村落共同團體ヲ組織シ



此ノ共同團體ハ羅馬ノ『ゲンス』ニ相當スルモノニシテ實ニ父系氏族ナリ、土地ハ村落共同團體ノ共有ニシテ團體ハ又宗教上裁判上ノ權力ヲモ掌握シタリ、而シテ此ノ共有制ハ中世迄存在シ現今尙ホ其ノ痕跡ヲ留ムルモノ尠ナカラス。スラーヴ人ハ甚タ好ク氏族制度ヲ保存シ今現ニ南方スラーヴノ農民ハ概テ一家共同團體ニ依リテ生活ス、是レ所謂 *Zadruga* ニシテ同一始祖ヲ有シ同一邸園内ニ居住シ財產ヲ共有シ共同耕作ヲ爲シ收穫物亦之ヲ共同ニ消費ス團體ノ構成ハ擴大セル父系氏族ニ外ナラスシテ首長ハ日々ノ事務ニ就キテ各人ノ分擔ヲ定メ勞働ヲ監督シ收入ヲ監理ス。

註 *Zadruga* ニ付キテ *Minchener Volksrechtsaufstellung* 中ノ一冊ニ詳述セラレタリ。

露西亞ニ在リテハ右ノ *Zadruga* ニ相當スルモノヲ *bolshaja* 或ハ *radowaja semia* ト稱シ多數ノ血族及ヒ多數ノ家計ヲ一邸内共同經濟ニ結合セルモノナリ即チ結婚セル男子及ヒ傍系者ノ一家悉ク同一家父ノ支配ノ下ニ共同經濟ヲ營ムモノニシテ土地、家屋、農具、家畜、收穫物及ヒ各種ノ什器等ハ悉ク共有ニシテ相續ノ際ニ於テモ之ヲ分割スルコト無シ相續ハ長子又ハ共住者中ノ最年長ノ兄弟ニ傳フルヲ例トス

レトモ選舉ニ依リテ相續人ヲ定ムルコト無キニ非ス此ノ *Bolshaja* ヨリ發達セルモノヲ村落團體タル *mir* トシコレ亦同一ノ父權的共同團體ニシテ其ノ結合極メテ堅固ナリ而シテ其ノ廢頽ノ傾向ハ既ニ顯著ナリト雖トモ現今尙ホ此種ノ團體ハ全露人口中三千萬乃至五千萬人ヲ包含スト註セラル。

### 第三章 日本ノ氏族組織

我國ノ氏族制度ニ就キテハ詳カニ之ヲ研究スルコト甚タ趣味アリ且ツ有益ナル事業タルヲ疑ハサレトモ未タ其志ヲ果サス、今僅カニ二三ノ材料ヨリシテ試ニ其ノ構成及ヒ職分ノ概様ヲ叙シ、之ニ私見ヲ加ヘテ綴リ上ケタルモノ即チ左掲ノ如シ。希クハ大方ノ叱正ヲ仰クヲ得ンカ。

我國上世ノ氏族組織ハ所謂字遲ナルモノニシテ極メテ發達セルモノ也、然リ宇遲ハ實ニ古代ノ社會組織ノ命脈タリシモノニシテ單一一個ノ血統組織タルニ止ラス、兼ネテ又一個人ノ共同經濟體ヲ爲シ、後ニ至リテハ整然タル行政組織トシテ其ノ職分極メテ廣ク、之ニ從屬スルノ事實ハ各個人ニ取リテ社會生活上最モ重大ノ關係ヲ有シタリシカ如シ。

試ニ先ツ我國當初ノ氏族組織ノ概要ヲ語レハ、上古宗族ノ全員ヲ以テ組織サレタ



ル氏族團體カ漸次發達シテ多數ノ大氏ヲ爲シ其ノ人員過多ナルニ及ンテ分レテ又多數ノ小氏ト爲リ大氏ハ小氏ヲ統轄シ小氏ノ下ニハ各個ノ家族アリタリ而シテ家ニハ家ノ長アリ大氏及小氏ニハ各々氏ハ上ナルモノ有リテ宗族ヲ統領シ其ノ狀恰モ枝幹ノ如クナリ。

氏族ハ社會的組織ナルト同時ニ一ノ行政系統ヲ爲セシカ故ニ朝廷ノ命令ハ先ツ之ヲ大氏ノ氏上ニ傳ヘ大氏ノ氏上ハ之ヲ小氏ノ氏上ニ傳ヘ小氏ノ氏上ハ之ヲ宗族全般ニ傳ヘタリ。

初メ各氏族ハ大抵専門ノ職業ヲ有シ之ヲ世襲シタルカ如シ(註)然レトモ後漸クニ此事廢レ氏族ハ經濟上ノ共同團體タルノ職分ヲ失ヒテ一ノ行政組織タリ血統組織タルニ過サルニ至リ後全ク其ノ經濟的意義ヲ失フニ至リテ終ニ崩解シ去ルヲ免レサリキ。

註 例ヘハ大伴氏ハ兵事ヲ職トシ中臣氏齊部氏ハ祭祀ヲ司リ玉作氏鏡作氏ハ玉及鏡ヲ作リ山部氏ハ山野ヲ船部氏ハ船舶ヲ司掌セシカ如シ。

請フ吾輩ヲシテ主トシテ氏族考下陽春廬雜考下ニ記スル所ニ據リテ血統制度上ニ於ケル加婆禰姓宇遲氏名字ノ關係ヲ採リ氏族制度ノ構成及ヒ職分ヲ詳ニシ其

ノ榮枯變遷ノ跡ヲ尋ネシメヨ。

先ツ上古ノ人ハ唯タ名ヲ有スルノミニシテ姓氏ノ如キヲ有タス、人文稍々開ケテ始メテ加婆禰ノ名ヲ見、人口彌々蕃殖シテ血統上ノ區別ヲ立ツルノ必要アルニ至リテ茲ニ宇遲ノ稱ヲ生ミ、宇遲即チ氏族ノ組織紛亂シテ之ニ依リテ社會的統制ヲ爲ス可ラサルニ至リテ即チ名字ノ號アルニ至リタリ。

加婆禰ノ起原ハ遠ク神代ニ發シモト尊稱タルニ過キスシテ他人カ稱呼スルニ用ヒラレシニ始マリタルカ如シ、例ヲ以テ之レヲ云ヘハ、朝廷ニ仕侍スル人ヲ尊敬シテ之ヲ呼フニおみ(大身ノ意)むらじ(群大人ノ意)みやつ(御奴ノ意)ヲ以テシ、出テテ國ヲ治ムル人ヲ稱シテ國ノみやつ(國ノ御臣ノ意)縣主縣ノ大人ノ意ト爲シタリ。サレハ加婆禰ノ中ニ在リテモ、伴造トモトモ國造クニノミヤツコ縣主アガタマシ史シ村主ムラノミヤツコ使主シ等ノ類ハ上古ヨリ世襲ノ職名ヨリ取リ臣連オムラシ宿禰スミ等ノ類ハ右ニ述ブルカ如ク在廷ノ顯臣ヲ贊稱シタルヨリ來リ別首ワキオト君等ハ貴族又ハ首領タル人々ヲ尊稱シタルヨリ成レルモノナリ、然ルニ天武天皇以後屢々舊姓ヲ改メテ新姓ヲ制定シ(註)加婆禰ノ制ハ漸次變遷シテ終ニハ諸氏族ノ尊卑ヲ別ツ可キ一種ノ標號タルニ至リタリ。



註 天武天皇ノ白鳳十二年ニ詔曰、更改諸氏族姓作八色之姓以混天下萬姓曰一真人、二曰朝臣、三曰宿禰、四曰忌寸、五曰道師、六曰臣、七曰連、八曰稻置。

宇遲ハ族類ヲ區別シ系統ヲ明カニスルニ起レルモノニシテ甚タ古クヨリ存セシモノナリ。其ノ名稱ノ起原ニ至リテハ或ハ朝廷ヨリ賜ハレルモノ有リ即チ鳥取連、小子部宿禰ノ如キ之ナリ又古來傳承シ來レル職業ヨリ取リテ名トセルアリ例ヘハ中臣連、忌部首ノ如キ又居住ノ地名若クハ所領ノ稱等ヲ取リテ冠セタルモ有リ例ヘハ平群朝臣、島田臣ノ如キ之ナリ。而シテ此ノ名稱ヲ改メ書字ヲ變更スル場合ニハ一々之ヲ奏請シタル後ニ非サレハ敢テ猥リニ手ヲ着クルヲ得サリシ也。宇遲ヘ加婆禰ヲ係テ稱スルコトハ當初ハ最上ノ人ニアラサレハ能ハサリシ所ナルモ後加婆禰ノ制カ氏ノ尊卑ヲ別ツヘキ標號タルニ至リテハ一般ニ姓ト氏トヲ併セ稱シ某ノ氏ハ某ノ加婆禰ト定リ用ヒラレタリ而シテ高貴ナラサル所謂在下ノ民ハ物部、土師、山守、阿部ナド世襲ノ職ヲ以テ宇遲トスルノミニテ加婆禰ヲ併セ稱スルコトハ無カリシ也。氏ノ大小ハ又之ヲ名稱ニ依リテ識分スルヲ得可シ例ヘハ阿部氏ハ大氏ニシテ之

ヨリ岐レタル阿倍志斐、阿倍間人、阿倍長田、阿倍陸奥、阿倍安積、阿倍會津等ハ皆小氏ナリ、而シテ小氏ハ大氏ニ從ヘルモノニシテ大氏ハ本家ニシテ小氏ハ分家トモ謂フ可シ、サレハ大氏衰滅ニ傾クトキハ小氏中ノ然ル可キ人ヲ以テ之ヲ繼クコトアリ、而シテ氏族ノ人員如何ト見ルニ例ヘハ阿倍氏ノ如キ大同ノ頃ニハイタク衰ヘタリト雖トモ尙ホ其ノ氏人ハ多數ナリシカバ之ヨリ准ヘテ考フレハ小氏ト云フモノニモ十、二十ノ人ハ有リシナル可ク其下ニハ又部曲ノ人(註)アリシコトナレハ總テ之等ヲ合スレハ大古ニ在リテモ氏族全體ノ人員ハ頗ル多數ナリシヲ知ルニ足ルナリ。

註 部曲ナルモノハ其職ヲ世々ニシテ氏人ニ從屬セル隸民ニシテ例ヘハ中臣連ニ中臣部、忌部首ニ紀伊忌部、阿波忌部、讃岐忌部、筑紫忌部等アリ。

抑モ垂仁天皇ノ朝初メテ姓氏ノ制ヲ規定シ給ヒテヨリ世々ノ朝廷ハ之ヲ整齊スルニ怠ラサリシト雖トモ神功ノ三韓征伐以來韓國トノ交通盛トナリテヨリハ彼國人ノ渡來シテ歸化スル者愈々多キヲ加ヘ之等ニモ姓ヲ賜フコト行ハレ皇神別ノ百八十氏ノ外蕃別ノ諸氏ノ數モ甚タ多數ト爲リ中ニハ奸黠ノ徒アリテ身ノ卑賤ナルヲ掩ハンカ爲メニ祖先ヲ僞ルモノヲ生スルニ至リ或ハ古傳ヲ失ヒテ氏



姓ヲ誤ル者モ益々多キヲ加フルニ至リシカハ允恭天皇ノ四年九月天下ニ勅シテ探湯盟神ニ依リテ氏姓ノ紛亂ヲ紕正シ給フコトアリタリ。之ヨリシテハ姓氏ノ紛亂大ニ更マリ臣連伴造等八十友緒各皆其職ヲ繼承シテ朝廷ニ奉仕スルコト整然タルニ至リ下リテ雄略天皇ノ御世ノ初ニ平群眞鳥ヲ大臣トシ大伴連室屋ト物部連目トヲ大連トシテ八十友緒ノ總統領ト爲シ給ヘリ。然リ探湯盟神ノコト有リテ以來氏姓ノ制ハ漸次整頓スルニ至リシモ物熟スレハ腐敗スルヲ免レヌ大臣大連跋扈ノ端緒一ト度武内宿禰ニ開ケテ以後ハ終ニ曾我物部ノ大闘争ヲ生ムニ至リ朝政爲メニ紊レテマタ修正ス可ラス所詮一改革ハ免レ難キノ勢ヲ成シ氣運漸ク熱スルニ及ヒテ茲ニ大化ノ革新ヲ見タリ。然ルニ悲哉擾亂ノ結果國紀ハ多ク燼滅ノ災ニ罹リ姓氏ノ根源之ヲ尋ヌルニ由ナキニ至レリ。サレトモ天智ノ聰明ナルヤ能ク燼餘ノ舊記ヲ拾集シテ再ヒ姓氏ノ制ヲ整ヘ戶籍ノ法ヲ定メ給ヘリ。而シテ帝ハ宇遲ノ大小ヲ分チテ各之ニ氏ノ上ナル首長ヲ置キ大氏ノ氏上ニハ大刀ヲ小氏ノ氏上ニハ小刀ヲ賜ヒテ(註)其ノ地位ノ標識ト爲サシメ又之ニ隸屬スル部曲ノ屬ヲハ民部家部ト名ケテ猥リニ公民ヲ馳役スルノ弊ヲ

革メ給ヒタリ。

註 天智紀ニ曰ク二年春二月云々天皇命大皇弟宜增換冠衣階名及氏上民部家部等事云々其大氏之氏上賜大刀小氏之氏上賜小刀其伴造等之氏上賜干楯弓矢。

按スルニ上ハ神代ヨリ下大化ノ改新ニ至ルマテ所謂上古氏姓ノ制ノ完備セル時代ニ在リテハ國家統治ノコト專ラ此ノ民族的組織機關ニ依リテ行ハレ上ニ大臣大連アリ大氏ノ氏上ヲ經テ小氏ノ氏上ニ及ヒ氏上ヨリ氏人ニ及ヒ以テ宗族全體ノ統轄ヲ爲シ小氏ノ下ニハ又部曲品部(註)アリテ之ニ隸屬シ御料田ヲ耕シ御調ヲ率リテ小氏ノ臣連ニ從ヒ小氏ハ大氏ニ大氏ハ大臣連ニ服從シテ一糸紊レス秩序整然トシテ一大自治體ヲ組織セル様今日ノ行政組織ト大ニ其ノ趣ヲ同クス唯タ兩者ノ間著シキ差違ヲ爲スモノハ後者ノ自治組織カ地方ト云フコトヲ以テ要素トスルニ反シテ前者ハ血統ヲ基礎トスルコト之ナリ。遮莫當時ノ氏族組織ハ一ノ行政組織タル實質ヲ有シ之ヲ地方的ニ考フルモ同族ノ人々ハ日本全國ニ散在シ例ヘハ上ニモ見ヘタルカ如ク忌部首ニ紀伊阿波讚岐筑紫等ノ忌部アルカ如ク各氏所屬ノ部曲ノ民全國ニ相交リテ存在シ從テ之ヲ氏族ノ首長ニ於テ統轄スルコトハ蓋シ甚タ不便且ツ困難ナルモノアリシヤ察スルニ餘アリ、交通機關不備ノ上



世ニ祭祀朝儀戰役等ノ爲メニスル召集ノ艱難ヲ想像モ及ヒ難キ所ナリ然モ古代人情素朴ニシテ風俗醇美ニ生活甚々簡易ナリシノ結果十分秩序ヲ維持スルヲ得テ天下ハ極メテ靜謐ニ社會生活ハ甚々安易ナリシナリ。

註 氏族ニ隸屬スル部曲ノ民又ハ御名代御子代ノ民ノ如キハ之ヲ統御スル大臣大連等ノ私有臣隸ノ如キ姿ヲ呈シ星霜相移リ後ニ大臣大連等カ大ニ權勢ヲ得ルト共ニ全ク其ノ私有民ト化シ朝權運下ノ端緒ヲ開キタリ。

御名代トハ皇后皇子等ノ御名ヲ後世ニ遺シ傳ヘンカ爲メニ其部曲ノ民ヲ定メ置カラルルモノニシテ御子代トハ皇子ナキ場合ニ御名ノ傳ハサルヲ恐レテ御名ノ紀念トシテ定メラルルモノナリサレハ兩者共略ホ相似タルモノナリ。

此天皇仁德之御世爲大后石之日賣命之御名代定葛城部亦爲太子伊邪本和氣命之御名代定壬生部……古事記。

然ルニ世ノ推移ト共ニ此ノ組織ニ伴フ弊害漸次顯著ナルニ至リ曾我物部ノ如キ大氏ノ勢力愈々大ニシテ大臣大連ノ專橫其ノ極ニ達シ多數ノ部民ヲ私用シテ公民私民ノ區別殆ント之ヲ立ツ可ラサルニ至リ(註一)子代ノ民モ屯倉部曲ノ民モ差別ナキノ情ヲ呈セシカハ大化二年ニ勅シテ一度全國ノ私有民制ヲ廢止スルノ已ムヲ得サルニ至レリ(註二)而シテ從來氏族ノ有シタリシ部曲民及ヒ莊田ニ對シテハ新ニ食封ノ地ヲ賜ヒテ以テ大氏權威ノ隆盛ヲ抑壓セント企テラレタリ。

註一 孝德天皇大化元年八月甲申ノ勅ニ曰ク自古以降每天皇時置課代民垂名於後其臣連等伴造國造各置己民恣情驅使又割國縣山澤林野池田以爲己財爭戰不已或者兼並數萬頃田或者全無容針少地云々。

註二 二年正月改新之詔ニ曰ク罷管在天皇等所立于代民處々屯倉及別臣連伴造村首所有部曲之民處々田莊仍賜食封大夫以上各有差降。

之レ即チ從來ノ氏族的行政組織(一種ノ封建制度)ヲ罷メテ一國ノ行政組織ヲ郡縣制ニ改メタルモノニシテ之レ蓋シ大化改新ノ大根本ナリシ也。而シテ斯ク改マル上カラハ氏族ノ制ハ今ヤタタ諸民ノ系統ヲ明カニシ諸姓ノ尊卑ヲ別ツノ用ヲ爲スニ過キサルモノト爲レリ。從テ大臣大連ナトノ官制ハ之ヲ更メテ新タニ八省百官ヲ置キ國造縣主モ國司郡司ト爲リ從來ノ門閥世襲ノ俗ハ之ヲ一掃セラレシカハ卑姓ノ者ヨリモ立身出生スルコト難カラサルニ至レリ。然リト雖トモ太古以來行ヒ來リタルモノヲ一朝一夕ニシテ變革スルコトハ利點ヨリモ却テ弊害ノ多ク之ニ伴フヲ免レス氏姓尊卑ノ制廢レタルカ爲メニ世ノ秩序紊レテ人心穩ナルヲ得ス天武天皇ノ朝ニ至リテハ又新ニ舊制ニ倣ヒテ尊卑八姓(註一)ヲ設クルノ已ムヲ得サルニ至リ、之ヨリシテハ人々皆此ノ新姓ニ依リテ之ヲ氏ヘ係ケテ稱スルコトトナリ(註二)前ニモ一言セルカ如ク加婆羅ハ即チ字遲ノ尊卑ヲ別ツ一種ノ位階



ノ如キモノトナレリ。

註一 眞人宿禰朝臣忌寸道師臣連稻置。

註二 例ハ清原眞人小野宿禰大伴宿禰ナトト稱スルカ如シ。

然リ大化ノ改新ハ從來ノ國家組織ヲ改メテ極メテ近世的ナル國家組織ト爲シ個人ヲ以テ組織ノ單位トシ氏族制度ハ殆ント其ノ尊嚴ト實用トヲ失ヒタリ然シ乍ラ從來ノ氏族の封建制度ヲ一旦ニシテ廢罷シ純然タル個人單位ノ國タラシメンコトハ甚タ慣習ヲ無視シ人情ニ叶ハサルモノ有ルヲ免レ難キ業タルノミナラス能ク治績ヲ上ケテ行政ノ整齊簡易ヲ得ルニ却テ便ナラサルモノ有リ國司郡司ヲ置ケル後モ尙ホ氏族組織ヲ統制スル者ナクテ有ル可ラス依然此ノ組織ヲ利用シテ統治上ノ便宜ヲ計ルハ經世ノ要務タリシナリサレハ天武ノ十年九月詔シテ先ノ氏上ノ制度ヲ整ヘ(註一)尙ホナル可ク氏族組織ノ範圍ヲ狹クシテ亂雜ヲ防クコトト爲シタリ(註二)而シテ以後氏人ノ統率ハ專ラ氏上ノ任スル所トナリ其制ハ永ク後世ニ傳ハレリ。

註一 天武紀十年九月甲辰詔曰凡諸氏有氏上未定者各定氏上而申送干理官。

註二 同紀十一年十二月庚申朔壬戌詔曰諸氏人等各定可氏上者而申送亦其眷族多在者則分各定氏上並申於官司然後斟酌其狀而處分之因承官判雖因少故而非己族職莫附。

斯クテ後藤原氏權勢ヲ擅ニスルニ至リテハ其ノ氏人ニアラサレハ顯官ニ就クコトモ叶ハサルノ狀ヲ呈スルニ至リ其ノ族ノミ獨リ盛大ニシテ他ハ殆ント有ルカ無キカノ姿トナレリ降リテ又源平二氏ノ世ト爲リテハ源氏ハ東國ニ虎視シテ多クノ莊園ヲ有シ東國諸國ノ住人靡然トシテ之ニ隸屬シ平氏ハ西國ニ龍蟠シテ諸國ノ土豪ヲ從ヘ源平二氏ハ恰モ天下ヲ二分シテ各其一ヲ保ツノ形ヲ爲シ他族ハタタ此ノ二大氏族ノ下ニ統一セラレ之ニ從屬スルコトニ依リテ其ノ所領ヲ安全ニシ其權勢ヲ保ツヲ得タリ(註一)サテ藤原氏以後ニ至リテハ氏上ハ之ヲ置クコトナカリシト雖トモ王氏源平藤橘菅原ナドノ氏々ニハ氏長者ヲ置キテ(註二)其宗族ヲ統御シ叙爵ヲ司リ源氏ハ并學院別當ニ任スル者ヲ以テ長者ト爲シ橘氏ハ學院別當藤原氏ハ攝關ノ任ニ在ルモノ氏長者トナレリ。(註三)

註一 山路愛山著源賴朝第貳章(四八頁以下)ニ詳シ。

註二 三 藤原抄云凡稱氏長者王氏源氏藤氏橘氏有此號王氏者往古之例親王爲其長近代爲王氏者第一稱之藤氏者執政爲其長源氏者見任大納言中爲第一人也橘氏者昔橘家有昇納言以上之人爲長者而其家衰敝之後雖有長者號只知學院院領計也於氏長者是定人舉之是定者擇其人被下宣旨也近代九條流被傳之仍他人不望之依之橘家皆屬被家。

同抄云藤氏長者攝政關白詔之人爲仁仍別不及宣下也但宇治左大臣賴長公非攝政爲長者宜



下之例初於此乎。源氏長者爲<sub>二</sub>并學院別當之人<sub>一</sub>、即爲<sub>二</sub>長者<sub>一</sub>、而近例爲<sub>二</sub>前大臣、有<sub>二</sub>爲<sub>二</sub>長者<sub>一</sub>之人、仍被<sub>二</sub>下<sub>一</sub>宜<sub>二</sub>官<sub>一</sub>乎。

右叙スルカ如クニシテ上古以後我國ノ氏族制度ハ時々人爲的ノ變革ニ逢遇スルコト有リシニ拘ハラズ社會組織ノ經緯ヲ爲シテ各個人ハ之ニ從屬スルコト、即チ氏人タルコトニ依リテ社會的存在ヲ爲シ氏人ノ大多數ニ就テ云ヘハ個人トシテノ價值ハ殆ント之カ爲メニ没却サレタルノ觀ナキニ非サリシ也。然ルニ中世以來世態ノ變遷ト共ニ社會ノ風潮一變シ人口益々増殖シテ源平藤氏ノ族人ハ益々以テ多キヲ致シ今ヤ氏ノ名稱以外ニ他ノ一ノ稱號ヲ以テ之ヲ呼フニ非レハ各個人及ヒ其ノ近親ノ宗族ヲ識別シ難キニ至リタリ。在來藤原氏ニ屬スル貴キ家々ニテハ不比等公ノ四子ヨリ出テタル後裔ヲハ南家、北家、式家、京家ト稱シ基經公ヨリ分岐派生セルヲハ九條、二條、一條、三條、鷹司、近衛ナト呼ヒテ識別ノ標準ト爲シタレトモ事苟モ公ニ關スル場合ニハ依然トシテ在來ノ儘ニ氏姓ヲ以テ名乗ルヲ例トシタリ、然レドモ斯クテハ甚々紛ハシキ節多ク所詮不便ヲ免レサルママニ後漸ク支流分派多クナルニ及ヒテハ各個人ノ居住スル地名ニヨリ之ニ官名ヲ加ヘテ稱呼

スルノ風ヲ生スルコトトナリタリ。

註 嘗ヘハ藤原氏ニシテ近江、越前トナリ其地ニ住スルカハ近藤ト云ヒ齊官頭ナリシ者ハ之ヲ藤原ト稱シ加賀介ナルヲ加藤ト云フカ如ク又平氏ノ族ニシテ常陸ノ大掾アリシ者ノ後裔ヲ大掾ト云ヒ秋田城介ノ末ヲ城ト名乗リ又伊豆ノ北條相模ノ三浦鎌倉長尾ノ家名アルカ如ク又清和源氏ノ末ニハ上野ノ新田下野ノ足利ナトアル皆此例ナリ。

此ノ種ノ名稱ハ即チ所謂「名字」ナルモノニシテ氏族制度崩解スルニ及ヒテヨリハ各人皆獨リ此ノ名字ノミヲ用ヒ古ノ宇遲加婆禰ノ制ハ名實共ニ廢滅ニ歸セントスルニ至レリ、即チ皇室ノ威稜漸ク衰ヘテ政權下遷セル結果トシテ延喜天曆ノ頃ヨリハ諸制度大ニ廢弛シ氏姓ノ制亦漸ク其ノ活力ヲ失ヒ昔日整然タリシ氏族制度ハ漸ク崩解ノ氣運ニ向フノ勢ヲ避ク可ラス、大臣以下有力ノ者ハ諸國ニ莊園ヲ置キテ地方土着ノ根蒂ヲ下ロシ又其ノ勢望ヲ恃ミテ之ニ從屬シ來レル地方ノ土豪即チ大地主ハ庄司、郷司、園士ナトノ職ニ在リテ驕慢ヲ逞フシ或ハ租稅ヲ怠リ田園ヲ掠略シ官ヲ求メ兵仗ヲ帶ヒ常ニ馬ヲ地方大豪族例ヘハ源平二氏ノ如キノ門ニ繫キテ其ノ保護ノ下ニ立チ一朝事有レハ輒チ一族ヲ率ヒテ之ニ戰旅ニ從ヒ兩者間ノ恩義忠節愈厚ウシテ漸ク君臣主從ノ關係ヲ生シ源平二氏ノ勢力ハ優ニ以



テ天下ヲ席捲スルニ足ルモノアルニ至レリ。(註)

註 前掲源賴朝第二章諸國住人トハ何ソト參照

保元平治ノ亂後ニ至リテハ諸國ノ豪族等大小共ニタタ名字ノミヲ唱ヘテ以テ族類ヲ分ツノ稱號ト爲シ、鎌倉幕府ノ建設成ルニ及ヒテハ武家流ノ名字ヲ用フルコト專トナリ世人多ク源平以外ニ宇遲アルヲ知ラス、下リテ元弘建武以後天下亂レテ鼎ノ湧クカ如クナルニ及ヒテハ武家ノ盛衰朝ニタテ語リ難ク流離顛沛ノ結果或ハ家譜ヲ賣リテ經費ニ充ツル者モ尠カラス姦民之ニ乘シテ名門ヲ僞リ氏姓ノ制全ク紊レテ藤氏、源氏、平氏ヲ以テ姓ト考ヘ名字ヲ氏ナリト誤解スルコト却テ一般ノ通則タルニ至レリ。

然リ上古以來我國ニ所謂氏姓ノ制ナルモノハ武家ノ世ト爲リテ全ク廢滅ニ歸シタルコト前述ノ如クナレトモ此ノ氏姓ノ制ヲ以テ直チニ氏族制度ノ運命ヲ推ス可ラス。念フニ上古以來氏姓ノ制カ秩序整然タリシ時代ニ當リテハ之ニ伴フ氏族組織ハ又一ノ完全ナル行政組織タリ兼チテ社會組織タリシコト既述ノ如ケン。而シテ太古ニ於ケル諸氏族ハ多クハ世襲ノ職ヲ有シテ又一個人ノ生活上ノ共同團體

タリシヤ疑ナキ所ナリ、然レトモ人口稍々繁殖シテ氏族所屬ノ人員夥多ナルニ至リ所謂大氏小氏ノ別ヲ見ル頃ニ至リテハ小氏ニツキテハ一概ニ論定シ難キモ少クトモ大氏ナルモノニ就キテ見レハソカ既ニ生活上ノ共同團體タルノ實質ヲ失ヒテ一個ノ行政制度タリ血統制度タルニ過キサリシコト敢テ論斷ニ難カラス。下リテ源平藤橘ノ四氏カ專ラ天下ニ榮ヘシ時代ニ在リテモ氏族制度カ血統制度タリ兼チテ又一種ノ行政組織タリシコトハ變リナキ所ニシテ昔時氏上ニ依リテ治メラレタルモノハ今又氏長者ニ依リテ統治セラレ、源平藤橘ハ即チ大氏ニシテ出テテ地方ニ根ヲ下ロシタルモノ例ヘハ近藤加藤齋藤ノ如キ北條、三浦、新田、足利ノ如キハ即チ小氏タリキ、乃チ當時所謂黨假ヘハ三浦黨ノ如シト稱セラレタルモノハ小氏ニ相當スルモノト見テ大過ナケン。而シテ當時ニ於ケル土豪所謂諸國ノ住人ナルモノノ血族團體ハ或ハ之ヲ小氏トモ見ルヲ得可ク又或ハ之ヲ家長制ノ大家族トモ見ルヲ得可シ。唯タ忘ル可ラサルコトハ斯ク氏族制度カ行ハルルト同時ニ其下ニハ又各個個別ノ家族制度ノ存在シタルコト之ニシテ之ハ氏族カ實際生活ノ共同團體ナラサル場合ニハ何レノ民族ニ在リテモ必スヤ然ルモノ也。



我國ノ氏族制度カ何レノ時代ヲ以テ崩解ニ歸セシカハ未タ吾輩ノ研究ノ及ハサル所ナレトモ案スルニ鎌倉幕府カ天下ノ政治ヲ行フニ至リテヨリ漸次崩解ノ氣運ヲ生シ足利時代ニ於テ益々氣運ノ成熟ヲ見タリシモノノ如シ。即チ中央政府ノ政權未タ衰ヘサリシ藤原氏時代ニハ其ノ政務カ氏族制度ヲ通シテ行ハレ經濟ノ組織亦一種ノ莊園經濟ナリシカ爲メニ氏族制度ハ十分存在ノ理由ト繁榮ノ地盤トヲ有シタリ。中央政府ノ權力衰エテ政權地方ニ及ハサルニ至リテヨリモ地方ノ豪族ハ殆ント獨立ノ姿ヲ以テ獨自一己ノ政治ヲ行ヒ其ノ經濟亦純然タル莊園經濟ナリシカハ氏族制度ハ却テ其ノ實質ヲ養ヒテ益々精力ヲ蓄積スルヲ得タリ然ルニ鎌倉幕府ノ時代ニ至リテハ其ノ行政ノ組織ハ漸次氏族ノ組織ト絶縁セントスルニ至リ從テ氏族制度ハ漸ク存在ノ必要ヲ減セララルルヲ避ク可ラサリキ、然レトモ時ノ經濟組織カ猶ホ莊園經濟ナリシ爲メニ氏族制度ハ未タ以テ容易ニ衰ヘス依然トシテ命脈ヲ維持シタリ、然カルニ世カ足利時代ニ入リテヨリハ中央集權的行政組織カ鎌倉時代ヨリモ更ニ一歩ヲ進メタルモノ有ルニ加エテ經濟ノ組織亦漸ク面目ヲ更メントスルニ至リ氏族制度ハ益々ソカ從來各個人若クハ各家族

ノ生存ノ爲ニ有シタリシ實質的勢力ヲ失墜シテ彌々崩解ノ氣運ヲ熟セシメタルモノアルニ似タリ。

然レトモ戰國時代ニ於ケル所謂群雄ハ未タ何レモ地方ニ割據セル氏族タルヲ失ハスシテ今川ニセヨ織田ニセヨ徳川ニセヨ皆之レ一大氏族ト見ルヲ得可シ、サハ云ヘトモ既ニ此ノ時代ニ至リテハ豊臣秀吉ノ如キアリテ匹夫ヨリ立テ終ニ能ク天下ヲ統一スルト云フカ如キ未曾有ノ大異例ヲ生シタルヨリシテ之ヲ見ルモ氏族ノ活力カ既ニ殆ント死滅シテ又源平時代ノ如クナル能ハサリシヲ知ルニ足ル可ク氏族ハ唯之レ一ノ血統制度タルノ外多ク其ノ生命ノ根據ヲ有セサリシヲ知ルニ難カラス、仍テ按スルニ我國ノ氏族制度ハ足利時代ニ於テ其ノ生命ヲ失ヒ戰國時代ニ所謂死花ヲ咲カセ徳川幕府ノ建設ヲ以テ死滅シ三百諸侯ニ其ノ餘韻ヲ遺シタリト見ルヲ得ン歟。

#### 第四章 氏族制度ノ崩解及ヒ其ノ原因

氏族制度ハ吾輩カ先ニ説明セル所ニ依リテ明カナルカ如ク經濟組織ノ最モ幼稚



ナル狩獵民族ニ於テ既ニ其ノ存在ヲ見劣等農耕民族間ニ於テ最モ廣ク行ハレ優等農耕民族間ニモ猶能ク氏族制度ヲ維持セルモノ少ナカラサル也而シテ其ノ構成ノ要素ニ就キテ之ヲ見ルニ何レモ其ノ組織分子ヲ爲スモノハ個人ニアラスシテ各個ノ家族ナルヲ知ルニ足ル從テ或ル學者ノ唱フルカ如ク各個家族ハ氏族制度カ分裂スルニ由リテ甫メテ組織サレタルモノナリトノ說ハ終ニ誤謬タルヲ免レス、家族制度ハ氏族制度ト等シク太初ヨリシテ存在シ却テ或ル時代ニハ家族制度ノミ獨リ存在シテ氏族制度ノ其上ニ立ツ無キコトアルヲ忘ル可ラス、タタ農耕民族特ニ劣等農耕民族ニ在リテハ氏族ノ制度餘リニ能ク發達シテ生活上ノアラユル職分ヲ一手ニ握ルカ如キモノアルノ結果家族制度ハ殆ント其ノ影ヲ掩ハレテ一見全ク存在セサルノ觀ナキニ非ス、然レトモ詳ニ觀察スレハ各個家族ハ嚴然トシテ存在シ、氏族組織ノ要素ヲ爲スコト爭フ可ラサル事實ナリ。

ソハ兎モ角氏族制度ハ劣等農耕民族ノ中ニ最モ榮エテ文化ノ更ニ進メル高等農耕民族ノ中ニ入リテハ漸次廢滅ニ傾キ或ハ既ニ全ク廢滅シテ僅カニ其ノ痕跡ヲ止ムルモノアルニ至レルコト既述ノ如シトセハ其崩解ノ原因ニ就キテハ一應研

究スル所ナカル可ラス、サリ乍ラ其ノ解體ノ原因ヲ爲スモノハ民族ノ異リ時代ノ異リ事情ノ異ルニ從テ到底同一ナルヲ得サルコト云フ迄モナキコトナレハ吾輩ハヤヤ普遍的ニシテ然モ最モ顯著ナル原因ニ就キテノミ探究スル所アラント欲ス。

抑モ氏族制度ナルモノハ其ノ基礎ヲ血統關係ニ置クヤ勿論ナリト雖トモ之ニ供スルニ更ニ堅固ノ基礎ヲ以テスルモノハ經濟關係ナラスンハ非ス、經濟關係ノ中ニ在リテモ耕作ノ共同ト云フコトト土地ノ共有ト云フコトトハ最モ多ク氏族組織ノ地盤ヲ固メタリ、サレハ氏族制度ノ堅固ニシテ繁榮スル所ニハ必スヤ土地ノ共有行ハレ又多クハ耕作ノ共同行ハレ、此ノ兩者ノ廢滅ト共ニ氏族制度亦崩解スルヲ免レ難シ。

前數章ノ實例ノ示ス所ノ如ク農耕民族ニ在リテハ土地ヲ以テ氏族ノ共有トセサルモノ殆ント之レ無カリシト雖トモ然モ共有ノ傍ラ漸次私有制度ノ起リ來リタルハ見通シ難キ事實ナリ、例ヘハ印度人馬來人スラージ人ニ於テ之ヲ見ルカ如ク一個人ニシテ自ラ進ンテ荒蕪ノ地ヲ開墾シ又ハ山林ヲ開キテ田圃ト爲ス者アラ



ンカ氏族ハ即チ其ノ地面ニ對スル個人ノ私有權ヲ認メサルヲ得サリキ、而シテ一度ヒ斯カル私有制度ノ認メラルルニ於テハ勤勉ニシテ有爲ナル個人ハ益々其ノ私有地ヲ廣ムルニ努メタリ、然カモ能ク之ヲ爲スカ爲メニハ十分ナル勞働力ヲ要スルモノ有ルヲ以テ最モ多ク奴隸ヲ有スルモノハ最モ多ク地面ヲ私有スルヲ得ルノ結果ヲ齎シ、武勇ニシテ戰鬥能力ノ秀テタル者ハ從テ最モ多クノ捕虜奴隸ヲ所有シテ私有地面ヲ廣ムルヲ得タリ。

一旦私有制ノ認メラレテ私有地ノ面積漸次増大スルニ至レハ從來氏族ノ間ニ行ハレタル平等ノ觀念ハ茲ニ打破セラレ有力者ト無能者トノ差別愈々顯著ニシテ命令服從ノ關係次第ニ複雜ナルニ至ルヤ論無シ。

例ヲ獨逸ニ取ルモカール大帝ノ時既ニ少數者ニ依ル土地兼併ノ勢顯著ナルモノアリ多數民ハ大ニ其ノ侵害ニ苦ミ下リテ第十二、十三世紀ノ頃ニ至リテハ其勢愈以テ昌ナルモノアリキ、而シテ此種ノ權力者ハ大抵王侯貴族若クハ武將ノ類ナリ。此種ノ状態ハ又之ヲ亞弗利加及ヒオセニアノ蠻族中ニ發見スルヲ得可ク此等ノ民族中ニ於ケル状態ハ更ニ一増甚シキモノ有リ有力者ハ全然在來ノ制度ヲ轉

覆シテ全地面ノ私有權ヲ確獲シ一般人民ハ僅カニ其ノ使用收益權ヲ許容サルルニ過キササルニ至レルモノモ妙カラス。若夫レ外敵ノ爲メニ征服サレタル民族ノ境遇ニ至リテハ多ク絮説スル迄モナク土地ハ全ク征略者ノ私有ニ歸セリ。

然リト雖トモ以上ノ如キ事實ハ必スシモ氏族經濟ト全然兩立セサルモノニハ非ス現ニ我國ニ在リテモ昔時氏族ノ所有地ト國ノ公有地トハ相並ヒテ存在シ又露西亞ニ就キテ見ルモ *mir* 制度ト貴族ノ采邑及王領トハ兩々併存シテ侵スコト無シ、又爪哇印度ニ在リテモ其ノ氏族制度ハ歐洲侵略者ノ爲メニ撲滅セラルルコト無クシテ却テ之カ維持ニ注意サルルノ情ナキニ非ス、サリ乍ラ斯ル状態ニ於テ若シ氏族經濟ト私人經濟ト衝突スルカ如キ場合ニ遭遇センカ前者ハ到底後者ノ敵ニ非サル也、即チ共同經濟ノ下ニ必要ニ應シテ定時ニ分配貸與ヲ受ケタルモノニ對スル個人ノ經營ハ到底自己ノ永久所有地トシテ之ヲ經營スル者ノ土地利用法ノ有効ナルニ若カサルヤ論ナク原則トシテ個人經營ハ團體經營ニ卓越スルモノ有ツテ存スル也。

要スルニ氏族經濟ハ之ヲ土地ニ就キテ云ヘハ人口稀薄ニシテ農業技術未タ發達



セズ専ラ粗放の經營ヲ爲ス場合ニハ敢テ不可ナケレトモ人口稠密ナル大消費ノ中心點ヲ有スルカ如キ地方ニ於テ小面積ニ多額ノ資本ヲ投下シ以テ周約經營ヲ爲スニハ甚タ不適當ト云ハサル可ラス、サレハ經濟組織漸ク發達シテ近世の產業組織ノ發現スルト共ニ氏族制度ハ漸次ニ其ノ經濟上ノ本分ヲ失ヒテ崩解ノ非運ニ向テ急クヲ避ケ得サルナリ、一言以テ之ヲ掩ヘハ農耕ノ業カ民族ノ本業タルノ地位ヲ失墜シテ農民變シテ工業民トナリ商工ヲ以テ經濟ノ組織本體ト爲スニ至ルノ曉ハ即チ氏族制度ノ命數盡クルノ日タルナリ。

氏族制度カ其ノ經濟上ノ任務ヲ失ヒタル後ト雖トモ防備上司法上其他社會上ノ諸任務ハ比較的長ク保存セラルルヲ常トス然シ之等モ亦氏族ノ上ニ位ス可キ權力團體ノ發現スルト同時ニ其ノ命數ヲ盡スナリ、例ヘハ氏族組織ニ於テ最モ尊重ス可キ職分ト看做サルル復讐ノ如キモ一度國家ノ司法制度完備スルニ至レハ全ク其ノ力ヲ失ヒ私的報復ハ却テ罪トシテ罰セララルルニ至レルカ如キ之ナリ、其他ノ司法裁判ノ事モ皆同様ニシテ露西亞ノ『ミール』ノ如キニ至リテモ今ヤ其ノ首長ハ『ミール』ノ範圍内ニ限リテノミ警察權ヲ實行シ違警罪ヲ處斷シ一留以上ノ

科料ヲ課シ二日以内ノ強制勞働ヲ命スルヲ得ルノ權ヲ國家ニ依リテ許容サルルニ過キサルニ至レリ。

以上ノ外氏族カ最モ永ク保持シタル職務ハ祭祀上ノ儀式ニシテ支那ノ氏族制度ノ如キ既ニ古キ昔ニ於テ法律上並ヒニ經濟上ノ職分ヲ失墜シ終リタルニ拘ラス尙ホ祭司ノ任ヲ行ヒツツアリ又契史以後ノ希臘羅馬ニ在リテモ祭祀ノ犧牲ヲ共ニスルコトハ即チ同一氏族ニ附屬スルコトノ唯一ノ表彰タリシカ如シ、然レトモ祖先ヲ以テ神ト爲セルモノハ都市若クハ國家カ崇メテ神トナセルモノニ對シテハ漸次全ク其ノ尊嚴ヲ失フニ至リ基督教ノ勢力ノ及ヘル所ニ於テ殊ニ此ノ事情アリシモノノ如シ。

斯ク數ヘ來レハ今ヤ氏族ノ手ニ剩ス所ノ職分ハタタ血統上ノモノ一トナレリ然レトモ血統ト云フ一連鎖ニ依リテ進化ノ大法则タル分化作用ニ拮抗シ能ク氏族制度ノ統一ヲ保チ得ンコト到底望ミ難キ所ニシテ所詮氏族組織ハ其カ經濟上ノ基礎ヲ失フニ至リテヨリ全ク挽回ス可ラサル頽勢ニ向ヒタリト決論セサル可ラサル也。



### 第參篇 父權的家長制ノ大家族制度

通常吾人ノ呼ンテ婚姻ト稱スル所ノ男女結合ハ其ノ永續的ナル場合ニ限ルモノニシテ永續性ヲ欠クモノハ便宜上之ヲ呼ンテ婚姻トナスニ於テ格別ノ不條理ナケレトモ嚴格ニ之ヲ云フ場合ニハ未タ以テ眞ノ婚姻關係ト爲スヲ得ス夫婦的結合ト爲スヲ得サル也吾輩カ先ニ第壹篇第貳章ニ於テ論述セルカ如キ個別的ナル男女一對關係ハ殆ント人類歴史ノ第一頁ヨリ存在シ如何ニ劣等ナル文化階段ニ在ル蠻族ト云ヘトモ全ク此ノ状態ヲ欠クモノハ有ラサルナリサリ乍ラ永續性ヲ欠キ排他性ニ闕ケタル斯ル一時的結合ト排他的ニシテ永續的ナル結合トノ間ニハ大ナル徑庭アルコトナレハ須ラク後者ハ之ヲ前者ヨリ區別シテ眞ノ意味ニ於ケル婚姻ト爲シ此ノ結合ニ依ル男女ヲ以テ夫婦ト呼ハスンハアル可ラス而シテ最狹義ニ於ケル家族トハ斯ル夫婦關係ニ依リテ成立スル一ノ社會的組織ニシテ純粹ナル家族ノ觀念ハ從テ又永續性ヲ有セサル可ラス。

吾輩カ先ニ第壹篇ニ於テ或ハ亂婚的家族ト云ヒ或ハ一時的個別婚姻ノ家族ト稱

セシモノハ實ハ之レ便宜ノ爲メニ假リニ名クル所タルニ過キスシテ今日普通ニ行ハルル家族ノ觀念トハ甚タ相容レサルモノアルコト前ニ一言セル所ノ如シ仍テ吾輩ハ今ヤ永續的ナル男女結合ヲ基礎トシテ成立スル社會的團體生活ヲ家族的生活ト名ケント欲ス但シ夫婦アレハ此ニ子女アリ從テ家族ト云フ觀念中ニハ必スヤ父母及ヒ子女ノ三要素ヲ包含セサルヲ得ス之レ吾輩カ本論ノ冒頭ニ於テ家族ヲ定義シテ「狹義ノ家族トハ永續的結合ノ下ニ在ル夫婦ト其間ニ生レタル子女トヨリ成ル團體ナリ」ト云ヘル所以ナリ。

永續的結合ノ下ニ於ケル夫婦關係ヲ基礎トスル家族ナル觀念カ既ニ夫婦ノ間ニ生レタル子女ヲ包含シ夫婦對立ノ關係ノ外ニ親子連續ノ觀念ノ併存ストスレハ其ノ子女カ他ノ男子ト永續的結合ヲ爲シテ對立的關係ヲ結ヒ又其間ニ子女ヲ舉ケテ連續的關係ヲ生スルニ於テハ家族ナル觀念中ヨリ之等ヲ排斥ス可キ理由ナク家族ノ觀念ハ漸次相及ホシテ夫婦子女子女ノ配偶者及其子女其子女ノ配偶者及ヒ其子女ト云フカ如ク數代ニ渉ル血族ヲモ包含ス可キナリサレト此ノ關係ハ無限ニ擴張スルモノニハ非ス今日ノ社會科學ニ於ケル觀念トシテノ家族ハ一定



固有ノ範圍ヲ有シ其ノ範圍以上ヲ含有セス之レ氏族ト別アル所以ナリサレハ根本ニ遡リテ絶對的ニ之ヲ云ヘハ血族團體トシテハ家族ト氏族トノ間ニ精確ノ區別アル可キ筈ナキナリタタ家族カ親子連續テフ縦ノ關係ノ外ニ夫婦對立テフ横ノ關係ヲ包含スルニ反シテ氏族カ縦ノ關係ノミニ依リテ成立シ横ノ關係ヲ含マサルコト兩者間ノ顯著ナル區別ト見サルヲ得ス。

抑モ氏族制度ハ文明史上進化ノ法則ニ從ヒテ自然ニ發生シ又自然ニ崩解セリ然レドモ其ノ崩解スルニ當リテヤ其ノ成素タリシ家族制度ヲモ同時ニ瓦解セシメテ社會組織カ直チニ各個人ヲ以テ成ル迄ニ至リシニハ非ス其ノ分裂ノ勢ハ家族制度ニ依リテ遮止セラレタリ然モ其ノ家族タルヤ當今見ルカ如キ狭小ナルモノニハ非スシテ羅馬ノ所謂家族ナルモノ、即チ父權ノ下ニ統一セラレタル數代ニ涉ル血族ノ緊密ニシテ堅固ナル團結タル大家族組織タリシナリ而シテ斯ル大家族組織ハ氏族制度ノ下ニ在リテハ殆ント氏族ノ爲メニ沒了セラレ氏族制度カ瓦解スルニ及ヒテ始メテ充分ナル獨立ヲ得テ完全ナル一團結トシテノ地歩ヲ占メ得タリ(註)然リ上ニ氏族ノアリシ間ハ家族ノ權利ハ大ニ局限セラレ家長亦一家族統

御ニ關スル全權ヲ掌握スルヲ許サレス各家屬モ一家ニ從屬スト云ハンヨリハ氏族ノ從屬タリト云フヲ以テ當レリト爲スノ狀ヲ呈シタリシ也。

註 シエツフレー氏曰ク家族内ニ分業協力ノ漸ク發達シ來レハ人類カ漂泊の生活ヲ熄メテ定住ノ俗ヲ立テシ時代ニ在リ、即チ秩序の農耕時代ノ初期ニ在リ而シテ此ノ變遷ノ外部的條件ヲ爲スモノハ増加セル人口ニ對シテ十分ノ食物ヲ供給シ得ル土地ノ生産力ナルカ故ニ時人務メテ自然ニ對スル闘争ノ有効ナラフンコトナ期シ婦女及ヒ奴隸ノ勞動ヲ勤メ以テ確固タル定住ノ腰ヲ据ウルヲ得タリ、事此ニ至リテヨリ初メテ從來部落若クハ氏族内ニ沒了セラレ、タリシ家族ハ其ノ獨立ノ地歩ヲ固メ得ルニ至リタリ蓋シ小團體モ今ヤ能ク別々ノ定住ト生産トヲ爲スヲ得ルニ至リタレハ也ト—*Bau und Leben der Socialkörper.*

ソハ兎モ角トシテ吾輩ハ本論ノ冒頭ニ於テ狹義ノ家族ヲ定義スルト同時ニ大家族ナルモノヲ掲ケタリ、即チ夫婦子女以外ニ數代ノ血族及ヒ其ノ配偶者ヲ包含スル家族組織之ナリ、吾輩ハ以下二篇ニ於テ家族組織ノ此ノ兩形態ヲ論セントスルモノニシテ後者ヲ以テ舊キ形態ト爲シ前者ヲ以テ新シキ形態トナス、元ヨリ何レヲ新トシ何レヲ舊トス可キカニ就キテハ絶對的ニ之ヲ定ムルコトヲ得ス吾輩カ以テ新ト爲ス狹義ノ家族即チ現代ノ小家族ト雖トモ可也舊キ時代ヨリ其ノ存在ヲ見サルニ非ス、唯之ヲ歴史ノ示ス所ニ照シ又之ヲ現代蠻民ノ狀態ニ考ヘ更ニ之



ラ進化ノ法則ノ啓示スル所ニ照セハ原則トシテ人類ノ生活團體ハ粗ヨリ密ニ入り大ヨリ小ニ進ムノ形跡アリ依テ吾人ハ粗ニシテ大ナルヲ舊トシ小ニシテ密ナルヲ新トシタルニ過キス。由來分離の傾向ノ盛ナル所必スヤ又統合ノ勢強ク所詮分化ト合化トハ進化ノ大則ニシテ進化トハ必竟單簡ヨリ複雑ニ入ルノ謂ニ外ナラサル也。人類生活ノ形態亦當初複雑ナル團體の生活ヲ以テ初マリ漸次分化シテ家族生活ト爲リ、今ヤ又家族主義ヨリ個人主義ニ入ラントスルノ分化の傾向熾ナルト同時ニ一方ニハ國家並ヒニ各種ノ企業團結ニ依ル緊密ナル新統一ニヨル合化ノ働ヲ示シツツ有リ。

請フ吾輩ヲシテ本篇ニ於テ舊キ形態タル家長制ノ大家族制度ヲ叙シ次篇ニ於テ現時ノ小家族制度ヲ論シ今ヤ正ニ昭著ナル其ノ崩解ノ氣運ヲ窺ヒ漸次及ホシテ以テ一般社會生活上ノ遠心的傾向ヲ察セシメヨ。

### 第一章 大家族制度ノ構成及ヒ職能

父權的家長制ノ大家族ハ讀ンテ其名ノ示スカ如ク一家ノ首長タル可キ男子カ絶

對ノ統御權ヲ有シ、其下ニ直系及ヒ傍系ノ親族並ヒニ其ノ配偶者カ從屬シテ成セル所ノ共同經濟體ナルコト既述ノ如シ、而シテ家長タルモノカ男子ニシテ其ノ權力ノ絶大ナルコトハ實ニ此ノ家族組織ノ標章ト見ルヲ得可キ所ナリ。

註 父權的家長制ノ大家族ハ The patriarchal Family, Die Patriarchalische Grossfamilie ト呼ハルルモノ即チ之ナリ。

然リ家長ノ權力ハ絶大ニシテ一家ノ統治者タリ立法者タリ裁判官タリ經濟上ノ代表者タリ、即チ其ノ一家ハ今ヤ確固獨立ノ存在ヲ有スルカ故ニ家父ハ即チ外部ニ對シテハ一家ヲ代表シテ立チ賣買ヲ爲シ生計資料ヲ家屬ニ分與シ其ノ勞働ヲ案排ス。妻女ハ奴隸ト同様ノ境涯ニ立チ何等ノ權利ヲ保有セス或ハ賣却セラレ虐使セラレ(註二)兒女亦之ト運命ヲ同クシ全ク其ノ人格ヲ認メラレス寧ロ一個ノ財產トシテ取扱ハレ其ノ婚姻ノ如キ當人ノ意向如何ハ全ク顧ミララル所ニ非ス(註三)又一家内ニ死刑ヲ實行スルコトモ稀ナラサル也。

註一 ケニヤ古往今來婦人ノ境遇ハカリ哀レナルハ莫シ暫クイフイゲニ一ガ荒蠻タルタウリスノ濱邊ニ較ル悲歎ノ聲ヲ聞ク。

Ich rechte mit den Göttern nicht; allein

Der Frauen Zustand ist beklagenswert.

第三章 父權的家長制ノ大家族制度



Zu Haus und in dem Kriege herrscht der Mann,  
Und in der Fremde weis er sich zu helfen.  
Ihn freuet der Besitz ; ihn krönt der Sieg ;  
Ein ehrenvoller Tod ist ihm bereitet.  
Wie enggebunden ist des Weibes Glück !  
Schon einem ruhigen Gatten zu gehorchen,  
Ist Pflicht und Trust ; wie elend wenn sie gar  
Ein feindlich Schicksal in die Ferne treibt !  
(Iphigénie auf Tauris—Ein Schauspiel von W. von Goethe ; 1. Aufg.)

註二 古ペルシヤ、北亞米利加ノ印度人及ヒスバルタニ在リテ羸弱ナル子女不具ナル子女ハ一  
家ノ負擔ヲ増スニ過キストシテ之ヲ殺戮スルカ如キ又カピレン族カ庶子私生兒ノアルハ一  
家ノ不面目ナリトシテ之ヲ望息セシムルカ如キ又印度人支那人カ自ラ養育シ得ル以上ノ女  
兒ヲ殺戮スルカ如キ(Biel—Die Familie S. 140; Grosse, a. a. O. S. 234 ff.)

斯ク一家ニ在リテ支配者タル家父カ絶對ノ權力ヲ有シ妻子ハ多大ノ犠牲ヲ供シ  
テ其ノ權力ニ服從シタルハ然カスルニ非サレハ家族ノ堅固ヲ維持シ其ノ發達ヲ  
計ルヲ得サルカ爲メニシテ妻ハ自己ノ姓ヲ捨テテ夫ノ姓ヲ襲ヒ宗教上ニ於テモ  
多クハ夫ノ宗旨ニ從ヒ夫ノ宗派ハ其家ノ宗派トナリ子女ハ當然之ニ從フナリ而  
シテ此ノ關係ハ獨リ夫婦親子間ニノミ止ラス祖先ト後裔トノ間ニモ行ハレ祖先

ハ子孫ノ權利ノ創造者ニシテ後昆ノ進ム可キ道ノ開拓者タルノ狀アリ。

父權ノ絶對的ニ強大ナルコトハ即チ大家族制度存立ノ重心ヲ爲スモノニシテ父  
權ナキ所即チ大家族制度無シト云フモ妨ケス、然ラハ父權ハ何ヲ基礎トシテ成立  
セルヤ、總シテ父權發生ノ條件ヲ爲スモノハ比較的大財産ノ蓄積セラレタルコト  
ト、妻ノ賣買行ハルルコトト、良好ナル家屋若クハ天幕ノ類ノ建造サルルコトト牧  
畜經濟ノ行ハルルコトト男子カ農耕ノ業ニ與ハルルコト等ニシテ(註)擴大サレタル  
單一的家計カ有爲堪能ナル管理ノ手腕ヲ要スルニ至リシコトモ正ニ其ノ一條件  
ナリ、而シテ吾輩ハ既ニ父權ナルモノカ親父ナル觀念ヨリ發達セルモノニ非サル  
ヲ見タリ、元來 Paternal 語ハ親父(自己ヲ生ミタル者)ト同意義ヲ有スルモノニハ非  
スシテ強力、權力若クハ支配ト云フカ如キ觀念ヲ表章スルモノナリ、從テ父權ノ根  
源ヲ尋ヌレハ終ニ腕力及ヒ財産上ノ力ニ歸着セサルヲ得サル可シ。

註 之ハ決シテ各民族ニ普遍ノコトニハ非スシテ何等賣買婚姻ノ行ハルルタル形蹟ナク若クハ  
又牧畜經濟ノ行ハレタルコト無キ民族ニアリテモ父權ノ發生セルアルヲ忘ル可クサル也、  
尙フステル氏ハ以上ノ父權ノ發生ニハ尙ホ他ノ根據アルコトヲ主張スルモノニ  
シテ氏ハ其ノ根據ヲ祖先祭祀ノコトニ求メタリ、即チ家長ハ祭祀ノ司掌者ニシテ



家屬ハ誰一人トシテ此ノ地位ヲ爭フモノナク祭祀ノ長ハ從テ一家ノ長タル可キナリト。然リ祖先ノ靈ノ存在ヲ疑ハサルコト人ノ存在ヲ疑ハサルカ如クナル民族ニ於テ誰カ其ノ祖先ノ靈ヲ祀ルノ祭主タル家長ノ權力ヲ疑ハシヤ、然レトモ祭祀ノ長タルカ爲メニ家長タリシカ將又家長タルカ爲メニ祭祀ノ長ノ地位ヲ占メシカハ疑有ル所ニシテ此ノ關係ニシテ明ニセラレサル限リハ氏ノ説明ハ殆ント何ノ用ヲモ爲ササル也。

タタ祖先祭祀ノコトト關連シテ是非脫カサル可ラサルコトハ養子ノ制ナリ。家長ハ祖先ノ靈ヲ祀ル事ニ依リテ同時ニ自己ノ死後ヲ用フ可キ相續者ヲ缺ク可ラストノ考ナ起ス可キハ自然ニシテ子孫ナシテ自己ノ亡靈ニ供養セシメテ以テ饑鬼道ニ陷ルノ災ヲ避ケントスル情願切ナルノ結果ハ子孫ナクシテ死スルト云フコトヲ以テ最モ恐ル可キ事實ト爲シ希臘羅馬支那及日本等ニ於ケル養子ノ制此ニ於テカ起リ、獨逸古代ノ代理生殖ノ變風之ニ乘シテ起レルノ外又婚姻ヲ以テ人生ノ要務ト爲シ然モ婚姻ハ子ヲ舉グルノ方法トノミ見テ子無キノ妻ハ之ヲ去ル可シトノ法律ヲ設クルノ甚シキマテ至ラシメタリ。

忘ル可ラサルコトハ子孫ヲ統御シ其ノ勞働ヲ利用シテ自己現下ノ慾望満足ノ資ニ供シ引キテハ老後ノ給養ヲモ得ントスル經濟的利益カ又與リテ大ニ父權ノ發生ヲ助ケタルコト之ナリ。

經濟ノ點ニ關シテハ家長制ノ大家族ハ大ニ原始的ノ生活團體若クハ氏族ト其ノ面目ヲ異ニシ原始的生活團體カ粗脆ナル集團ニシテ確固タル存在ヲ有セサルニ反シテ大家族ハ其ノ家長權ト財產トヲ中心トシテ能ク數代ニ涉ルノ牢固ナル存在ヲ保チ得タリ。氏族組織モ其ノ或者ニ至リテハ緊密ナル共同經濟體ナリシヤ疑ナケレトモ其ノ團結ノ餘リニ大ナルモノハ其ノ職分モ從テ粗漫ナルヲ免レサリシ也。之ニ反シテ家長制ノ大家族ハ其團結ノ範圍ノ狭キタケ其ノ結合ノ度モ強ク其ノ結合タルヤ人生ノアラユル目的ノ爲メニセラレ其ノ經濟ハ自然的ニ且ツ集約的ニシテ組織アリ統一アル分業行ハレ人生自然ノ怠惰性ニ打克ツニ足ル可キ勞働ノ強制アル而已ナラス疾病老衰等ニ對スル温キ庇護所タルノ實質ヲ備ヘタリ。

總テ家長制ノ大家族ノ經濟ハ衣食住ニ關スル消費方面ハ申スニ及ハス生産分配ノ總テノ方面ヲ包有セシ也。蓋シ交易未タ多ク行ハレス貨幣取引ノ少キ時代ニ當リテハ牧畜若クハ農耕ヲ業トスル家族ノ經濟ハ主トシテ其ノ團體組織ノ體様如何ニ關係シ大體ニ於テ獨立ニシテ且ツ自足的ナルヲ便トシタレハ也。從テ或場合



ニハ家長カ各家屬ヲ使役スルコト頗ル過酷ナルノ譏ヲ免レ難シト雖トモ各人カ家族ノ一員ナルノ事實ト其ノ經濟カ狹隘ナル自家經濟ナルコトトハ幾分此ノ譏ヲ和クルニ足ル可キ所ニシテ家人ノ境遇ハ自家經濟(Eigenwirtschaft)ノ繼續セル間ハ可也堪エ得ヘキモノナリシトセサル可ラス。然レトモ家族カ市場ノ爲メニ經濟ヲ營ミ依テ以テ成ル可ク多額ノ所得ヲ得ントスルニ至リテヨリハ家人ノ境涯ハ一段ノ悲境ニ陥リ僕婢奴隸ノ虐役ハ大ニ其度ヲ加ヘタル可キヲ否定シ難シ。一家ノ財產ハ前既ニ一言セルカ如ク其ノ管理處分共ニ家長ノ專斷ニ委テラレシカ然モ家長ハ隨意氣儘ニ之ヲ爲シ得タリシニハ非スシテ殊ニ其ノ處分ニ關シテハ多大ノ制限ヲ被ラサルヲ得サリシ也。即チ財產ト家トハ殆ント離ル可ラサル一觀念ヲ爲シ(註)財產ハ寧ろ家ト共ニ永續シ家長一代毎ニ手ヨリ手ニ移轉スト云ハシヨリハ財產ハ終始變ル所ナク其ノ管理者カ却テ交替シタルノ觀アリシ也。

註 或學者ノ說ニ從ヘハ家族ト云フ文字ハ財產ト云フ意味ヲ有ストノコト也 Fustel de Coulanges (La Cité antique P. 118) ハ曰ク Familia ナル文字ノ眞意ハ財產ニシテ知地家屋金錢奴隸等ヲ指ス語ナリ Oikos ニ至リテハ明カニ財產若クハ家屋ヲ意味スト。

一家ニ自足經濟行ハルルノ結果夫妻、妻、子女、僕婢間ニハ整然タル分業行ハルル

モノ也。惟フニ分業ナルモノハ其初メ男女性ヲ異ニシ從テ精神的並ヒニ肉體的ノ力量ヲ異ニスルニ發源スルモノニシテ夫婦間ニ分業ノ行ハルルカ如キハ原始時代ヨリノコトニ屬ス。即チ漁獵時代ニ在リテハ夫ハ山野ヲ跋涉シテ禽獸ヲ捕獲シ若クハ海濱波上ニ出テテ魚屬ヲ漁リ妻ハ原野沼澤ニ徘徊シテ或ハ草根木皮ヲ集メ或ハ昆虫ノ類ヲ拾取ス而シテ家事一切ノコトハ妻ノ任務タルヤ云フ迄モ莫シ。又漂泊常ナキ民族ニ在リテハ荷物ノ運搬整理等ハ自ラ妻ノ任スル所トナリ夫ハ專ラ外敵ニ對スル戰爭及ヒ禽獸ノ防禦捕獲等ニ從事スル也。牧畜民ニ在リテハ家畜ニ關スル一切ノ仕事ハ夫——一般ニ男子——ノ業務ニシテ大底妻ハ汚レタルモノトシテ尊キ畜類ニ干涉スルヲ許ササレトモ或種族ニ在リテハ搾乳ノコトハ女ノ仕事ト爲レルモノモ尠カラス。牧畜民ト雖トモ僅カ計リノ農作ハ之ヲ兼テ行フヲ常トシ而シテ其ノ農耕ノコトハ專ラ妻ノ任務トセラレ、妻ハ又屋舎ノ築造其他一部ノ家内經濟ヲ擔任スルコト漁獵民ト異ラス。次ニ農耕民族ニ在リテハ妻ノ經濟的業務ハ極メテ廣ク極メテ多シ、特ニ劣等農耕民族ニ在リテ然リトスルコト既述ノ如シ。元來農耕ノ業ハ婦人ニ依リテ發明セラレタリト云ハルル程ニテ當初漁獵的



原始時代ニ婦人カ草根木皮ヲ採集セルコトカ漸次ニ發達シテ終ニ土地ヲ耕シ之ニ播種スルノ方法ヲ取ルニ至リタルモノナル可ケレハ婦人カ農耕ノコトニ於テ大ナル部分ヲ働クハ寧ロ自然ノ數ト云ハサル可ラス。

多妻制若クハ蓄妾制ノ行ハルル所ニ在リテハ多妻若クハ妻妾間ニ經濟的分業行ハルルヲ常トシ若クシテ美ナルモノハ専ラ家ニ在リテ家内經濟ノコトニ任シ、老イテ醜ナルモノハ野ニ出テテ男子ノ業務ヲ助クルヲ例トス可シ、又妻妾間ニ在リテハ通常妻ハ家内經濟ヲ司リ妾ハ生産的方面ノ任事ニ用ヒラルルヲ例トスル也。然レトモ多數ノ民族ニ就テ之ヲ見ルニ各妻若クハ妻妾間ノ關係ハ極メテ複雑ナルモノニシテ一概ニ之ヲ論スルヲ得サルモノ多シ唯タ各妻若クハ妻妾カ住居ヲ異ニスル者ニ在リテハ其間ニ分業ノ圓滑ニ行ハルルコト多キヤ論ナシ、而シテ稍々進歩セル民族ニ在リテハ妻子ハ勞働ヨリ免除サルルモノ多シ之レ妻カ入嫁ノ際奴隸ヲ携エ來リテ以テ自己ノ勞働ニ代ラシメタルヨリ起レルモノナリトノ觀察アリ又一理ナキニ非ス、然レトモ婦人ノ解放ト云フコトハ斯ク直接ノ經濟的動機ノミヨリ來レルモノニハ非スシテ文明ノ進歩ニ伴フ社會觀念ノ變遷ノ結果ト

シテ婦人ノ地位漸次ニ改善セラレ從テ各方面ニ於テ其解放ヲ見ルニ至リ經濟上ノ勞務モ亦之ニ從ヒテ漸次輕減サルルニ至リタルモノナルヲ忘ル可ラス、サハ云ヘトモ奴隸制度ノ盛ニ行ハルル所ニ在リテハ未タ甚タ幼稚ナル經濟及ヒ社會階級ニ立ツ民族ト雖トモ一般ニ婦人ノ勞務比較的ニ辛慘ナラサリシハ事實ナリ。

凡テ原始的狀態ニ在ル民族ニテハ婦人ハ男子ノ一所有物タルニ過キスシテ男子ハ之ヲ賣買シ貸借シ若クハ之ヲ典物トスル等殆ント他ノ所有物ト同一ニ取扱ヒタルモノナレハ婦人ハ所有權ノ目的物テコンアレ自ラ其ノ主體トシテ立ツコト無シ、然ルニ稍々進歩セル民族ニ在リテハ婦人モ亦一定ノ物品ニ對シテハ所有權ヲ有シ衣服什器ノ類ハ勿論稍々資本的性質ヲ有スルモノヲモ所有スルヲ得タリ特ニ其ノ嫁資ノ如キハ大抵其ノ特有財產トシテ永ク夫ノ財產ト區別セラレ死亡離婚等ノ場合ニハ夫ハ之ヲ返還スルノ義務ヲ負フモノ少カラス斯ル場合ニ於テハ夫妻間ノ經濟的關係ハ以上述ル所ノモノトハ大ニ面目ヲ異ニシ妻ノ經濟地位ノ堅固ナルコト自明ノ理ナリ、然ルニ嫁資カ夫婦ノ共有財產トナル習慣ヲ有スルモノニ在リテハ其ノ管理權ハ大抵夫ノ手ニ歸シ妻ハ之ニ對シテ殆ント何等ノ容



嫁權ヲ有セサルモノ多シ、唯例外トシテ妻モ夫ト同等ノ權利ヲ有スルモノ有ル而已ナラス可也多數ノ場合ヲ爲スモノハ夫ハ妻ノ同意ヲ得ルニ非レハ嫁資ヲ處分シ得サルコト之ナリ。

妻ノ勞働及ヒ所得ハ夫ノ手ニ歸スルモノト妻ノ特有財産トナルモノト有リ總テ賣買婚姻ノ俗ヲ有スル民族ニ在リテハ妻ノ勞働及ヒ其ノ所得ハ賣買代金ノ果實トシテ良人ノ手ニ歸スルヲ常トス、又家族若クハ氏族團體カ入嫁者ノ持參物ニ對シテ權利ヲ有スルモノニ在リテモ之等ノ手中ニ落ツルヲ例トス。

夫ノ財産ニ對シ妻カ相續權ヲ有スルヤ否ヤモ民族ト時代トヲ異ニスルニ從ヒテ相違アレトモ大抵ノ劣等民族ニ在リテハ相續ハ夫ノ甥若クハ子其他近親ノ男子ニ依リテセラルルヲ常トシ妻カ之ヲナスハ稀ナリ、而シテ我國ノ如ク古クヨリ長子相續ノ行ハルル國ニ在リテハ妻カ相續ヲ爲スハ寧ロ例外的場合タルニ過キス、然レトモ良人カ家族ノ長タラサル場合ニ在リテハ自ラ聊カ其趣ヲ異ニスルモノ有リ妻カ死亡セル場合ニハ夫ハ其ノ財産ヲ相續スルコト通例ナリ但シ長子之ヲ相繼シ若クハ子女間ニ分配スルコト無キニ非ス然レトモ又遺言ノ効力ヲ認ムル

社會ニ在リテハ之等ノ關係カ更ニ一層ノ複雜ヲ加フルコト勿論ナリ、ケニヤ家長制ノ大家族ハ以上ノ如キ構成ト職分トヲ以テシテ古代亞細亞ノ文明國、希臘、羅馬ノ時代ヨリシテ引キテ中世ノ末葉ニ及ヒ今尙ホ多數ノ半開民族間ニ現存ス、思ヘハ實ニ長キ歴史ヲ有スルモノニシテ此ノ數千年ノ歴史ヲ通シテ常ニ社會重要ノ組織ヲ爲シ又經濟ノ機關トシテ人類ノ進歩ニ貢獻セル所尠ナラス、總テノ經濟行爲ヲ個人ノ手ニ委テスシテ家族團體ノ手中ニ收メ團體一體トシテ財産ノ所有ヲ爲スハ勿論生産消費ノ一切ヲ經營シ終ニ當今ノ個人的自由競争制カ漸ク經濟組織ノ大體ヲ爲スニ至ル迄其ノ働ケル功績ハ甚タ尊重ニ價スルモノ有ルナリ。

實ニ父權制ノ大家族組織ヨリシテハ希臘羅馬ヲ根據トシテ起リ今日ノ歐洲文明諸國ヲ支配スル所謂「アリアン」式血統制度及ヒ相續制度ヲ產出シ(註二)又手工業(註三)家内工業(註三)家長的工業組織及ヒ小農制ノ如キ舊式ノ企業組織ヲ生ミタリ、又武家ノ世ニ於ケル郎等制度、家人、家子、郎等(註四)莊園制度(註四)ノ如キモ大家族組織ヨリ發源セルモノ尠カラス、徒弟制度(註五)其他舊式ノ教育制度亦然リ、又今日ノ商會



社ノ如キモ多ク其範ヲ大家族組織ニ取り就中合名會社註六ノ類ハ最モ其ノ命脈ヲ傳ヘツツアリ。其他奴隸制度註七ノ如キモ其流ヲ掬ムコト甚タ多シ。

註一 Morgan, The Ancient Society, P. 395.

註二 Schönberg, Handbuch d. Pöe. II 1 Bd. S. 486 ff.

註三 dito S. 488 ff.

註四 耶等制度、莊園制度ノ如キハ寧ロ多ク氏族制度ニ其源ヲ發スルコト我國ニ其例ヲ見ル所ノ如シ然レトモ大家族組織ヨリ發生セルモノモ固ヨリ多シ。

註五 Schönberg, a. a. O. II 1. Bd. S. 678 ff; II 2. Bd. S. 21.

註六 Conrad, Grundriss I. Bd. S. 215 ff.

註七 我國ノ部曲民モ一種ノ奴隸制度ナル可ク然モ之ハ寧ロ氏族制度ニ其ノ起原ヲ置クモノナリ又羅馬ノ「ゲンス」ニ於ケル奴隸ノ如キモ然リト爲ス、然シ乍ラ奴隸制度トシテ了解サルルモノハ大抵大家族制度ヨリ發生セリト見テ太過ナカル可シ。

然リト雖トモ大家族制度ノ社會上及ヒ經濟上ニ及ホセル勢力ハ各國各民族ヲ通シテ一樣ナルヲ得ス、特ニ貨幣經濟ノ普遍、分業ノ發達ヲ見ルニ至リテ近世國家成長シ新企業組織起リ、都市ニ人口流入スルノ勢昌トナリ、個人主義カ閑聲ヲ舉クルニ至リテハ大ナル動搖ヲ被ラサルヲ得ス、此ノ過程ハ既ニ雅典羅馬ノ盛代ニモ著ルシク文藝復興期ノ伊太利及ヒ之ニ引續キテ起レル當今ノ文明諸國ニ於テ最モ其ノ昭著ナルヲ見ル也。

遮莫大家族制度ノ根本要素ト様式トハ尙ホ今日ニ殘存シ歐洲ノ小家族制度ニ於テモ幾分家長的政治行ハレ權威 *Auftrieb* ト孝順 *Pflicht* トノ關係殘存ス、換言スレハ訓練ト自由ト並存シテ各人ハ一家ノ利益ノ爲メニ自己ノ自由ト利益トヲ犠牲ニ供セサル可ラサル場合尙未タ甚タ多キナリ、甚而シテ彼ノ保守主義ノ人々カ如何ニモシテ今後ニ於テモ古ノ家長制ノ特徴ヲ保存セントシテ汲々タルカ如キハ此ノ制度ノ廢滅ト共ニ教練、服從、秩序等ノ觀念ノ亡フルアラントヲ恐ルル點ニ於テ正當ナリト雖トモ當今智識道德ノ發達ト思想ノ成熟セル獨立ノ個人ニ彼ノ嚴峻ニシテ專制ナル家長的訓練ヲ強イントスルカ如キハ妄モ亦甚シト云ハサル可ラス。

註 *Pöe.*, a. a. O. S. 130.

### 第貳章 諸民族ノ大家族制度

羅馬<sup>○</sup> 歐洲國民中羅馬ハカリ大家族制度カ重要ナル意味ヲ有シタルハ莫ク *Patria potestas* ノ觀念ハ羅馬人ノ全生涯至歴史ヲ貫流ス、*モムゼン* 氏ノ定義ニ從ハハ羅馬



ノ家族ハ父ノ死ニ依リテ自主獨立權ヲ獲得スル自由男子ト、僧侶カ聖 *Conferratio* ニ依リテ水ト火トノ共有ノ爲メニ彼ニ附託シタル妻ト、兩者間ノ子ト孫ト、其等ノ正妻ト、未婚ノ子女ト、女孫ト、及ヒ之等ノ所有物トヨリ成ルモノナリ。而シテ妻ハ婚姻ニ依リテ夫ノ掌中 *Manns* ニ歸スレトモ夫カ妻ニ對シテ物權的權利ヲ得ルハ前述ノ宗教的婚姻 *Matrimonium Confessione* ノ結果ニハ非ス又民事婚姻 *mat. Consensu* ノ結果ニモ非ス彼ノ形式上ノ引渡ト時、效トノ法理ヲ適用シテ漸次ニ之ヲ取得スルモ也。總テ法律上有效ナル婚姻カ取結ハレタル場合ニハ妻ハ夫ニ從屬シ夫ノ死後ハ財産關係上子又ハ夫ノ傍系親族タル男子ノ監督ノ下ニ立チ財産分配ニ關シテハ何等ノ發言權ヲ有セス。若シ姦通スレハ夫ハ直チニ之ヲ殺戮スルヲ得タレトモ夫ノ姦通ハ其カ爲メニ他ノ男子ノ父權ヲ傷害スルニアラサレハ罰セララルコト無シ。子女ニ對スル *Pater Familias* ノ權力ハ絶大ニシテ生殺與奪ノ全權ヲ有シ。新生兒ハ父之ヲ認知セサルニ於テハ即座ニ殺害セラレタリ。父ハ又己カ意思ノマニマニ子女ノ婚姻離婚ヲ爲シ、子女カ生産シ取得シタル財産ハ悉ク父ノ有ト爲リ。家屬ハ特有財産ヲ持ツヲ得ス。

羅馬人ハ自國人ヲ奴隸トスルヲ得サルモ父ハ其子ヲ自國人ニ奴隸トシテ賣却スルヲ得主人ヨリ解放セラルレハ直チニ父權下ニ歸服シ子女ハ永久父權ノ束縛ヲ脱スルヲ得ス。又父ハ *tutio in mancipium* ト呼ハレタル手續ヲ以テ子ヲシテ五年間他人ノ下ニ勤勞セシムルヲ得、此ノ年期ハ三度迄ハ之ヲ更新スルヲ許サレ都合十五ヶ年ノ服役ヲ命スルノ權ヲ許サレ居ル也。家父ハ一家ノ財産ヲ自由ニ處分スルヲ得レトモ幾分ノ制限ヲ被リ少クトモ或ル時代ニハ *Pater Familias* ハ *res mancipi* ナル名ノ下ニ知ラレタル財産ノ處分權ヲ有セサリシヤ疑ヲ容レス、此ノ財産ヲ構成スルモノハ家屋家畜奴隸等ニシテ此ノ處分制限ノ根據スル所ハ家神崇拜ニシテ家財ノ賣却其他ノ處分ハ家神ノ憤怒ヲ買フト云フノ信仰之ナリ。男子ナキ父ハ養子ヲ爲スヲ許サレタレトモ特別法ノ規定ニ從ヒ宗教的儀式ニ依リテノミ之ヲ爲スヲ得可ク又成年者ニ非サレハ養子ト爲スヲ得サル也。家父ハ公然ナル方式ニ從ヒ遺産相續其ノ分配及ヒ奴隸ノ作業所ニ就キテ遺言ヲ爲スヲ得、相續ハ最初長子制ナリシモ後ニハ各子平等ナル分續制行ハルルニ至リタリ。

希臘ノ制俗亦多ク羅馬ノ有様ニ異ラス、女子ハ終生男子ノ權力ニ服從セサ



ル可ラス、夫ハ自由ニ妻ヲ離婚シ若クハ他ニ嫁セシメ、自己ノ死後ニ於ケル再婚ニ干涉シ、或ハ又妻ヲ家内ニ幽閉スルヲ得タリ、サレハ雅典人ハ妻ヲ以テ終生ノ侶ト尊重スルモノ無ク、夫ノ趣味ハ一ニ社會的政治的ノ事物ニ走リテ家庭ハ夕夜ノ休息所タルニ過キ、妻ハ唯家ヲ守リ子女ヲ教育スルカ爲メニ有ルモノト爲サレタリ。妾媼ハ早クヨリ存在シ人之ヲ不徳トセス、大雄辯家デモースゼテスラ之ヲ以テ公然ノコトトセリ、妻ハ又大麥一シエツフェル(一斗八升)ノ價格ニ超ユル財産ヲ所有スルヲ得ス、法律行爲ハ總テ男子ヲ代理人トシテ爲ササル可ラサル而已ナラス、夫死スレハ子ノ後見ニ服スルノ義務ヲ負ヘリ、子女ノ地位又羅馬ニ於ケルト選フ所ナク唯タ婚姻スルコトニ依リテ父權ヨリ脱スルヲ得タリ、然レトモ結婚ハ決シテ子女ノ自由意思ニハ委セサリキ、相續ハ長子制ナリ。

スパルタニ在リテハリクルグスノ立法ハ全然共產的國家ヲ造ラントスルニ在リテ家庭的生活ヲ許サズ、一家カ財産ヲ私有スルヲ禁シ子女ハ生レ落ツルトヨリ國家ノ有ト爲リ看守婦ニ托セラル、食事も公食堂ニ於テ共同ニスル也、從テ夫婦親子ノ愛情ト名ク可キモノ無ク、唯タ市民ト市民的道德トノ外何物モ無シ、Zu Hause fand

der Spartaner nichts, das ihn festen könnenトハ詩聖シルレルノ至言ナリ。

日耳曼人 日耳曼人ハ一般ニ女子ヲ尊敬スルノ風アリタリト信セラルレトモ當ラス、婦人ハ夫ノ所有物ニシテ婚姻ハ賣買婚姻ナリ、男子ハ一妻ニ甘ンセスシテ富貴ナル者ハ多數ノ妻女ヲ有シタリ、夫ハ妻ニ對シテ *jus venditionis* ヲ有シ之ヲ賣却スルヲ許サレタリ、婚姻ハ子女ヲ出生センカ爲メニ之ヲ取結フモノニシテ子無キノ妻ハ當然ニ離婚ス可ク、夫カ生殖力ヲ缺ク場合ニハ長老ノ前ニ於テ代理者ヲ選定スルヲ得タリ、然レトモ妻ノ姦通ハ死ヲ以テ罰セラレ、夫ニ其ノ所罰權アリ、父ハ子女ノ生死ニ關シテ全權ヲ有シ未成年ノ男子及ヒ未婚ノ女子ハ之ヲ賣却スルモ妨ケス、男子ハ婚姻ニ依リテ獨立スルヲ得サルニ非サレトモ多クハ數代ニ涉リテ父ノ家ニ共棲シテ大家族ヲ成セリ、此ノ状態ハ現今尙ホ農民間ニ之ヲ見ルヲ得可シ、支那 歐洲ニ於テ既ニ滅亡ニ歸セルモノモ東洋ニ於テハ尙ホ之ヲ實見スルヲ得可キモノ尠カラス、支那ノ家族制度ノ如キ今日大家族制度ノ典型ト爲スニ足ル也、家長ハ最年長ノ男子ニシテ絕對權ヲ享有シ妻ハ全然夫ノ手中ニ在リテ法律上一個ノ奴隸タルニ過キ、一ノ特有財産無ク、食事も如キモ父及ヒ子ト之ヲ共ニスル



ヲ得ス、然レトモ妻ニシテ一度モ寡婦トナレハ財産上ニ於ケル全權ヲ掌握ス、離婚ハ妻ヨリ之ヲ爲スヲ得サレトモ夫ノ方ハ自由ニシテ七去ノ法則行ハレ夫ハ妻ノ姦通ニ對シテ相手方ト合セテ之ヲ制裁スルヲ得可シ。夫ハ又購買シ扶養シ能フ限リ多數ノ副妻妾嬖ヲ蓄フルヲ得、正妻ハ夫ヲ呼フニ良人ヲ以テスレトモ副妻妾ノ類ハ主人ヲ以テス。又夫ハ副妻妾ヲ離別スルニ當リテハ多クハ初メ之ヲ得來リタル所ニ返還スレトモ時ニ或ハ娼家ニ賣却スルコト有リ。然シ北方支那ニ在リテハ一妻制行ハル。斯ク婦人ノ地位ハ下劣ナレトモ然モ夫ハ財産ヲ各ムノ情ヨリシテ妻ヲ惜ミ社會上婦人ハ却テ大ニ尊重セラルト云フ。子女ニ對スル父ノ權力ハ絶對的ニ強大ニシテ古今東西多ク其比ヲ見ス、即チ父ハ專擅ニ子女婚姻ノ約ヲ結ビ或ハ之ヲ賣却シ或ハ之ヲ質入シ、南方支那ニハ女兒殺害ノ蠻風スラ行ハル。子女ハ又母ニ對シテモ絶對服從ノ義務ヲ負ヒ父母ニ孝養ナルコト支那人ノ如キハ無シ。子女婚姻スルモ多クハ父ノ家ニ留リ其ノ所得ハ總テ家父ノ財産ニ流入シ經濟的獨立ヲ得ルコト無シ。家長ハ凡テ一家ノ安寧幸福ノ爲メニ萬事ヲ處理セサル可ラス、然モ家政ヲ料理スルニ當リテハ成文ノ家憲ニ依リテ之ヲ爲ササル可ラス家憲ハ

收入支出ニ關スル物質上ノ規定ヲ包含スルノミナラス一家ノ名譽ヲ毀損スル者ニ對スル處罰權ヲモ規定ス、サレハ支那ノ大家族組織ハ父權ニ依リテ統御セララルル一小國家タルノ觀アリ、家父ハ又遠言及ヒ養子ヲ爲スヲ得、家族ノ財産ハ家父カ相續シタル物及ヒ之ニ依リテ取得シ得タル可キモノヲ總括シ出テテ官吏ト爲リ又ハ獨立ノ商人ト爲ラントスル子等ハ此ノ家族財産ニ對シテハ何等ノ依頼若クハ權利ヲ有スルコトヲ得ス、又父ノ死後母ノ同意ニ依リテ遺産ハ子等ノ間ニ分割サルレトモ彼等ハ依然トシテ數代ノ間共同生活ヲ營ミ結婚等必要ノ場合ニハ住家ニ逐次一室ヲ増築ス。

斯ル一家共同團體ハ平均十六人ヲ以テ成レトモ時ニ或ハ四十人ノ多キニ達スルコトアリ、然シ乍ラ廣大ニ失スルノ虞アリ又ハ融和ス可ラサル紛擾ノ生シタル場合ニハ此ニ分離ヲ爲ス、此ノ共同生活ノ發生セル原因ハ種々アル可ケレトモ主タルモノハ父母生存間ニ行ヒタル共同生活ノ習慣ト兩親ノ死ニ依リテ固メラレタル家庭的祭祀ノ共同ナルコト及ヒ年長者ヲ尊敬スルノ道德的感情ナルカ如シ、而シテ事務的ナル支那人ハ斯ル共同生活ニ依リテ多大ノ經費ヲ節約スルヲ得、又外



ニ國家法律ノ保護薄キ彼等ハ此ノ單純ニシテ愉快ニ然モ効力多キ相互保障ノ甚タ便利ナルヲ發見セリ。

日本。日本ノ現狀ハ恰モ過渡時代ニ在ルモノナレハ一方既ニ歐洲風ノ小家族制度(一家ハ夫婦及未獨立ノ子女ヨリ成ル)カ社會ノ上中流ニ行ハルルト共ニ他方又古來ノ家長的大家族制ヲ維持スルモノ寧ロ國民ノ多數ヲ占ム、然レトモ其ノ家族ノ範圍ハ決シテ昔日ノ如ク廣大ナルモノニハ非スシテ通常三四代ヲ以テ限トシ家ニ三夫婦以上在ルハ稀ナリ、然ルニ遡リテ古昔ノ狀態ヲ見レハ大寶令ニ五等親ヲ以テ親族ノ範圍トシ然カモ五等親ノ制ハ家ヲ基トシ相續ヲ主トスルヨリ見レハ一家ノ範圍極メテ廣大ナリシヲ知ルニ足ラン、總テ一家ハ其ノ始祖ノ事業ヲ繼承シ來レル風ナルカ故ニ家長タルモノハ常ニ家屬ヲ統御シテ其ノ氏神タル祖先ヲ祭リ社會ニ對シテ我カ家族團結ノ固キヲ競ヒ更ニ家名ヲ發揚センコトヲ期ス、家長ヲ『いへぎみ』ト云ヒ家屬ニ對シテ絶對的權力ヲ行ヘリ、持統紀五年ノ詔ニ若有百姓弟爲兄見賣者從良、若子爲父母見賣者從賤トアルニ依リテ見レハ家長タル父兄ハ家屬タル子弟ヲ自由ニ賣買スルコトヲ得シカ如シ、家長ノ權力絶大ニシテ家

屬ハ常ニ服從ノ義務ヲ負フト共ニ家長ハ又之ニ對シテ誘導啓發ノ義務ヲ有スルコト頗ル大ナリシ也。

家長制ノ通則ニ漏レス妻ノ地位ハ下劣ニシテ離婚ハ夫ノ一方ヨリ自由ニ之ヲ行ヒ所謂七去ノ法則ヲ認メ『咎』ヲ以テ其ノ一則ト爲スカ如キ奈何ニ妻ノ境涯ノ憐ムニ堪エタルモノナリシカヲ知ルニ足ラン、又妻カ齋セル財產一切ハ奴婢牛馬ニ至ルマテ夫婦同財ノ法ニ依リテ夫ノ物トナリ、若シ夫ニ父アル時ハ父子共財ノ法ニ依リテ轉シテ舅即チ家長ノ有ニ歸ス、

大寶令ニ『凡戶主皆以家長爲之』トアルハ唐令ノ文言ヲ白雉三年ニ我法トシテ移シ定メタルモノナレトモ實ハ白雉以前即チ不文法時代ノ我カ舊慣ヲ參酌セルモノナルヤ疑ヲ容レス、家長即チ戶主ハ正嫡相承ケ傍系ヲ排斥スルカ故ニ今日ノ如ク一軒一家トシテ各戶主ヲ定ムルカ如キニ非スシテ、戶主ハ一族ノ長トナリテ戶主權ヲ行ヒシ也。

嵯峨天皇ノ御宇皇子數人ヲ下シテ人臣ト爲シ戶ヲ立テタル時ノコトヲ姓氏錄ニ叙シテ曰ク『源朝臣信年六弟源朝臣弘年四弟源朝臣常年四弟源朝臣明年二妹源朝



臣貞姬年六、妹源朝臣潔姬年六、妹源朝臣善姬年二、信等八人是今上親王也、而依弘仁五年五月八日勅賜姓貫左京一條一坊以信爲戶主トアリ、即チ信ハ八人ノ戶主ト爲リシ也。此ノ如キ例ハ國史ニ多ク見ル所ナリ。奈良朝時代ノ戶籍簿ノ古社寺等ニ殘存セルモノニ一戶ニハ數夫婦數十人同棲シタルノ事實ヲ見ル。

(註)

註 有賀博士ノ説ニ依レハ一戶ニハ五十人乃至九十人ヲ包含シタリト云フ。

右ノ如クナリト雖トモ家屬ハ戶主ト同シク男女共ニ六才ニ至レハ男ハ二段、女ハ其三分二ノ田地即チ口分田ヲ官ヨリ得テ私有シ其他官吏トシテ得タル封録、若クハ勳功ニ依ル所得、若クハ戶主ノ遺言ニ依リテ得タル財産等ハ皆家屬ノ特有財産ヲ爲セリ、但シ常ニ戶主ノ管理權ニ服シ私ニ典質シ賣却スルヲ許サズ、妻ノ財産モ夫婦同財若クハ父子共財ノ法ニ依リ轉ジテ夫若ハ舅ノ有トナレトモ之レ亦戶主カ存生中管理スルノミニシテ戶主ノ死ニ臨ミテ遺產分配ノ中ニ加フルヲ得ス。然レトモ下リテ中世及ヒ近世ニ至リテハ家長タル戶主ノ權力漸次ニ擴大シ特ニ武人政治ノ世ニ至リテ男子專制カ一般ノ風ヲ爲スニ及ヒテハ所謂女子供の知り

たる事無しト云フ主義ヲ以テ一貫シ戶主ハ絕對權ヲ有シ財産ヲ專有シ妻ハ婢女タルノ境涯ニ在リ、女ハ幼少ヨリ三服從ノ義務ヲ有ス、即チ幼ニシテハ父ニ從ヒ、嫁シテハ夫ニ從ヒ、寡婦トナリテハ長子ニ從フ也、又妻ハ産財ヲ有スルコト無ク又相続ノ分配ヲ受クルコト無キヲ以テ全然夫ニ從屬シ夫ノ食膳ニ侍シ朝夕ノ挨拶ヲ爲シ夫ノ下位ニ坐シ晚ク寢ネテ早く起キ夫ヲ呼フニ主人ヲ以テシ夫ノ爲メニ一切ノ家務ニ任ス、多クハ一夫一妻ナレトモ一人若クハ數人ノ妾ヲ畜フル者少カラス、離婚ハ夫ノ一方ヨリ之ヲ爲シ離婚セラレタル女子ハ大ニ輕蔑セラレ女子ハ大ニ父ヲ尊重恐怖シ之ヲ呼フニ侍父ヲ以テス、父ハ子女ノ絕對的服從ヲ要求シ孝道ヲ以テ道德ノ最美ナルモノトス、子女ノ婚姻亦多クハ父母ノ意思ニ從ヒ新夫婦ハ依然父ノ家ニ留リテ父母ニ奉仕シ、嫁女ハ其ノ舅姑ニ對シテ夫ニ對スルヨリ厚ク奉養ス、子女ノ孝養ハ父母ノ死ヲ以テ了ラス、亡靈ニ對シテノ供養亦甚ク厚シ、相續ハ長子制嚴重ニ行ハレ兄タル戶主ニ對シテハ弟及姉妹ハ父ニ對スルト同様ノ尊敬ヲ拂ハサル可ラス。

當今尙ホ舊式ノ家庭ニ於ケル戶主ノ權ハ甚ク強大ニシテ民法ノ規定スル所亦歐



洲諸國ニ行ハルル小家族主義トハ大ニ其趣ヲ異ニスルモノ有リ。  
 更ニ現今飛彈ノ山中ニ存在スル大家族組織ハ一種特異ノ趣ヲ有シ純然タル家族  
 共產體 (Hausgemeinschaft) ノ俤ヲ有シ甚タ昔時ノ狀態ヲ偲ハシムルニ足ルモノ有ル  
 ト同時ニ其ノ生活ノ實狀ハ又甚タ劣等農耕民族ノ氏族生活ニ似タルモノアルカ  
 如シ其ノ特殊部落ハ即チ飛驒國大野郡ノ西部ニ位シ北ハ加賀越前ト境ヲ接シ相  
 川ノ兩岸ニ沿ヒテ上ハ尾上ヨリ下ハ小白川ニ至ル白川村ト云フ一圓ノ村落之ニ  
 シテ其ノ住民ノ大家族ハ多キハ三十七名ニ上ルモノアリテ其ノ共同經濟頗ル整  
 頓セルモノアリ試ニ福田博士カ其著國民經濟原論ニ於テ東京人類學雜誌所載藤  
 森峯三氏ノ『飛驒國ノ風俗其他』ヨリ引用セラレタル所ニ就キテ概要ヲ抄録スルコ  
 ト左ノ如シ。

○此地習慣ノ奇ナルハ多人數合居ナリ別家ヲ爲スチ忌ミタルヲ以テ一家中壯年ノ男女幾人アル  
 モ相續人ノ外嫁ヲ娶リ親ヲ引受ケ正當ノ結婚ヲ爲スチ許サス他ハ皆私通スルノミ然シ人倫ヲ棄  
 スモノハ更ニ無シト兄妹伯母舅通スルノ類又私通シテ生レタル子ハ戶主ノ姉妹姪伯母等ノ生ミ  
 タルヲ問ハス各戶主ノ子トシテ風出テシカ(中略)多人數ノ一家内ナルモ正當ノ夫婦ハ二三夫婦ニ  
 過キスコレハ當主ノ祖父ト父母ト當主トナリ他ハ伯父母姉妹姪舅又叔父母等ナリ此家族ノ増加  
 スル源因女子多クシテ其多キタク増加ス可シイカントナレハ他ノ二三男ヨリ私通ナシ其生子ハ

必ス其家ノ子ト爲スチ以テナリ然レトモ其子成長シテ十七八才トナリ一人前ノ野仕事ヲ致ス可  
 キ迄ハ其家ノ子ト爲スモ戶主ニ於テハ食物ヲ與フル迄ニテ其他ハ更ニ頼着セヌ其子ノ衣類ヨリ  
 履物ニ至ル迄其ノ生母ノ支辨トナス故ニ女子ニテ辨シ難キハ其ノ私通者(即チ隣家ノ若者)ヨリ補  
 助スル也○此地方ハ米作更ニ積ラス故ニ稗ヲ作り以テ之ヲ常食トナセリ然レトモ戶主一人ハ日  
 ヲ米飯ヲ食セリ當戶主或ハ老衰又ハ都合ニヨリテ相續者ハ家政ヲ讓レハ其日ヨリ直ニ稗トナリ  
 其日マテ稗飯ヲ食セシ相續人ハ忽チ米飯ト化セリ○此地ハ農業ヲ主トシ(中略)農作ハ稗大豆麥  
 蕎麥桑等ナリ之ヲ耕作スルニハ別ニ畑トテハ少ナキヲ以テ山ノ日向ヨロシキ地ヲ燒キ之ヲ開キ  
 テ種ヲ下スナリ(中略)戶主ハ農事ニハ更ニ關セス其ノ指揮者ハ別ニ一家内ニ專任者アリテ戶主ハ  
 野ニ出テス家内ニテ家務ヲ司ルヲ以テ其年ノ收入雜穀又ハ藪何程アリテ幾何ニ賣レタルヤサ他  
 ノ者ニ聞クモ更ニ知ラス戶主ヨリ毎年家族ヘ夏衣ト稱シ麻ニテ織リ之ヲ紺ニ染メタルモノ一枚  
 チ仕着スルヲ例トス(中略)仍テ春ハ七日メ夏ハ五日メ毎ニ休日ト稱シテ戶主ノ仕事ヲ爲サス各自  
 分ノ目的トスル仕事ヲ爲シ或ハ別ニ切畑ヲ作り又ハ山ニ至リ木實ヲ拾ヒ又獵ヲ爲シ休日ニ得ル  
 モノヲ自己ノ所得トナシ之ヲ以テ我カ需要費ニ充ツル故ニ節儉ニシテ能ク勞動スルモノハ衣服  
 履物等烟草入ノ類ニテモ一通リハ所持スルモノ有リ又之ニ反シ或ハ休日ノ餘暇ヲ働カス又ハ酒  
 チ飲ム様ナル輩ハ一家族中ニテモ僅カニ戶主ヨリ仕着ノママナル者モアリ故ニ一家族中ニテモ  
 貧富ヲ異ニセリ。(國民經濟原論二九五頁以下)

### 第參章 大家族制度ノ崩解及ヒ其ノ源因

前二章ニ於テ吾輩ハ大家族制度ノ構成及ヒ諸民族ノ大家族制度ノ狀態ヲ叙ヘタ  
 リ仍テ今ヤ進ンテ社會生活進化ノ道程ニ於テ到底避ク可ラサリシ大家族制度ノ



崩解及其ノ原因ニ付キテ述フル所ナカル可ラス。  
 西歐諸國ノ文化ノ發展ハ決シテ家長制大家族制度ノ存在ニ都合好キモノニハ非  
 ス漸次ニ發達シ獨立ノ基礎ヲ固メタル國家ノ權力ハ次第ニ父權ノ領内ニ侵入シ  
 タリ斯ル開化ノ過程ハ夙ニ之ヲ羅馬史中ニ發見スルヲ得可ク老ケト一ハ尙ホ夫  
 ヲ以テ妻ノ裁判官ト爲シ夫ノ權力ハ無限ナリト爲セトモ既ニ彼ノ時代ニ於テ婦  
 人ノ解放ハ其緒ニ就ケリ子女ノ解放亦國家權力ノ發達ニ依リテ成就セラレ國家  
 ハ父權ニ對シテ一國民タル子女ヲ保護スルニ至リタリ然リ國家ハ強制教育ノ制  
 ニ依リテ子女ヲ家父ノ手中ヨリ奪ヒテ之ヲ官公立ノ學校ニ入レ父ハ之ニ對シテ  
 却テ授業料ヲ支拂フノ義務ヲ課セラレタリ然レトモ歐洲ニ於テ父權制カ最モ痛  
 切ナル打撃ヲ被リタルハ蓋シ基督教ノ傳播テフコト之ニシテ基督教ハ其ノ唯一  
 神ノ光明ヲ以テ家族神ノ光明ヲ闡掩シ同時ニ家父カ祖先祭祀ノ祭主タルノ地位  
 ヲ覆シタリ。

兎ヤ角シテ家長ハ新興ノ經濟事情ニ適合セントスル家族分散ノ氣運ニ對シテ從  
 來ノ絕對權ヲ支持スル能ハス商工業ノ勃興分業ノ發達交通機關ノ完成等ノ新氣  
 運ハ終ニ大家族組織解體ノ功ヲ成就シ各家屬ハ漸次個人的獨立ノ基礎ヲ固ムル  
 コトトハナレリ。

家長權ノ衰亡スルト反比シテ女子ノ境遇ハ次第ニ改善セラレ來リテ父權ヲ抑壓  
 スルノ大權力ハ顧ミテ婦女子ヲ輔翼セリ大權力トハ即チ國家ノ權力之ナレトモ  
 西歐諸國ニアリテハ國家ニモ増シテ勢力ノ大ナリシハ基督教ノ寺院ナリ基督教  
 素ヨリ婦人ヲ以テ全然男子ト同等ノモノトハ爲サス寧ロ婦人ハ人間罪惡ノ母ト  
 シテ終ニ贖罪ノ内ニ居ル可キモノト爲シ特ニ其ノ美貌ヲ以テ惡魔ノ所業トナセ  
 トモ然モ宗教上ニ於テハ全然男子ト同等ニ待遇シ不死ノ靈魂ハ男女性ヲ殊ニス  
 ルニ依リテ區別アルコト無ク神ノ前ニハ人間總テ之レ同一無差別ト爲セリ此ノ  
 信仰カ傳播セルコトハ大ニ婦人ニ對スル男子ノ態度ヲ變化セシメ基督教徒タル  
 男子ハ同等ナル一基督教友トシテ其妻ヲ見サル可ラサリキ。

既ニセテカブルタークノ如キハ婚姻上夫婦同等ニ貞操ノ義務ヲ負フ可キヲ唱道  
 シタレトモ能ク此ノ觀念ヲ一般的ナラシメタルハ基督教ノ力ナリトセサル可ラ  
 ス多妻主義亦基督教ノ排斥スル所ニシテカール大帝ノ如キハ尙ホ二妻ト多數ノ



妾ヲ有シタリシカスル例ハ漸次ニ其數ヲ減シ、法王僧正ノ如キハ務メテ自家ノ徳操ニ注意シ、爲メニ王侯貴族ノ惡習ヲ改メシメシコト尠少ナラサル也。殊ニ法王カ王家ノ離婚問題ニ對シテ嚴正ノ反對的態度ヲ取リシコトハ歴史ニ顯著ナル事實ナリ。影響ノ及フ所終ニ第十二世紀ニ至リテハ離婚ヲ禁止スル寺院ノ主義ハ一般私法中ニ採用セラルルニ至リ婦人ノ地位ヲ高メタルコト頗ル大ナリ。右ノ如ク一方ニ在リテハ國家ト基督教トノ勢力ノ爲メニ父權ノ縮少セラルルト共ニ他方ニ在リテハ婦人ノ解放成就セラレ既ニ大家族制度ハ其ノ據テ立ツ可キ根柢ニ動搖ヲ生シタルニ乘シテ、個人主義ノ勃興ト産業組織ノ革新トニ依リテ促サレタル經濟狀態ノ變遷ハ終ニ大家族制度ヲシテ立ツニ所ナキニ至ラシメタリ。

#### 第四篇 現代一夫一婦制ノ小家族制度

ルソーノ民約論一ト度出ツルト共ニ自由平等主義溥然トシテ歐洲ノ思想界ヲ震盪シ其ノ勢力ノ及フ所終ニ佛蘭西大革命ヲ空前絶後ノ大慘劇ヲ演出シテ美事『アンシャン、レナム』ヲ薨シ、次テ又國家主義ノ勃興ヲ以テ漸次ニ現代諸國家ノ建造ヲ見ルニ至ラシメシコト近世ノ終期ヨリ最近世ニ入ル歴史上ノ大廻轉ナリ。而シテ又他方學界ニ在リテハ進化論ノ閑聲俄カニ起リテサシモ堅固ニ築キ上ケラレタル宗教ノ城壁モ瞬ク暇ニ打テ毀ホタレ、諸多科學ノ發達ハ發明ニ亞クニ發明ヲ以テシテ及ホシテハ終ニ所謂産業革命ノ導火ヲ點シ科學ノ應用器械ノ發明ニ依ル經濟界ノ變轉ハ忽チニシテ生産ノ組織ヲ一新シ企業ノ革新、資本ノ集積之ト共ニ起リ富ノ集中ハ貧富懸隔ノ勢ヲ激シテ社會諸問題ヲ育生スルニ至ラシメタリ。其他アラエル方面ニ就キテ之ヲ見ルニケニヤ十八世紀百年ノ傾向ハ既成制度ノ打破ト云フコト之ニシテ十九世紀ハ即チ新時代建設ノ百年ナリキ。此ノ變轉ノ時期ニ際シテ家族制度豈獨リ能ク其ノ影響ノ外ニ立ツヲ得ンヤ、此ノ



變轉ノ時期ニ際シテ家族制度カ被リタル大影響ニ依リテ出來上リタルモノハ即チ現代ノ小家族組織之ナリ。小家族組織トハ夫婦ト未タ獨立セサル子女トノ結合ヲ以テ成ルモノニシテ其夫婦結合ハ全然排他的ニシテ嚴格ナル一夫一婦制ナリ。然ラハ一夫一婦制ハ如何ニシテ成立シタルカ、婦人ノ解放ニ依リテ成就セラレタリ。

一夫一婦制ハ史上ニ存在スル婚姻諸形態ノ最後ノ形式ニシテ然カモ或種ノ動物ニ之ヲ見ルカ如ク先天的ノモノニハ非ス人類ニ取リテハ長キ史的變遷ノ結果漸クニシテ此域ニ達シタルモノナリ、サレハ文明國民ノ社會的并ヒニ道德的基礎トシテ其ノ價值ヤ愈々大ニ其ノ必要ヤ愈々切ナリ。現今「アリヤン」種屬中ニ在リテモ歐洲人ノ文化カ他ノ民族ニ比シテ卓然地ヲ拔ケル所以ノモノハ其カ最モ早く一夫一婦制ノ地歩ヲ固メタルニ由ラスンハ非サル也、然リト雖トモ所謂一夫一婦ナルモノノ中ニハ婚姻ノ法式、其ノ堅固、其ノ内部構成ニ甚シキ相違ノ有ルアレハ今後尙ホ幾分ノ變化ハ免レ難キ所ナル可シ。

一夫一婦制ハ夙ニ希臘羅馬ノ世ヨリシテ存在シタレトモ基督教傳播シ其ノ勢

力漸次盛ナルニ及ヒテ大ニ其ノ基礎ノ堅固ヲ加ヘタリ。凡ソ基督教ノ教ニ從ヘハ婚姻ヲフコトハ單ニ種屬ヲ保持シ増加センカ爲メノ動物的結合ニハ非スシテ元之レ神ノ命スル所、從テ夫婦ハ異身同體ニシテ相倚リ相扶ケテ終世ノ侶伴タル可ク、又子女ヲ養フハ神ニ對シテ新ナル崇拜者ヲ作ル所以タル也、而シテ婚姻ニ欠ク可ラサル要素ハ神聖ト單一ト永續トノ三者ナリトセラレタリ、之レ蓋シ一夫一婦制ノ特徴ヲ言明セルモノニシテ基督教ノ隆盛ハ從テ一夫一婦主義ノ勝利ノ表章ト見ルヲ得可シ。

又中世歐洲ノ上流社會ニ行ハレタル武士道の風氣ハ婦人ノ尊重ト解放トニ貢獻セル所頗ル多ク爲メニ一夫一婦制ノ發達ヲ助ケラレタルコト尠ナラス。

Devas, Das Familienleben S. 125; Grosse, a. a. O. S. 139; Conrad, H. W. B. III. Bd. S. 795; Schäffle, Bau und Leben d. Socialkörpers II. Bd. S. 83.

夫レ婦人カ夫ノ奴隸タルノ地位ヲ脱シテ男子ト同等ニ社會ノ一單位タルニ至リ公私法上ノ一人格トシテ所有、相續、犯罪其他ニ關シテ能力ヲ有スルニ至リシ迄ニハ實ニ長キ變遷ノ歴史ヲ要シタリ、而シテ羅馬獨逸ノ法制史ハ此ノ變遷ノ永サト



曲折トヲ表明セスンハ非サル也。然レトモ之等ノ進歩ハ云ハハ皆ナ進化ノ法則ニ從ヘル必要ヨリ來レルモノニシテ近世文明ニ於ケル生存競争上家族ノ存在ヲ主張セント欲セハ唯タ純潔ニシテ婦人ノ人格的存在ヲ尊重シ道德的ニシテ經濟的ナル一夫一婦制ノ婚姻ニ依リテノミ達シ得可キ彼ノ家族組織ト彼ノ家族經濟ト彼ノ家庭道德トハ蓋シ之ヲ缺カントシテ缺ク能ハサルモノ有リシ也。然リ婦人ヲ解放シテ其ノ人格ヲ尊重スルノ必要ハ生存上進化ノ法則ニ伴ヒテ起リ來リシ大事實ナリ、何トナレハ文明的家族生活カ依リテ以テ強健ナリ得可キ原素ハ修養ト鍛練トニ存スルニ拘ラス此事タル決シテ妻女奴隸制度ト兩立シ得可キニ非サルヲ以テ也。而シテ終ニ能ク婦人ノ解放ヲ成就シ得タル所ノモノハ個人平等主義カ養成セル法律上ノ人格ノ觀念ト一般經濟組織ノ變轉ニ伴ヒテ起レル家族組織内ニ於ケル奴隸經濟ノ廢滅ト云フコト之ニシテ現代ノ法律ハ人格上ニ於ケル各人ノ平等ヲ以テ基本ト爲シ近世ノ經濟組織ハ到底家族ノ内外ニ於ケル奴隸制度ノ不條理ニシテ且ツ不生産的ナルヲ認許セサル也。即チ吾輩カ前篇ノ末章ニ於テ叙シタル大家族崩解ノ原因ハ同時ニ小家族成立ノ原因タラサルヲ得サル也。

翻テ又家族ト云フ組織ノ觀點ノミニ就キテ一般ニ之ヲ云フモ既述ノ如ク社會進化ノ法則ハ餘リニ廣汎粗雜ナル組織機關ノ存在ヲ許サス分化ノ勢ハ大家族制度ヲ亡ホシテ小家族制度ヲ成立セシメ又現ニ小家族制度ヲモ崩解セシメントスルノ勢アリ、然ルニ他方合化ノ勢ハ各個人ヲ要素トシテ又更ニ企業上消費上其他行政上等ノ新組織ヲ成サシメツアルヲ見ル也。然リ當今歐米文明諸國ニ在リテハ家族制度崩解ノ氣運甚タ顯著ナルモノアルヲ否ム可ラス、個人ノ價值彌カ上ニモ尊重セラレ其ノ獨立自存カ道德的信條タルニ至リシト共ニ社會組織ノ紛糾錯綜ハ益々人ヲシテ事務的ナラシメ家庭ヲスラ之ヲ一ノ生活上ノ事務所タルニ至ラシメントシツツ有リ、見ヨヤ當今既ニ一家ノ財ハ終ニ克ク營業ノ資ト爲スニ足ラス、生活上ノ第一問題タル衣食住ノ需要マテモ共同組織ノ供給ニ仰カントスルノ風アリテ個人生活上ニ於ケル家庭ノ必要ハ漸次減少シツツ有ル也。特ニ晚近社會主義者ノ要求スル所ニ從ヘハ社會ハ貨物ノ生産、轉環及ヒ消費ノ範圍ニ於テ一ノ職業的組織體タルニ到達セサル可ラストセラレ恰モ過去ニ於ケル進化ノ過程カ多クノ社會的職能ヲ漸次家族ノ手中ヨリ奪ヒ去リシト同シク貨物ノ生産ハ申ス



ニ及ハス消費ニ關スル職能迄ヲモ私有制即チ家族ノ掌中ヨリ離脱セシメ動的不動の一切ノ生産手段ハ總テ之ヲ社會的營造物ノ所有ニ移シ其ノ消費モ亦ナル可ク社會的共同消費ニ致サントセラルル也。而シテ之レ實ニ過去ニ於テ教育、保護、監督等ノ職分カ漸次家族ノ手ヲ離レテ國家、學校若クハ教會等ノ手中ニ遷リシト同一傾向ナルヲ忘ル可ラサル也。

### 第壹章 文化ノ發達カ家族制度ニ及セル影響

最近世時代ニ於ケル一般文化ノ發達カ家族制度ニ及ホセル影響ニ至リテハ一々之ヲ取立テテ説明スルニ難シ。然レトモ就中顯著ナルモノニ就キテ其ノ概要ヲ觀察スルハ家族制度進化ノ道程ト其ノ然ラサル可ラサルニ至リシ原因トヲ知ル上ニ甚タ補益スル所ナクンハ非サル可キ也。

先ツ昔日ノ家長制大家族制度ト現時ノ小家族制度トヲ區別スル第一ノ要素タル家長權ノ消長ニ就キテ見ルニ前篇ニ於テ之ヲ詳論シタルカ如ク家長制ノ大家族ニ於ケル家長ノ權力ハ絶大ナルモノニシテ家長權ハ實ニ新生ノ子女ニ對スル生

殺ノ全權、妻ニ對スル物權の支配權、子女ノ婚姻ニ關スル專斷權ハ云フモ更ナリ家屬ノ勞働及ヒ教育監督ニ關スル總テノ命令權ヲ包含シタリ。而シテ此ノ絶對的權力ハ家族組織ノ縮少、國家組織ノ膨脹ト共ニ漸次ニシテ家長ノ手中ヨリ脫離シタリト雖トモ然モ尙ホ文化ノ最モ早ク發達セル英佛等ニ就キテ見ルモ子女ノ婚姻及ヒ教育懲戒等ニ關スル立法迄カ總テ昔ノ例ヲ留メサルニ至リ家屬ノ解放眞ニ十分ナルニ至リシハ極メテ近代ノコトニ屬ス。他ノ半開國及ヒ多クノ開明國ニ在リテハ舊式ノ家族制度カ餘命ヲ遺セルモノ尠ナカラス特ニ田舎ノ農民中ニハ大家族制度ノ形骸ノ可也ヨク保存サレアルモノ甚タ多ク家長權ノ如キ未タ全ク衰ヘタリト云フ可ラサルモノ莫キニ非サル也。現ニ我國ノ如キニ在リテモ尙ホ戶主ノ制ヲ存置シ嚴重ナル家督相續ノ法ヲ定メ親族扶養ノ義務ノ範圍ヲ廣クシ或ハ又養子縁組ノ制ヲ認ムル等極メテ注意ヲ惹クニ足ルモノ少カラサル也。然レトモ一般ノ狀態ニ就キテ汎ク之ヲ云ヘハ家長權ナルモノハ大家族制度ノ崩解ト共ニ亡滅シテ現時ノ小家族制度ニハ昔日ノ意味ニ於ケル家長權ナルモノノ存在スルコト無キヲ知ラサル可ラス。



曾テ羅馬ニ於テ父カ新生ノ子女ヲ認知スルト否トノ全權ヲ有シ之ヲ認知セサルニ於テハ直チニ之ヲ殺害シタルハ正シク歴史ノ證明スル所ナルノミナラス多クノ蠻族間ニハ、否支那ノ如キニ於テスラ、父ハ子女ニ對スル刑罰權ノ執行トシテ之ヲ誅戮スルコトヲ得ル也。然ルニ進歩セル現代ノ國家ニ在リテハ決シテ斯ク如キヲ許サス、今日ノ刑法法典及ヒ學說カ許容スル父ノ懲戒ハタタ社會及ヒ道德ノ認メテ以テ正當ナリトスル範圍ニ限ラレ之ヲ殺傷シ若クハ久シキニ涉リテ監禁スルヲ許サナルハ勿論、甚シク之ヲ打擲スルカ如キモ決シテ正當ト認メラレサル也。夫カ妻ニ對スル權威ニ就キテ見ルモ不貞ナル妻ヲ殺害スルコトノ曾テ正當ナル權利行爲タリシコトハ一般未開社會ニ例外ナキ所ナリ、サレト現今ハ即チ然ラス不貞ハ離婚ノ原因ヲ爲スニ止リ夫カ手ツカラ之ヲ刑罰スルカ如キハ法律ノ許サル所ナリ。

次ニ復讐ノコトヲ見ルニ古代ニ在リテハ家族ハ一ノ小社會ニシテ兼チテ小宗教團體タリ同時ニ又一ノ小司法團體ナリシカ故ニ復讐ハ家族カ有スル一大任務タリシナリ、即チ氏族制度カ隆盛ヲ極メタリシ時代ニ於テハ氏族ノ一人ニ依リテ讐

カレタル血ハ正ニ氏族全體ノ血ヲ以テ報ユ可ク復讐ハ實ニ氏族カ有スル神聖ナル職分ナリ、下リテ家長制ノ大家族制度ノ樹立セララルニ及ヒテモ復讐ハ尙ホ家族ノ神聖ナル職分タルヲ失ハス或ハ父ノ讐ヲ討タンカ爲メ一家分散ノ悲惨ヲ伴メ然カモ一朝能ク其ノ目的ヲ達スルニ於テハ社會ハ之ヲ以テ美德ト爲シ賞歎措カサルモノ有リシ也、而シテ此事ハ我國ニ於テ最モ多ク見ル所ニシテ物語ニ演劇ニ今日尙ホ吾等ノ耳目ニ新タナル所ト爲ス、然ルニ一ト度現代ノ法治國家ノ成立ヲ見ルニ至リテハ司法ノ高權ハ總テ國家ノ掌握スル所ト爲リ個人ハ刑罰的行爲ヲ爲スヲ得サルコトトハナレリ。

次ニ離婚ト云フコトニ就キテ見ルニ未開時代ニ在リテハ離婚ハ甚タ容易ニ行ハルル所ニシテ男子ハ何等ノ制限ヲ受クルコト無ク唯タ其意ノ向フカ儘ニ妻ヲ放逐シタリ、之ヲ希臘羅馬ノ例ニ照シ近クハ支那ノ今日、日本ノ維新前等ノ狀態ニ就キテ見ルモ或ハ子無キヲ以テ離婚ノ一則ト爲スカ如キハ更ニモ云ハス甚シキニ至リテハ饒舌ナルヲ以テ七去ノ法則中ニ加フルニ依リテモ其ノ一般ヲ察シ得可シ、而シテ離婚ノコトタル夫ニ寬ニシテ妻ニ嚴ニ一度嫁シタル婦人ハ容易ニ夫ノ



竊東ヲ脱スルヲ得サリシ也。然レトモ夫婦ノ結合ヲ以テ人間一生ノモノト爲スノ觀念ハ原始草昧ノ蠻族間ニモ屢々之ヲ見ル所ナルカ上ニ基督教一度ヒ隆ナルニ至リテヨリハ此ノ觀念ヲ以テ其ノ教義ノ一ニ加ヘ偕老同穴ノ契ヲ以テ最モ神意ニ叶フモノト爲シ終ニ能ク一ノ信仰タルニ至ラジメタリ。サレハ法皇ノ權威隆盛ナリシ時代ニ在リテハ國王ノ權威ヲ以テシテ尙ホ其意ノママニ離婚ヲ爲スヲ得サリシコト之ヲ英王チャールズ八世ノ有名ナル事蹟ニ證ス可シ。

教會ノ勢力失墜シテ國家ノ基礎漸ク固ク遂ニ今日ノ開化セル文明國家ヲ見ルニ至リテハ猥リニ離婚ヲ許容スルコトハ秩序ヲ紊シ風紀ヲ害スト云フヲ第一ノ理由ト爲シ之ニ幾分ノ宗教上道德上並ヒニ社會ノ慣習ト理想トヲ加味シテ此ニ婚姻ヲ以テ終生ノ結合ト爲スノ大原則ヲ確認シ離婚ハナル可ク之ヲ制限セントスルノ風ヲ生スルニ至リタリ。而シテ離婚ニ關シハテ夫婦ニ殆ント同等ノ權利ヲ與ヘ昔日ノ如ク特ニ夫ニ寛ニシテ特ニ妻ニ酷ナルコト無カラシメタリ。

離婚ノ困難ナルニ至リシコトハ右述ルカ如クナレトモ當今ノ實際狀態殊ニ歐洲諸國ノ實狀ニツキテ察スレハ婚姻結合ハ之カ爲メニ昔日ヨリモ大ニ堅固ナルニ

至リシトハ爲ス可ラス。婦人ノ解放ト地位ノ上進ト及ヒ其ノ避ク可ラサル結果タル婦人カ自由ニ對スル要請トハ却テ夫婦結合ノ紐帶ヲ脆弱ナラシメ現ニ益々其ノ傾向ノ顯著ナルモノアルヲ致シツツ有リ。婚姻ヲ以テ當事者ノ合意ニ成ル一ノ契約トシテ何時ニテモ合意上マタ隨時ニ之ヲ解除スルヲ得可シトノ考ハ却テ大ニ勢力ヲ増シ來リ爲メニ男女ノ關係ヲシテ日ニ益々不定不安ナラシメツツ有ルモノ無クンハ非ス。尙ホ此事ニ關シテハ後ニ詳論スル所アラン。

次ニ貞操ト云フコトヲ檢スルニ遠ク原始時代ノコトハ更ニモ云ハス既ニ夫婦一對の一時婚姻制ノ樹立サレタル後ニ於テモ或ハ賓客婚姻 *Conjugal* ニ於テ之ヲ見ルカ加ク夫ハ其妻ヲ賓客ニ饗應シテ妬マサルコト有リ或ハ又印度ノ *Levirate* ノ如キ或ハ獨逸ノ昔ニ行ハレタル代理生殖ノ如キ到底吾人當今ノ觀念ヲ以テシテハ其情狀ヲ了解スルニ苦ムカ如キ事例アリ或ハ又一夫多妻制ノ行ハレ或ハ或地方ニ一妻多夫制ノ行ハルルカ如キ如何ニ經濟上ノ必要ハ已ムヲ得スシテ斯ノ如キニ至ラシメシトハ云ヘ以テ昔日ニ於ケル貞操ノ道念ノ薄弱ナリシヲ知ルニ足ル可シ。總テ斯ノ如ク貞操ノ道念薄キハ未開人ノ婚姻カ愛情ヨリモ生活上ノ便宜ヲ



主トシタルニ歸因セス。ハ非サル可シ。サハ云ヘトモ未開時代ニ在リテモ全然貞操ノ道念闕如セルニハ非スシテ下ハ劣等漁獵民ヨリ上ハ父權的家長制ノ下ニ在ル優等農耕民ニ至ルマテ夫ハ其妻ニ對シテハ完全ナル貞操ヲ要求セルコト寧ロ原則タリ。殊ニ最モ野蠻ナル民族ニ在リテハ全ク妻ヲ拘束シテ貞操ヲ守ラシムルコト屢々吾等ノ耳ニスル所ニシテ一ト度貞操ヲ破レル妻ニ對シテハ夫及ヒ近親者ハ來リテ嚴罰ヲ加ヘ之ヲ殺害スルモ尙且ツ咎メサルコト亦吾輩ノ既述スル所ノ如シ。希臘羅馬然リ日耳曼人特ニ然リ。又支那ノ婦人カ逼足ヲ爲スハ夫カ妻ノ貞操ヲ強要スル一方法ナルコト一般ニ認メラルル所ノ如シ。唯々注意ヲ要スルハ古來貞操ノ義務ハ片務的ニ妻ニノミ課セラレテ夫ハ自由ナリシコト之ナリ。而シテ之レ畢竟男子ノ權力強大ニシテ婦女子ハ其ノ奴隸タルノ境遇ニ居リシカ爲メナラス。ハ非ス。然ルニ現代ノ一夫一婦制カ要求スル貞操ノ義務ハ夫婦同等ニシテ雙務的ナルヲ忘ル可ラス。

最後ニ許嫁ノ風習ニ就テ一言セン。許嫁ノ習俗ハ濠太利人其他ノ蠻族間ニ一般ニ行ハルル所ニシテ通例男女共ニ極メテ幼稚ナル時ニ於テ行ハレ恰モ吾等カ山林ノ立木ヲ賣買スル場合ニ未タ稚木ニシテ用ヲ爲ササレトモ今後何年ニシテ能ク電柱タルヲ得可シトシテ契約ヲ豫締スルカ如ク全ク財産ノ賣買豫約タル性質ヲ有スル也。此種ノ例ハ寧ロ極端ナル例外的場合ナル可キモ凡テ大家族組織ノ存スル所ニ在リテハ許嫁ハ普通ニ行ハルル所ニシテ殊ニ濠太利人ノCousin制度ニ於テ其例ヲ見ルカ如ク婚姻ハ自ラ以テ優越ノ地位ヲ占ムルト爲ス種族相互間ニ限リテノミ取結ハルル場合ニハ益々此風ヲ助成ス可キ也。之ヲ我國ノ例ニ照スモ畧ホ同等ノ門地ヲ有シ或ハ名家ヲ以テ誇リ或ハ富裕ヲ以テ居ル如キ家族相互間ニ於テノミ婚ヲ通スルヲ例トシ此風特ニ武士ノ間ニ盛ニ行ハレタルヲ見ル也。然レトモ許嫁ノ風習カ甚タ婚姻本來ノ面目ニ違背スルモノアルコトハ云フ迄モナキコトニテ父權強大ニシテ子女ニ對スル全權ヲ有シ其ノ婚姻一ニ父權ノ專定スル所ニ一任シタルヨリ起リ來レルモノタルニ外ナラス。從テ破鏡覆水ノ歎多ク又家庭ノ温情ヲ欠キ種々ノ惡弊此内ヨリ胚胎シ家庭道德ヲ廢頽セシメシコト尠ナラサル也。然ルニ個人ノ人格尊重サルルニ至リ大家族制度崩解シテ家屬ノ解放行ハレテヨリハ婚姻ハ當人ノ意思ヲ第一トシ家父ハ纔カニ同意權ヲ有スルニ過キ



サルコト爲リシカ爲メニ許嫁ノ風習モ漸次地ヲ拂テ去ルコトトハナレリ。

註 山路氏著源頼朝—當時ノ婚姻ハ妻室ノ家系、夫ノ家ニ相當ル可キモノノ子孫ヲ以テ家督トシ、カカル母ノ生ミタル子等ハ後世ニ見ルカ如キ兄弟姉妹ノ情ヲ以テ相遇シタリト雖トモ家系資望父ニ如カサル庶母ノ子ニ至リテハ彼等ハ兄弟姉妹ヲ以テ之ヲ遇スルヲ肯セサリキ、他ノ語ヲ以テ之ヲ言ヘハ母ノ系圖ハ其子ノ位置ヲ定ム可キ標準ニシテ、父ヲ同フスル兄弟姉妹ト雖トモ母性ノ貴賤ニ從テ其相見ル決シテ同等ナル能ハサリキ(東鑑、源平盛衰記等ニ其證多シ)六〇頁。

## 第貳章 小家族制度ノ構成及職能

吾輩カ本篇ニ於テ論セントスル小家族ナルモノト前篇ニ述ヘタル家長制ノ大家族トハ甚シク相違スルモノニ非ス、其ノ構成ニ至ツテハ兩者共ニ夫婦親子ノ共助共存スルニ依リテ成リ兩者共ニ一家ノ共同經濟行ハルル也、唯々兩者間結合ノ範圍ト緊密ノ度トヲ異ニスルノミ、又父權カ國後ノ發達ト之ニ伴フ妻子ノ地位ノ上進トノ爲メニ著シク制限セラレ、賣買婚姻ニ代フルニ自由ナル無償婚姻ヲ以テスルニ至レルカ如キ事實モ亦既ニ大家族制時代ニ發生シテ小家族制時代ニ入りテ完成セラレタルニ過キス、然リト雖トモ兩者間又大ニ其ノ面目ヲ異ニスル點少ナ

カラサルハ勿論ノコト也、例ヘハ小家族制度ニ於テモ尙ホ幾分家長的權威ノ殘存スルモノ有リトスルモ到底之ヲ曩日ノ *Pater familias* ト對比スルヲ得可キニ非ス、又今日尙ホ妻ハ夫ニ對シテ服從ノ義務ヲ負フト云フトモ之ヲ語ルニ奴隸的境遇云々ヲ以テスルハ妄ナリ、否當今ノ婦人ノ地位ハ(特ニ歐米諸國ニ於テ)私法上殆ント男子ト同一ナリ、婚姻ハ双務的契約ニシテ當事者双方ノ合意ニ依リテ成リ從テ離婚ノ原因モ亦既述ノ如ク双方ニ均等ニシテ夫ニ寬ナルコト無ク特ニ注意ス可キハ夫ノ不貞亦夫ノソレト同シク離婚ノ一原因ヲ爲スコト之ナリ、子女ハ父ノ家名ヲ襲フト雖トモ之カ爲ニ法律上母ヨリモ父ニ近キ關係ヲ有スルニハ非サル也、親權ハ子女ノ未成年ヲ以テ限度トシ其ノ行使ニ當リテハ法律上常ニ嚴重ナル制限ヲ被リツツ有リ。

尙ホ見逃シ可ラサル兩組織ノ區別ハ分業分職ノ發達セル結果家族ノ經濟上ノ業務ハ著シク縮少セラレ、其他家族ノ職分ノ大部分カ公共團體、寺院、學校、企業組織及ヒ國家ノ手ニ歸シタルコトニシテ之レ吾輩カ後章ニ詳論セントスル所ナリ、

又從前ノ大家族組織カ十人二十人ノ多人數ヨリ成リシニ反シテ今ノ小家族組織



ハ五人乃至四人(大抵平均三二人)ヲ有スルニ過キス。蓋シ當今ノ小家族ニ在リテハ結婚セル子女ハ其家ヲ去ルノミナラス未婚者ト云ヘトモ既ニ成長セルモノハ或ハ修業ノ爲メ或ハ營業ノ爲メ多クハ父母ノ膝下ヲ辭シテ別別ノ生活ヲ爲シ、一家ヲ成ス者ハ夫婦ト幼少ナル子女トノミナレハ也。

註 Im Betreff der durchschnittlichen Kinderzahl in den einzelnen Familien herrsche früher die Ansicht vor, dass reichere Kinderregen dem Ehepaar zur Ehre und zum Glücke gereiche. Manche Rassen und Nationen huldigen noch heute diesem Principe, so die semitische und die Slavischen. Man könnte dasselbe das der extensiven Wirtschaft nennen, welche die Quantität der Quantität vorzieht. Uns scheint es freilich, dass es besser ist, wenige, aber körperlich und geistig wohl veranlagte, lebenskräftige und zu hohem Alter gelangende Kinder in das Leben zu setzen, als viele Sterbliche oder mindestens Schwächlinge. Der englische Statistiker Malthus veröffentlichte kürzlich eine Zusammenstellung der Durchschnittszahl der Kinder, welche einer Ehe entstammen. Darnach zählt Irland 5,20, Russland 4,83, Spanien 4,65, Italien 4,54, Schottland 4,46, Irland 4,22, Schweden 4,12, Deutschland 4,10, England 4,08, Oesterreich 4,04, Belgien 4,04, Schweiz 3,09, Ungarn 3,70, Dänemark 3,61, und Frankreich 3,08 Kinder auf eine Ehe.—Dr. Emanuel Herrmann, Die Familie, S. 11.

新生ノ小家族制度ハ他ノ家族制度カ他ノ經濟形態ニ適應スルカ如ク當今ノ經濟組織ニ適合スルモノ也。何トナレハ此ノ經濟組織ノ下ニ此ノ家族制度アルカ故ニ各個人ハ其ノ才能ニ從ヒテ最モ有利ナル經濟業務ニ従事スルヲ得テ社會全體ノ福利ヲ増スコト大ナルヲ得レハ也。而シテ經濟上ニ個人主義ノ行ハルルノ結果ハ

從來家族カ營ミ來リタル經濟業務ノ範圍ヲ大ニ縮少セルコト右ニ述フル所ノ如シ。即チ凡ソ六十年前頃マテハ西歐諸國ニ於テモ紡績裁縫ノコトヨリ麵麩ヲ燒キ獸ヲ屠ルノ業マテ總テ家族内部ニ於テ行ハレシモノ(甚今ヤ各々専門業者ノ經營スル所トナリ經濟上ニ於ケル家族ノ任務ハ殆ント全ク生産ノ部門ヲ離レテ僅カニ消費ノ部門ヲ保ツニ過キサルニ至リ之レ斯拉今將ニ漸次其ノ範圍ヲ狹メツツアルコト後章ニ述ル所ノ如シ。

然リ今ヤ家族ハ僅カニ料理、小洗濯、家具ノ整理、幼兒ノ育護等ヲ以テ其ノ任務ノ主ナルモノト爲シ然モ之等ハ殆ント家婦ノ專任スル所トナレリ。

註 Im früheren Zeilen umschloss der Familienhaushalt auch viele Produktionszweige, welche heute einzelnen Gewerben überantwortet sind. Man übte sogar das Kriegs- und Verteidigungswerk haushaltsweise (Burgen und Militär-Hauskompanien), wieviel mehr waren die Arbeiten der Ernährung (Ackerbau, Jagd, Viehzucht, Fischerei, Bienenzucht, Kornmalen, Backen, Butter- und Käsebereitung, Bierbrauen, und Mehlsieben, Breiten und Kochen), die Arbeiten der Bekleidung (Flechtbau, Schafzucht, Spinnen, Weben, Kleidenmachen, Säcken, Färben, Waschen), die Arbeiten der Wohnungsbereitung: (Zimmern, Bauen, Tüfeln, Teppichweben, Anstreichen, Reinhalten, Putzen), endlich die Arbeiten der Beheizung, Bekleidung, der Körperpflege, der Erziehung u. s. w. dem Haushalte vorbehalten, während im Wege der gewerblichen Produktion vielleicht nur Schmuck, Luxuswaren, literarische Produkte und Kunstzeugnisse in den Haushalt gelangten.—Ernst Herrmann—a. a. O. S. 4 ff.



經濟分業ノ發達ト之ニ伴フ家族ノ職務ノ縮少トハ遠ク其源ヲ家長制ノ大家族制時代ニ發スルモノニシテ經濟組織ノ變革ト生産技術ノ進歩トノ爲メニ大家族制度カ到底家屬全員ノ衣食住其他ノ需要ヲ悉ク自家ノ手ニ於テ生産スルコト能ハサルニ至リシヨリ始マレリ。サレハ貨幣經濟ノ一般ニ行ハルルニ至リシ傍ラ大家族制度カ瓦解シテ小家族制度ノ成レルト共ニ小家族ノ家長ハ或ハ單獨ニ或ハ一ノ家屬ト共ニ外ニ出テテ一定ノ企業組織ニ加ハリ若クハ又家ニ於テ或ル專門ノ業務ニ従事シテ以テ貨幣收入ヲ得ルニ努メ自餘ノ家屬カ多少ノ地面等ヨリ收穫スル所ノモノト合セテ生計ノ資ニ供スルニ至リタリ。然レトモ此ノ過程ハ甚タ遅々トシテ進行シ概シテ下級民ハ既ニ自家生産ヲ廢止セルニ至リテモ上中流ノ者ハ尙ホ之ヲ保守シ中世ヨリ十八世紀若クハ十九世紀ニ入ルマテ此ノ状態ヲ固持シタリ。而シテ今ヤ大勢ハ全ク定レリト雖トモ然モ尙ホ農民ノ半數若クハ三分ノ二ハ日用衣食ノ大部分ヲ自家生産ニ待ツヲ例トス。從テ其ノ家族生活ハ家長制ノ係ヲ留ムルコト多大ナリ。又田舎ニ於ケル手工業者、日傭労働者、役人、教師ノ類ハ其ノ業務ノ餘暇ヲ以テ菜園ヲ耕シ家禽ヲ養ヒ以テ生活ノ助ト爲ス者尠ナカラサ

ルヲ見ルナリ。

要スルニ分業分職ノ發達セル結果社會及ヒ經濟組織ニ二大系統ヲ見ルニ至リタリ。一ハ家族經濟ニシテ他ハ貨物生産、交通、公務其他之ニ類スル業務ノ世界ナリ。而シテ此ノ二系統ハ互ニ分離セルカ如クニシテ實ハ互ニ密接ニ結合セルヲ忘ル可ラス。即チ家族經濟ハ必竟スルニ國民經濟ノ補助組織タルニ過キサル也。然レトモ晩近ノ趨勢ニ察スレハ家族制度瓦解ノ傾向頗ル顯著ニシテ生活難ハ婦人及年少者ヲ驅リテ生産場裡ニ赴カシメ爲メニ一般經濟組織ト家族經濟組織トノ上ニ少カラサル影響ヲ及ホシツツアリ。然リ婦人及ヒ年少者ノ爲メニ經濟活動ノ新分野開カレタルヨリシテハ賃金ノ低廉ナルカ爲メニ迅速ニ之カ利用ノ範圍ヲ擴メ現今ニ至リテハ苟モ婦人及ヒ年少労働者ヲ容ルルニ適スル企業ニ在リテハ殆ント之ヲ雇使セサルハ莫キニ至リ其結果男子ハ大ナル影響ヲ被ラサルヲ得ス、之等ト競争セサル可ラサル場合モ少カラサルカ故ニ企業ノ或ル部類ニ在リテハ爲メニ失職ノ災ニ陷レル男子モ尠カラサルニ至リタリ。

事情右ノ如クナルカ故ニ家父ハ今ヤ自分一己ノ所得ヲ以テシテハ其ノ家族經濟



ヲ支持スルヲ得サルモノ益々多キヲ致シ家婦及ヒ子女ノ賃金收入ニ依リテ僅カニ其缺ヲ補フヲ得甚シキニ至リテハ却テ之等ノ爲メニ支給扶養セラルルノ實情ヲ呈スルモノ無キニ非サルニ至リタリ而シテ斯ル場合ニ於ケル家族組織力殆ント其ノ結紐ヲ失ヘルモノアルハ絮說スル迄モ無キコト也。猶ホ是等ノ時情ニ就キテハ後ニ詳論スル所アル可シ。

### 第參章 小家族制度ノ經濟的職分

前章ニ於テ吾輩ハ現代ノ小家族制度カ有スル職能ノ一般ニ就キテ概論ヲ試ミタリ。今ヤ即チ小家族制度ノ經濟的職分、換言スレハ當今ノ國民經濟組織内ニ於テ家族組織カ有スル任務ト其ノ任務カ齎ス所ノ効果トニ就キテ觀察スルコトノ甚タ趣味多キヲ思フ。

家族生活上ニ於テ一家共同ノ責任ノ爲ニ働クモノハ唯タ家ノ主人タル人ノミニ限ラサルハ吾人カ上來説明セル所ニ依リテ明カナル所ニシテ、家屬タル各成年者間ニ一ノ完全ナル Co-operation ノ存在スルコトハ實ニ家族ノ經濟的意義ヲ増ス所

以ナリ。即チ其ノ協同一致アルカ爲ニ管ニ家族内ノ未成年者輩カ安全ニ成長シ得ルノミナラス又家族全體ノ上ニ落ち來ル不時ノ運命例ヘハ疾病災難等ニ對スル救済力モ之ニヨリテ甫メテ保證サルルヲ得ル也。從テ家族内ノ一人カ時ニ或ハ勞働能力ヲ失フコトアルモンハ全體ニ取リテ餘リ重大ナル影響ヲ及ホスコト無ク家族ハ眞ニ一個ノ緊密ナル協同團體タルノ實ヲ有ス。サレハ既ニ勞働能力ヲ消盡シ果シタル老年者モ家族アルカ爲ニ能ク安慰ニ餘生ヲ送ルヲ得可シ。人或ハ疑ヲ挿ンテ曰ク救済法其他養老年金法ノ有ル今日ニ於テ家族ノ此ノ任務ハ果シテ必要ニシテ又有効ノモノナリヤ否ヤ又能ク存續シ得可キモノナリヤ否ヤト問フヲ止メヨ救済法ト云ヒ養老年金法ト云フカ如キハ家族制度既ニ分解シテ人ハ最後ノ據城ヲ失ヒ老年者ノ如キマタ殘生ノ安慰ヲ樂ムニ由ナキカ故ニ其ノ弊ヲ救ハシカ爲ニ、即チ家族ノ有シタル此ノ貴重ナル任務ノ代理ヲ爲サンカ爲ニ、國家社會カ已ムヲ得ス之ヲ設ケタルモノニ適ス家族ノ此ノ任務ニ競争センカ爲ニ國家社會カ自ラ進ンテ之ヲ設ケタルニハ非サル也。

家族組織ニ於ケルカ如ク經濟的意味ニ於ケル強者弱者ヲ集合シテ一ノ完全ナル



經濟的結合ニ作リ上クルコトハ各個人ノ經濟的能力ヲ最大限ニ擴張セシムル最良ノ方法タルヤ疑ナキ所タリ。然ルニ或ル觀點ヨリシテ之ヲ見レハ老人ハ老人子供ハ子供トシテ之ヲ一纏メニシテ專門ノ人ヲシテ監督セシメ租税中ヨリ其ノ扶助ニ要スル費用ヲ供與スルコト社會上却テ經濟ナルカ如ク思ハレ熱心ニ其ノ計畫ヲ主張スル者モ無キニ非ス。然レトモ誰カ好ンテ斯ル租税ニ對シテ家族維持ノ爲ニ費ス經費ノ半額ヲタモ支出スルモノ有ランヤ。蓋シ家族的結合ハ單ニ經濟的ナルヲ外之ニ伴フ愛情ト責任心アツテ存シ經濟上ノ動機ト道德上ノ動機ト相結ンテニ又意思トシテ表ハルルカ故ニ甫メテ經濟的ニモ有効ナル也。各動機ヲ別々ニ働カシメハ經濟的ニモ道德的ニモ其ノ効果ハ大ニ減殺サルルヲ免レス。之レ家族カ各方面ニ渉ル共同團體タル所以ニシテ只タ物質的方面ノミヨリシテ解釋ヲ下シ其ノ心理的道德的方面ヲ閑却スルハ不可ナル所以ナリ。

家族ハ實ニ各人ノ勞働ノ量ノ上ニ影響ヲ及ホスノミナラス又其ノ種類ヲ決定スルニ與リテ大ニ力アリ。總テ勞働ノ方向ヲ定ムルモノハ賃金ト各人ノ意向トナリト云フ經濟學上ノ原則ハ元ヨリ眞ナルニ相違ナキモ然レモ此ノ決定條件カ如何ニ

シテ成就サルルカト吟味シ來ラハ必スヤ家族ト云フ仲介者ヲ待タサル可ラサル場合多キヲ見ル可キ也。即チ成年ノ男女ト雖モ一ノ職業一ノ勞働ヲ選ハントスルニ當リテハ大概自ラ其ノ賃錢等ニ就キテ比較研究ヲ爲スモノニ非ス。通常ハ父母特ニ父ノ意見如何ニ依リテ就業ノ方向ヲ定ム。從テ賃金ノ高キ所必スシモ勞働ノ供給多キヲ見ス各自ノ意向ノ傾ク所必スシモ勞働ノ供給多キヲ見サル也。

各人ノ就業就職ノ方向ヲ決定セシムル他ノ動機ハ經濟ノ地方的狀態ナルヤ明カナリ。然レトモ此ノ場合ニ在リテモ家族ハ大ナル干涉權ヲ有ス。即チ自己ノ能力ヲ以テシテハ十分一家ヲ支持シ得サルカ如キ父母——然ラサル迄モ一家生活ノ上進ヲ希フ父母ハ其ノ就業セントスル子女ヲハ可成其ノ家ニ止メント欲スルヲ常トシ爲ニ子女ハ自己ノ赴カントスル地方ニ自由ニ移轉シ得サルコト多シ。而シテ此事ハ家族ヲ有セサル孤兒ノ如キニ取リテ之ヲ見レハ最モ明カニ表ハン來ルコト甚タ興味アリト謂ツ可シ。即チ當今ニ於テ孤兒院感化院等ノ管理者カ最モ閉口スルコトハ子女カ一定ノ年齢ニ達シテ其ノ院ヲ出ツルニ當リ彼等カ世ノ風波ニ對スル抵抗力乏シキ當初ノ職業生活ヲ送ルカ爲メ庇護所タル可キ家族ヲ有セサル



コト之ナリ。從テ現状ハ已ヲ得ス之等ヲ陸海軍ニ入ラシムルヲ多シトス、蓋シ最モ面白キ現象タラスンハ非サルナリ。

以上ヨリモ尙ホ廣キ範圍ニ於テ各人ノ就業方向ノ決定ニ影響ヲ及ホスモノハ其ノ屬スル家族ノ社會的地位之ナリ。即チ吾等ハ其ノ家族ノ社會的地位如何ヲ見レハ家屬各人ニ就キテ一々之ヲ料ス迄モナクシテ大凡其ノ就業方向ヲ測知スルヲ得ル也。即チ彼ハ「ゼントルマン」トシテ立ツ可キカ夫レトモ事業家タル可キカ將又頭腦ヲ以テ働ク人トナル可キカ乃至ハ腕ヲ以テ口ヲ糊スルノ人トナル可キカ、多クハ之レ先天的ニ定マレルモノニシテ貴族ノ子カ鐵槌ヲ振フ勞働者トナルハ稀ナルカ如ク勞働者ノ子カ行キナリ紳士トシテ立ツハ尠シ。又今日ノ如ク女子教育主義ノ變轉極リナキ時ニ在リテモ尙ホ女子ノ運命ハ殆ント生レ乍ラニシテ定レリ、交際社會ノ花トシテ歌ハル可キモノト良妻賢母トナル可キモノト手鍋提ケテ豆腐買ニ出ツ可キ者ト紡績工女タル可キ者ト馬ノ口ヲ取ルヘキ者トハ家族ノ地位ニ依リテ自ラ定レリ。而シテ今日ニ在リテハ階級制度廢レ能力ニ依ル自由競争ノ行ハルル結果トシテ各人ノ運命ハ腕次第ナリト云フ可ク、特ニ日本ニ在リテハ

匹夫ニシテ將相タルコト敢テ必スシモ難カラスト雖モ、歐洲特ニ獨逸ノ如キニ在リテハ此ノ社會的地位ナルモノカ子女ノ運命ヲ支配スルコトハ尙ホ可ナリ強キモノナリト聞ク。要スルニ王侯將相種無シトハ非凡人ニ對スル例外的箴言ナリ況ク國民全般ニ就キテ云ハハ家族ノ社會的地位ノ有スル勢力ノ大ナルコト轉々人ヲシテ驚嘆セシムルモノ無キニ非サル也。而シテ吾輩ハ惟フニ今後ノ社會ニ於テハ家族ノ社會的地位ヲ定ムル主ナルモノハ其ノ富ナル可ク從テ人ノ運命ハ其ノ家族ノ富ノ多寡ニ依リテ決定サルル所愈々多キヲ致ス可キ也。

總テ右等ノ職業關係上ニ於ケル家族ノ勢力ハ之ヲ英佛家族ノ相違ニ照シ見ハ最モ明カニ知ルヲ得ヘシ、即チ佛蘭西ニ在リテハ(日本ニテモ然リ)子女カ其ノ家族ヨリ得ル道德的經濟的扶助ハ餘程長キ年月ニ及フモノニシテ而シテソカ原因トナリ結果トナリテ佛蘭西ノ少年子女ハ英國ノ子女ニ比シテ甚シク創造力ト企業心トニ欠クル所アリ。這間ノ消息ヲ明快ニ傳フルモノハ Demolins, The Superiority of the Anglo-Saxon ナリトス。請フ彼ヲシテ語ラシメヨ。

How do we (Frenchmen) prepare our children? What do we teach them? We teach them that the ide-



al, the supreme wisdom in life, is to avoid as much as possible all its difficulties and uncertainties. We tell them, "My dear child, first of all rely upon us. You see how we save money in order to be able at the time of your marriage to give you as large a portion as possible. We are too fond of you not to do our utmost to ease for you the difficulties of existence. Next, rely on our relations and friends, who will exert their influence to find you a cosy berth. My dear child, you must also reckon on what your wife may bring you. A moneyed wife therefore, be found; but do not be uneasy about this, we'll find you one. Such is, my boy, the advice which our love dictates."

次ニ家族組織カ社會ノ經濟的組織ニ影響ヲ及ホスハ婚姻ト相續トノ場合之ナリ即チ佛蘭西其他多數ノ國ニ在リテハ女子カ婚姻スル場合ニハ父母ハ必ス其ノ財産ノ幾部分ヲ割キテ之ニ與フ一八八三年ノ調査ニ依レハ佛蘭西ニテハ一婚姻毎ニ平均二千法ノ財産移轉アリタリト云フ此事ハ即チ家族ノ財産カ「ゼチレーシヨン」ヨリ他ノ「ゼチレーシヨン」ニ移ル一方法ニシテ所詮家族ノ一經濟的職分ト見サル可ラス然ルニ英國ノ如キニ在リテハ婚姻ノ場合ニ財産ノ移轉ヲ見ルコト尠ク寧ロ父ノ死亡ノ場合ニ多シトス其ノ場合ニハ法律上ハ兎モ角社會慣習上父ノ

財産ハ其ノ家族内ノ者ニ傳フルヲ例トスル也日本ニテモ婚姻ノ場合ノ財産移轉ハ社會的ニモ經濟的ニモ殆ント意味ヲ爲スニ足ルモノ無シ財産移轉ハ主トシテ相續ノ場合ニ行ハル然モ其ノ移轉ハ英國ノ如ク親族タル家屬ニ與フルト云フニ非スシテ財産ハ家ノ財産ト看做サルノ結果一種特別ナル家督相續ト云フ制度ニ依ルモノ也嘗ニ日本ト云ハス汎テ「バトリアルハート」ヲ行ハレ若クハ行ハレタル遺跡ヲ留ムル所ニ在リテハ前ニ之ヲ述ヘタル如ク財産即家財ノ觀念ハ容易ニ亡ホス可ラサルモノニシテ財産ヲ各「ゼチレーシヨン」ヲ通シテ(希クハ永久ニ)相續セシムルコトハ當然ノ事トセラル切言スレハ個人(此ノ場合ニ在リテハ「戸主」)ノ財産ノ管理者タルニ過キサレ也其ノ極端ナル事例ニ至リテハ之ヲ希臘羅馬其他古風ノ家長制家族ニ於テ見ルヲ得可シ而シテ斯ル制度ノ行ハルル所ニ在リテハ次男以下ノ者ハ家族財産ヨリ殆ント何等ノ分與ヲモ受ケサルコト當今ノ小家族制ト大ニ面目ヲ異ニスルナリ

若シ相續(家督相續ニセヨ)遺産相續ニセヨ)ノ制度全然廢止サレタリト假定セハ其時ノ状態ハ甚タ錯綜紛糾スルヲ免レサル可シ即チ今日ニテモ西洋ニ盛ニ行ハル



ルカ如ク死後巨額ノ財産ヲ寺院若クハ慈善團體等ニ寄附スルコトハ益々盛ニ行ハルルニ至ル可ク其ノ結果トシテ國ノ財産ノ大部分ヲ擧ケテ生産的方面ヨリ取リテ不生産的方面ニ投入スルコトトナル可キ也。從テ國家ハ所謂相續税ノ如キ形式ニ於テ遺留財産ノ大部分ヲ國庫ニ收納スルコトトセサル可ラサルヤ疑ナク然モ現今ノ儘ノ社會組織ヲ以テシテ直チニ國家ニ其權ヲ行ハシムルコトハ甚タ不當ナル可ケレハ此ニ於テカ社會主義的思想流行スルニ至リ國家ヲ改造シ若クハ私有財産制度ヲ廢止ス可シト主張スル者益々多キヲ加フルニ至ル可キナリ。然シ乍ラ總テ斯ノ如キハ家族ノ觀念ト相容レサルモノナルヤ明カ也。

最後ニ吾人ハ最モ純粹ニシテ最モ重要ナル家族ノ經濟的職分ヲ述ヘント欲ス。而シテ此事ハ實ニ直接ニ國民全體ノ盛衰ニ影響スルモノナルコトハ前以テ明言シ置クノ必要アリ。其ノ職務トハ即チ家族ニ於テ一國ノ人口ノ量ヲ決定ス可キ勢力ト其ノ質ヲ決定ス可キ勢力ノ結合サレ居ルノ事實ヨリ來ルモノニシテ、此ノ結合ナカリセハ國ノ衰頹ハ到底避クルニ由ハ、無ク世界何レノ國家ト云ヘトモ此ノ衰頹ニ對シテハ自力以テ能ク之ヲ防止スルニ足ルモノ無シ。然リ國家ノ力ノミヲ以

テシテハ人口ノ數ト質トニ於ケル制限、改善ト云フコトハ完全ニ實行シ得ラル可キモノニ非サル也。抑モ一國ニ付キテ其ノ人口過剰云々ト云フ場合ニハ果シテ何ヲ意味スルヤ之ヲ經濟的觀點ヨリシテ見レハ此ノ場合ニハ二ツノ意味ヲ有スルヲ忘ル可ラス。即チ其人口ハ數ニ於テ幾ラカカ食糧其他ノ生計品ト比例シテ過剰ナリト云フ意味ト、他ハ特定セル或人若クハ或人ノ一定數カ過剰ナリト云フ意味ト之ナリ。例ヲ以テ之ヲ説明スレハ七人乗「ボート」一隻ニ對シ八人ノ塔乗者アル場合ニハ誰カ一人過剰ニシテ各人ハ同一ノ「プロバビリチー」ヲ以テ過剰トシテ取除カル可キ運命ヲ有ス。然ルニ中ニ一人操艇ノ術ヲ解セサル者アル場合ニハ事情大ニ前ト異リ其ノ特定ノ一人カ即チ過剰ノ人トナル社會ニ於テモ之ト異ラサル也。吾人カ人口過剰ヲ云フ場合ニハ通常誰トハ無シニ一定ノ人數カ過剰ナリト云フニ非スシテ特定ノ種類ノ人員カ其ノ經濟的無能力等ノ爲メニ過剰ナリト云フ意味ヲ有スル也。サレハ過剰タル可キ人口ハ其質ノ不良ナルニ於テ甫メテ過剰タルモノ也。從テ問題ハ如何ニシテ人口ノ數ヲ制限センカト云フニ非スシテ如何ニシテ其質ヲ改良センカト云フニ存ス。然ルニ今此ノ任務ヲ完全ニ果シ得ルモノハ人



口ノ數ヲ決定スルト同時ニ其質ヲ決定シ得ルモノナラサル可ラス而シテソハ家族ヲ措テ他ニ有ラサル也。

家族カ協同生活ニ堪エ能ク社會的生活ヲ爲スニ適當ナル性質ヲ有スル人ヲノミ養成シ選擇スルコトハ即家族カ人口問題ノ上ニ強大ナル勢力ヲ有スル所以ニシテ共同生活ニ伴フ精神的物質的ノ條件ハ最モ能ク家族内ニ於テ養成サルルヲ得可ク人口ノ質ノ改善ニ付キテ家族ノ有スル職分ハ絶大ナリト云ハサル可ラス而シテ家族カ種屬選擇機關トシテ有スル卓越ノ據テ立ツ所ノモノハ即チ家族ニ種屬増加ノ任務カ付與サレアリト云フ事實ニシテ同時ニ又家族ノ種屬選擇機關トシテノ自働的活働ノ發シ來ル源ハ元來家族ト云フ結合ハ生存競争ニ打勝チ得ル十分ノ條件ヲ具備セル場合ノ外之ヲ爲サスト云フ原則ノ認識ニ存スル也。要スルニ人口關係上ニ於テ家族ノ有スル職分ハ家族獨特ノモノニシテ他ノ制度ヲ以テ之ニ代フルヲ得サルモノナリ。若夫レ經濟學ノ範圍ヲ越エテ動物學的若クハ人類學的ニ種屬維持ナト云フ問題ニ於ケル家族制度ノ關係ヲ研究センカ吾輩ハ必スヤ甚タ興味アル事實ノ這間ニ發見サル可キヲ疑ハサル也。

#### 第四章 小家族ノ經濟生活

小家族制度ノ國民經濟上ニ於ケル職分ハ前章ニ之ヲ論明セルカ如ク猶ホ甚タ緊要ナルモノ有リト雖トモソカ各家屬ノ生活ノ必要ト便宜トノ爲メニ有スル職分ニ至リテハマタ昔日ノ大家族制度ノ如クナルヲ得ス其ノ任務ハ極メテ縮少サレタル小範圍ヲ出ツル能ハサル也。蓋シ現今ノ小家族組織ハ既ニ生産團體タルノ働ヲ止メテ今ハ唯僅カニ消費經濟ノ任務ヲ有スルニ過キサルニ至リタレハ也。

詳言スレハ曾テ父權的家長制ノ行ハレシ大家族制度ニ在リテハ其ノ家族經濟ハ一ノ完全ナル組織ヲ有シ各家屬ハ家族ト云フ經濟的組織體ノ一機關トシテ常ニ其ノ團體ノ爲メニ調和アル働ヲ爲シ相互間ニ何等ノ牴觸ヲ見ス各自ノ勞働ハ時間的ニモ空間的ニモ甚シキ間隔無ク一家ハ實ニ居住ノ場所タルト同時ニ生活ノ本據タリシ也。然ルニ現代ノ小家族制度ニ在リテハ家族ハ既ニ經濟的一個體タルノ實質ヲ失ヒ各家屬ハ家族組織ノ一機關タルト同時ニ國民經濟ノ單位トシテ家族ニ對スル關係ヲ離レテ直接ニ或ル企業ニ與ハリ各々獨自一己ノ爲メニ注意ト



精力トヲ客マサレトモ其ノ家族經濟ノ爲メニ顧慮ヲ煩ハスコト尠シ從テ各家屬ノ勞働ハ時間的ニモ空間的ニモ殆ント何等ノ連絡ヲ見出ササルヲ原則トスルニ至リ或ハ工場ニ出掛クル有リ或ハ田圃ニ耕ス有リ或ハ鑛山ニ赴ク有リテ其ノ生活ノ本據タル所ト居住ノ場所トハ別々ナルコトナレリ而シテ家族ハ即チ居住ノ場所トシテ各個人ノ生活ニ用立ツニ過キササルニ至リタリ

家族ノ消費經濟ハ之レ所謂家計ナルモノニシテ實ニ家族經濟ニ於ケル貨物消費ノ秩序ヲ指スモノナリ F. Engelsノ説明ニ依レハ家族ノ全員ヲシテ適宜ノ時及ヒ十分ナル量ニ於テ其ノ經濟的慾望ノ満足ヲ得セシムルカ爲メニ常ニ所要ノ財貨ヲ獲得保持スルコト並ヒニ其ノ獲得シタル財貨ヲ生活ノ目的ニ適應スルカ如クニ利用スルコトヲ云フナリ而シテ整頓セル家計ト云フハ家族ノ所得ト支出トカ都合好ク調和スルコトニ外ナラストセラル而シテ整頓セル家計タランカ爲メニハ小利益ノ巧妙ナル利用ト云フコトヲ要スルモノニシテ毫末ニ涉リテ家内ノ勞働及ヒ物資ノ使用ヲ組織案排シ家内經濟上ニ於ケル徳性ト能力トヲ巧ニ支配スルヲ必要トシ婦人ハ此點ニ關シテハ男子ヨリモ堪能ナリサレハ現代ノ小家族組

織ニ於ケル消費經濟ハ上ケテ之ヲ婦人ノ任務ニ歸セラレツツ有ル也

ケニヤ古昔ノ家長制ノ大家族ニ在リテハ其ノ一家經濟極メテ複雑ナルモノアリシカ爲メニ之カ管理ノ任ニ當ル可キモノハ有力ニシテ權威アル家長タラサル可ラサリシト雖トモ現代ノ小家族ニ於ケル經濟ハ甚タ簡易ナルモノナルカ故ニ婦人ノ織手モ猶能ク之ヲ處理シテ十分ナルヲ得ル也詳言スレハ大家族ニ在リテハ其家屬ハ數十人ノ多キヲ以テシ其間ニハ複雑ナル分業協力行ハレ之ヲ統御スルカ爲メニハ訓練ト戒飾トヲ要シタルニ反シ小家族ニ在テハ家屬ノ數ハ僅カ三五人ヨリ成ルニ過キス然カモ其經濟ハ家族内部ニ限ラレタル消費經濟ニシテ外部トノ交渉至テ少ク奴婢下男ノ數ニシテモ亦昔日ノ如ク大多數ヲ養フノ必要ナキニ至リタリ昔日ノ大家族ニ在リテハ家長ト奴婢トノ間ニハ主從ノ關係アリシニ拘ラス當今ニ於ケル兩者ノ關係ハ全ク私法上ノ契約ニ依ル關係タルニ過キスシテ漸次事務的ト爲リツツアリ註之レ甚タ注意ニ値スル所タラスンハ非サル也

註 米國ニ在リテハ主婦ハ下女ヲ雇入ルルニ當リテハ純然タル私法的契約ヲ取結ハサル可ラス而シテ下女ノ仕事ハ全ク其ノ契約ノ内容以外ニ出ツルコト無キ也

又先年ホリヨーク及ヒニューヨークニ於テハ雇人勞働組合組織セラレ雇人及ヒ下女ノ勞働



時間、賃金等ニツキテ精密ナル規定ヲ制定シタリ。

右述ルカ如ク家婦ハ家ニ留リテ家内經濟ノ一切ニ任シ夫ハ出テテ金錢所得ノ爲メニ働クコトハ之レ即チ家族生活ト社會生活トノ分離ヲ意味スルモノニシテ然モ之カ爲メニ夫婦雙方カ得ル精神上並ヒニ物質上ノ利益ハ蓋シ幾何ナルヤ計リ知ル可ラサルモノ有ル也即チ夫ハ外社會ニ立チテ地位名譽所得等ノ爲メニ勇戦シ以テ一家生活ノ繁榮ト幸福トヲ計ルニ努メ、内家庭ニ入りテハ能ク人生ノ安慰ヲ快喫シテ終日ノ勞苦ヲ忘ルルヲ得ハ彼カ國家社會ニ對シテ獻クル勞働ノ効果ハ益々多大ナルヲ得可シ又家婦ハ専ラ家庭ニ在リテ家政ニ關スル諸種ノ智識ト熟練トヲ以テ能ク一家ノ平和ト健康ト慰樂トヲ保持増進スルヲ得ハ彼カ夫ト子女トニ對シテ與フル大ナル助力ト教訓トハ云フヲ俟タス引キテ以テ社會一般ノ進歩ト幸福トノ爲メニ貢獻スル所蓋シ甚大ナルモノ有ル可キ也。

註 Den Einfluss, welchen die Frau auf die wirtschaftliche Thätigkeit des Mannes nach Aussen in seiner Eigenschaft als Geschäftsmann, Spekulant etc. nimmt, lässt sich zwar statistisch nicht feststellen. Derselbe ist jedoch besonders in kommerziell und industriell hervorragenden Staaten, wie in Frankreich, Belgien, der Schweiz etc. ein sehr bedeutender und auch als solcher anerkannt.—Fm. Herrmann, a. a. O. S. 24.

ソハ兎モ角トシテ一家ノ消費經濟ハ之ヲ通俗ニ區別スレハ衣食住ト爲ヌヲ得可ク消費ノ大部分ハ實ニ此ノ三者ノ爲ニセラルルナリ而シテ三者ニ關スル消費割合ハ社會階級ノ異ルニ從ヒテ必スシモ同一ナラス同一ナラサルヲ以テ本則トスル也然シ乍ラ一般ニ之ヲ云ヘハ所得ノ少キ者ホト食料ノ爲メニ費ス割合大ナルヲ原則トス之レエンゲルスノ法則トシテ知ラレタル所ニシテ氏カ一八五七年ザクセンニ於テ調査セル統計ヨリ發見シタル法則ナリ試ニ其ノ統計ヲ見ルニ各種費目ノ百分比例左ノ如シ。

費目	ヤヤ資力アル労働者ノ家族	中等社會ノ家族	富裕者ノ家族
食費	六二	五五	五〇
衣服費	一六	一八	一八
住居費	一一	一一	一一
燈爐點火費	五	五	五
教育費其他	五	一〇	一五

然ルニ右表ノ示ス所ハ各階級ニ於ケル住居費ノ割合ヲ均一ニセル點ニ於テ最モ當今ノ實際事情ト相添ハサルモノ有リ依テ一八六八年ニシユワーバー氏ハ伯林市ノ貸家状態ヲ標準トシテ更ニシユワーバーノ法則トシテ知ラレタル一命題ヲ



造リテ曰ク『家族カ富裕ナルホト屋賃トシテ費ス所ノ額ハ大ナレトモ其カ總支出ニ對スル割合ハ益々小ナリ』ト。(註二)

尙ホ Laspeyres 氏カ調査セル所ニ依ル所得別各階級ノ費目割合左ノ如シ(註二)

所得高	食費	衣服費	住居費	燈燭費其他
(一) 六三九法	六三、四%	一七、〇%	七、二%	四、三%
(二) 一、一〇一法	五八、八	一八、一	五、六	四、三
(三) 一、五六四法	五六、二	一五、〇	七、九	六、二
(四) 二、五二二法	五一、九	一四、三	八、四	三、五

右ノ内殘餘ハ教育租稅衛生等ニ費サルモノナリ。

社會階級ノ異ルニ從ヒテ支出ノ割合ニ差異アルノ外同一ノ階級(特ニ勞働者階級)内ニ在リテモ其ノ所屬スル國民經濟ノ異ルニ從ヒテ又自ラ支出狀態ニ差異アルヲ免レス。北米合衆國ニ於テ調査サンタル各國勞働者家族ノ支出各費目割合左ノ如シ(註三)

	北米	英	佛	白	獨
食費	四二、〇%	四七、〇%	四九、〇%	四七、〇%	五一、〇%
飲酒費	三、七	四、四	四、七	五、二	五、一
煙草費	二、〇	二、六	一、三	一、六	一、四
衣服費	一八、〇	一六、〇	二二、〇	二四、〇	二〇、〇
住居費	一六、〇	一一、〇	七、七	九、七	六、二

米獨勞働者生活費ノ比較統計ハ W. Sombart, Warum giebt es in den Vereinigten Staaten von Amerika keinen Socialismus? Tübingen 1906, S. 94 ff. (bes. 122) ニ詳シ。

惟フニ近時國民經濟ノ進歩ニ連レテ一方ニ在リテハ勞賃ノ頗ル騰貴セルニ他方ニ在リテハ物價カ反對ニ下落ノ趨勢ヲ繼ケタルノ結果何レノ開明國ニ在リテモ民ノ家計ハ昔日ニ比シテ大ニ上進セルヤ爭ヒ難キ事實タルカ如シ。然リ歐洲諸國ニ在リテ過去二百年間ニ於ケル上流社會ノ家族生活ノ上進セシコトハ驚クハカリニシテ殊ニ過去一世紀若クハ半世紀間ニ於ケル經濟組織ノ變轉ハ地主資本主及ヒ企業家其他之ニ相當ス可キ社會的地位ヲ有スル者ノ家族生活ヲ上進セシメシコト實ニ前代未聞ト謂ツテ可ナリ。然レトモシユワーベールノ法則ニ依リテ之ヲ知リ得可キカ如ク近時住家費ノ負擔ノ爲メニ下層民カ困難ヲ感シツツアルコトハ日ニ益々甚シキ所ニシテ都市ノ大々的發達ニ連レテ地代及ヒ家賃ノ著シク騰貴シタルカ爲メニ折角勞賃ノ騰貴セルコトモ殆ント何ノ意味ヲモ爲ササルニ立チ至リツツアリ。特ニ大都市ニ於テ兵營式貸屋 Mietkasernenノ資本的供給行ハルル所ニ在リテハ住居ニ關スル一種ノ鐵則ヲ生シ借屋人ヲシテ其ノ階級ニ於ケル最劣等ノ居住狀態ニ満足セサルヲ得サルニ至ラシメタリサレハ當今大多數ノ勞働者ノ住居ハ唯タ之レ眞ニ雨露ヲ凌クニ足ルニ過キササルモノニシテ生存ヲ持續セ



ンカ爲メニ必要缺ク可ラサル設備ヲ有スルノ外何等心ヲ樂マシメ體ヲ安カラシム可キモノ無ク、而カモ狹隘不潔ナル居室内ニ多數ノ家族雜然トシテ共棲シ時ニハ屋賃ノ節約ノ爲メニ之ニ所謂 *Schlafhirschen, Schlafmütchen* ヲモ加ヘテ其狀甚々動物ノ雜居スルニ似タルモノ有リ爲メニ一家ノ風紀ヲ紊シ非倫ヲ生シ健康ト精神トヲ害スルコト幾許ナルヤ知ル可ラス又甚シキニ至リテハ殆ント住家ヲ一定スルコト無クシテ最モ頻繁ニ一家ヨリ一家ニ漂泊スル *Wohnungsnomaden* モ尠ナカラサルナリ(註四)

總テ右ノ如キ事精ノ爲メニ起ル家族生活ノ不愉快ト家族組織ノ不必要トカ漸次家族的結合ノ紐帶ヲ弛メ家族制度崩解ノ氣運ヲ助クルコトノ大ナルハ絮說スル迄モナキコトニ屬ス而シテ此ノ氣運ノ最モ熾ナル所ハ下級労働者所謂無産者階級ニシテ其ノ生活カ奈何ニ慘憺タル窮狀ヲ呈シ又如何ナル道行ニ依リテ其ノ家族生活カ破壊サレツツ有ルカハゾムバルト教授ノ *Das Proletariat* ニ躍如トシテ目ノアタリ見ルカ如クニ描カレタリ著者曾テ其ノ梗概ヲ譯出シテ日本經濟新誌第三卷二三、四號ニ掲載シタレハ讀者ハ就テ一讀アラシムコトヲ望ム

註一 Fuchs, Volkswirtschaftslehre, S. 127 ff; Roscher, System der Volkswirtschaft 23. Aufl. I. Bd. S. 643 ff; Lexis, Art. Konsumtion in Schönh. H. B. d. P. Oe. I. Bd. S. 815; Stephan, Art. Haushaltungstatistik im Conrad'schen Hw. B. d. Schw. V. Bd. S. 319 ff. u. a.

註二 Schönbergs H. B. d. P. Oe. I. Bd. S. 815; u. m. a.

註三 Fuchs a. a. O. S. 129.

註四 W. Sombart, Das Proletariat S. 20; Fuchs, Art. Wohnungsfrage im Conrad'schen Hw. B. VII. Bd. S. 824 ff.

最後ニ家計上ニ於ケル家屬ノ協同ト云フコトハ一言ヲ禁シ難キ所ナリ、即チ一家内ニ多數ノ賃錢労働者ヲ有スル家族持寄的經濟之ニシテ各人カ賃錢ヲ得來ル方面ハ雜多ナレトモ彼等ハ常ニ一ノ共同ナル目的ヲ有ス、共同ノ目的トハ家族經濟ノ維持ト云フコト之ニシテ彼ノ労働者ノ小家族ニ於テ子女カ自己ノ手ニヨリテ賃錢ヲ得ルニ至リサヘスレハ即チ家ヲ去リテ獨立スルモノトハ聊カ趣ヲ異ニスルナリ、家ノ子女ハ自分自分ニテ一定ノ賃錢ヲ得ルニ拘ラス尙ホ家ニ止リテ共同ノ經濟ヲ行ヒ強弱相協クルノ實ヲ上クルモノ尠ナカラス、而シテ斯ル家族ノ經濟ノ比較的裕カナルハ云フ迄モ無シ、請フ吾人ヲシテ少シク米國ニ於ケル二三ノ實例ニ就キテ見ル所アラシメヨ。

一 父ハ行商ニシテ一年二百五十弗ノ賃錢ヲ儲ク長男廿四歳ニシテ同シク行商タリ年四百弗ヲ



- 利得ス廿一歳ノ長女裁縫ヲ爲シテ年六百弗ヲ得十九歳ノ次女ハ家内労働ニ依リテ年百五十弗ヲ得十七歳ノ二男ハ二百弗ノ收入ヲ有シ十六歳ノ三男ハ傳便ヲ業トシテ三百弗ヲ利得ス末子ハ學校ニ通學中ナリ一家ノ總收入年千九百弗ナリトス。
- 二 或ル猶太人ノ家族ニ在リテハ廿五歳ノ長男ハ煙管磨キヲ業トシ彼ハ一週十四弗(年七百弗)ノ收入アリ廿三歳ノ二男ハ衣裳用品ヲ製造シ一週十三弗ヲ得廿歳ノ長女ハ一週八弗乃至十弗ヲ得(年四百弗ナリ)十八歳ノ次女モ同額ノ收入ヲ得三女ハ十七歳ニシテ又同様ノ收入アリ四女ハ十五歳ニシテ一週七弗ヲ得一家總計二千八百五十弗ニシテ末子三人ハ通學中ナリ。
- 三 父ハ元ト露西亞ノ農夫ナルカ廿五歳ノ長女ハ煙草製造所ニテ年六百弗ヲ得廿二歳ノ次女ハ婦人ノ下衣ヲ裁縫シテ年二百弗ノ收入アリ十五歳ノ末弟ハ通學中ナリ而シテ父ハ年五百弗ヲ儲クルヲ以テ一家ノ收入千三百弗ニ上ル。
- 四 父ハ裁縫及ヒ洗濯ヲ業トシテ年七百弗ノ收入ヲ得廿六歳ノ長子ハ理髮師ニテ年五百弗ヲ得廿三歳及ヒ廿一歳ノ娘ハ婦人ノ胴衣ヲ縫ヒテ各年二百五十弗ヲ得十九歳ノ男子ハ電氣工場ニ通ヒテ二百五十弗ヲ得十九歳ノ娘ハ役所ニ勤メ百五十弗ヲ得十五歳ノ末弟ハ學校ニ在リ即チ一家ノ總年收三千一百弗トス。(Rensselaers & Crowded neighborhoods, by Ch. S. Jenheimer: Outlook Jan. 18th. 1908)

右ニ示スカ如キハ家計協同ノ好適例ニシテ其ノ家族經濟ノ裕ニシテ家族生活ノ堅固ナル可キハ元ヨリナリト雖モ之ヲ以テ家族組織ノ結合ヲ緊縮ス可キ積極的効力ヲ有スル紐帶ト見ルヲ得可キヤ否ヤ或ル觀點ヨリシテ之ヲ見レハ斯ク家屬各人ニ對シテ家族カ收入ヲ要求スルコトハ疑モ無ク彼等ヲ驅リ立テテ獨立ノ生

活ニ入ラシムルニ至ルヤ明カ也即チ彼等ハ獨自一己ノ爲メニ愉快ナル生活ヲ自己ノ手ニ依リテ營マント希フニ至ル可キヤ明カ也而シテ多數ノ事實ハ此ノ見解ノ正シキヲ證明スルニ足ルモノ有ル也然レトモ各家屬カ收入ヲ持チ來リテ之ヲ集ムレハコソ可也多大ノ額トモナレ各自一己ノミノ收入ヲ以テシテハ安慰ナル生活ヲ送ルニ足ラス少クトモ家族組織内ニ於テ共同經濟ヲ行フヨリモ安樂ナル生活ヲ爲シ得可キニ非サルノ事實ハ等シク又觀過ス可ラサルコトニ屬セスンハ非サル也。

## 第五章 家族制度崩解ノ氣運

家族制度瓦解ノ氣運ハ之ヲ各種ノ方面ヨリ窺知スルヲ得可シ然レトモ吾輩ハ此ニハ唯タ家族制度ノ三大基礎タル婚姻關係ト親子關係ト家族ノ經濟的基礎トニ就キテ研究スルニ止メント欲ス蓋シ此ノ三者ヲ叩ケハ以テ氣運ノ趨向ヲ察スルニ充分ナルモノ有レハ也。

婚姻關係大ニ弛ム……近世ノ文明諸國ニ在リテ婚姻カ昔日ノ方便的面目ヲ一



新シテ大ニ愛情的ト爲リシハ事實ナリ。而シテ婦人ノ解放一般ニ行ハレ個人人格ノ尊重サルルニ從テ婦人カ自由ヲ要求シテ止マサルハ實ニ已ムヲ得サルノ勢ニシテ然モ其ノ要求カ單ニ男子ノ束縛ヲ脱セントスルカ爲メニ非スシテ現代生活ニ伴フ倦怠<sup>アネチイ</sup>ノ情ヲ醫センカ爲メ (Relief to ennui) ナルコトハ最モ注目ヲ要スル所ナリ。彼ノイブゼンノ戯曲其他現代ノ思想ヲ代表セル作物ニ描カレタル所ノモノノ如キハ甚タ這間ノ消息ヲ傳フルニ足ルモノ無クンハ非サルナリ。又近世社會全般ノ變遷<sup>註二</sup>ト個人主義的傾向ノ流行<sup>註三</sup>トニ連レテ婚姻ノ束縛カ頗ル堪エ難キ苦痛タルニ至リ男女共ニ益々放埒ナル獨自一己ノ生活ヲ營マント希フノ風昌ンナルニ至リシハ掩フニ由ナキ事實ナリトス。此ノ傾向ニ伴テ婚姻關係ハ大ニ弛廢セサルヲ得サリキ。

註一 <sup>ロヤソン</sup>氏ハ其著國民生活論ニ於テ斯ル社會變遷ノ跡ヲ數ヘテ曰ク、

(1) that desertion is increasingly common, since emigration has become a habit with the working classes, (2) that the felon, who has formerly hunged without mercy, is now released periodically, and can resume full marital rights over his wife's person and property, where the law has not been altered to meet this case, (3) (probably) that the duty to children is less felt since the state has charged itself with the care of seeing that they are not positively starved or allowed to run wild, (4) that partly from experience and partly through the influence of modern notions of heredity, a wife knows that

her husband's license is a wrong inflicted upon her own children. They only receive divided tenderness and succeed to a diminished estate: they inherit depravity, if they do not inherit disease, (5) that the legislator has found it convenient every where to relieve the married woman from tutelage in certain important particulars: to make her responsible for her acts, capable of bearing witness against her husband, and able to own property in her own right, (6) that the religious sanctions of marriage are less regarded since the society has become increasingly secular, (7) that the whole conditions of industry have changed, a wife's work is less important to her husband, and the unprotected woman is more easily able to learn a living for herself. To stay at home and spin wool, or sew, would often be very unthrifty in a modern wife, who can make more out of doors as a laundress, charwoman, a factory operative or an employee in a shop.

註二 東亞ノ光所載吉田熊次氏ノ滯歐中ノ消息文ニ曰ク、

個人主義ノ弊害ニ至リテハ終ニ拭フノ期ナク之ヲ家族間ノ情誼ニ就テ見ルモ又一一般社會ノ風儀ニ就テ見ルモ望マシカラサルモノ甚タ多シ日本ニ於ケル青年少女ノ如キハ定メシ歐洲ノ夫婦間ニハ嫉マシキ程ノモノアラント想像スルナランモ予ノ今日迄ノ觀察ニ依レハ寧ロ其ノ反對ナルヲ常トスルカ如シ家庭ニ關シテハ歐洲ノ模範ト稱セラレ爾英國ニ於テスラ近時其ノ美風ノ漸次破壞セラレツアリトハ身殆ント英國ニ長シ今又現ニ海外ニ帝國ヲ代表シテ社會ノ中核ニ親睦セラルル貴婦人ノ口ヨリ直接ニ予カ耳ニセル所ナリ互ニ個人ノ我儘ガ主張スルヲ本則トスル夫婦ニ依リテ造ラレタル家庭ノ麗ハシカル可キハ既ニ理ニ於テ待チ設ク可キニ非サルニアラスヤ(中略)歐洲ノ文藝ハ近時愈々個人主義ニ傾クトテ慈腸ノ聲四方ニ高リ(中略)又彼ノルースヴェルト氏カ家族的生活ノ保護ヲ唱ヘ北米合衆國ノ郵便電信局ハ結婚セル婦人ヲシテ家庭ニ全力ヲ注カシメンカ爲メニ之ヲ役員ニ採用セスト宜旨セルカ如キ彌縫箆ノ極ト云フ可キニ非スト云々。

社會ノ事情變遷シ家族生活マタ之ニ從テ變化セサル可ラストセハ彼ノ中世ノ宗



敎家カ婚姻ヲ以テ一生解ク可ラサルモノト爲シ、特ニ東洋ノ道德ニ於テ一度嫁シタル婦人ハヨシ如何ナルコトアリトモ再ヒ親ノ闕ヲ跨ク可キニ非スト爲スカ如キ敎義ハ甚タ時情ニ適セサルモノタラサルヲ得ス。婦人ニシテ既ニ男子對當ノ地位ヲ取得シ經濟上又優ニ自己一個ハ云フモ更ナリ其ノ子女ヲモ養ヒ得可シトセシカ何ノ意味モ無キ不愉快ニシテ惡德ナル家庭ヲ持續スルハ人情ノ自然ニ戻ルモノタラサルヲ得サル可シ。從テ彼ノ夫婦ハ父母ト同居ス可ラス子女ハ之ヲ學校ニ送り家ニ殘ルハ唯タ夫婦ノミト爲シ最狹義ノ家族生活ヲ爲スヲ以テ最モ便宜ニシテ最モ愉快ナリト爲ス。歐洲當今ノ風潮ハ此ノ意味ニ於テハ最モ進歩セルモノナル可ク、愛情ノ繼續スル間ハ能ク結合シテ一家ヲ爲シ愛情一度去レハ忽チ相分レテ一家ヲ解散スルカ如キハ甚タ容易ニ之ヲ爲スヲ得可シ。

極端ニ愛情本位ノ立場ヨリシテ之ヲ云ヘハ右ノ如キハ頗ル人性ニ適シタルモノナラン。然レトモ恐ル斯クテハ勢ノ赴ク所終ニ夫婦關係ハ暫時ノ野合ト寔モ選ソ所ナキニ至リ所謂 *Syndasmische Familie* ヲ現出セシメ更ニ進ンテハ妻ノ共有乃至亂婚制度ト云フカ如キ原始亂雜ノ狀態ニ逆戻リスルナキヲ必セス社會ノ秩序此ニ

紊レ風紀此ニ至ツテ地ヲ拂フニ至ルナキカヲサレハ吾輩ハ極端ナル社會主義者ノ一類カ類リニ絶叫號呼スル妻女共有制ノ如キカ或ハ單ニ狂的ナル空想タルニ止ラスシテ極端ヲ押シ詰メテ考フレハ一朝終ニ此ノ域ニ到達スルナキニ非サルヤヲ疑ハサルヲ得サル也。

親子ノ間疎遠ト爲ル……家長制ノ家族組織ニ在リテハ子女ノ養育、敎練、使役等ハ總テ家長ノ權能ニ一任セラレ奈何ニ惡德ニシテ粗暴ナル家父カ奈何ニ其ノ子女ヲ虐待スルコト有ルモ唯タ其ノ爲スカ儘ニ委セラレタリ。彼ノ文化劣等ナル狩獵民若クハ牧畜民ノ類カ子女ヲ苦役スルコト殆ント家畜ト選ソ所ナク子女カ一個ノ財產トシテ或ハ賣却セラレ交換セラレ或ハ博奕ノ賭トセラルルカ如キ慘酷ナル例ハ暫ク措クモ要スルニ之ヲ好遇スルモ虐待スルモ訓練スルモ野生ニ終ラシムルモ總テ家父ノ勝手タリシ也。唯此ニ對シテ唯一ノ例外ヲ爲セシハ英國ニ於テ家族財產ノ相續ヲ爲ス可キ子女ヲノミハ之ヲ亂暴ナル父ノ手ヨリ奪ヒタルコト之ナリ。シエレーカ其子ヲ奪ハレタルモ之カ爲ナリ。

然ルニ近時ノ國家ハ子女學齡ニ達スレハ強制的ニ之ヲ公立ノ學校ニ入ラシメ義



務年限中ハ必ス之ニ修學ヲ強ヒ其ノ教育ハ決シテ父母ノ任意ニ委セサル也。又勞働ノコトニ就キテ之ヲ見ルモ古來家長ハ其ノ經濟上ノ利便ヲ計ランカ爲メニ幼少ノ時ヨリシテ子女ヲ驅リテ勞働ニ就カシメタルコト諸民族皆ナ其規ヲ一ニスル也。殊ニ近世産業革命ノ行ハレテ工場工業ノ發達スルニ及ヒテヨリハ下級社會ノ家族ニ在リテハ子女ヲ工場ノ勞働ニ赴カシムルノ風益々昌トナリ終ニ幼年工問題ヲ惹起スルニ至ラシメタリ。元來快活ニシテ自由ニ喜戲シ新清ノ空氣ト十分ナル營養トヲ要求スル幼年ノ子女ヲシテ有害ナル工場勞働ニ赴カシメテ以テ其日ノ麩麩ヲ稼カシムルカ如キハ當ニ子女ノ一身ニ取リテ恐ル可キ結果ヲ齎ラサシムル而已ナラス國家社會ノ公益上亦甚タ喜フ可ラサル弊害ヲ醸サスンハ非サル也。サレハ晚近開明各國家ハ工場法ナルセノヲ設ケテ勞働ニ就カシム可キ子女ノ年齢ト勞働時間トニ制限ヲ置キ其他衛生上、教育上、風儀上等ノ工場設備ヲ完全ナラシメント之レ努メ一方義務教育ノ制度ト相待テ子女ノ保護ヲ怠ルナカラント盡力シツツアリ然レトモ子女カ幼少ノ頃ヨリシテ父母ノ手ヲ離レテ日中ノ大部分ノ時間ヲ工場ニ於テ送ルコトト又僅小ナカラモ獨自一己ノ手ヲ以テ何

某カノ金錢收入ヲ得ルコトトハ甚タ子女カ父母ニ對スル温情ト依賴心ト共同心ト孝養心トヲ冷却セシメ、否寧ロ發育セシメス、爲メニ兩者ノ關係愈々冷淡ナルニ至ルコト蓋シ尠少ナラサル也。

今ノ學校教育ノ利害ニ關シテハ議論ノ餘地少カラサル可シト雖トモ、子女ノ教育ハ全然之ヲ父母ノ手ヨリ奪フ可キニ非スシテ學校ト家庭ト相扶クルニ於テ甫メテ子女ニ對シテ完全ナル肉體上精神上ノ教育ヲ與ヘ得可キモノタルコトハ爭ナキ所ナリ。ソハ兎モ角トシテ吾輩カ此ニ指摘セントスルハ國家カ子女ノ教育ノ大部分ヲ父母ノ手ヨリ奪ヒテ義務教育ヨリ始メテ中學大學教育ニ至ルマテ久シキニ涉リテ教育スルノ結果トシテ昔日ノ親子ノ關係ヲ疎遠ナラシメシコト之ナリ。即チ子女ハ乳臭未タ脱セサルノ頃ヨリ早クモ公立ノ學校ニ入リテ日中時間ノ過半ヲ消スカ爲メニ昔日ノ子女カ四六時中父母ノ膝下ニ在リシニ比シテ甚タ父母ト同居スルノ時間ヲ減セラレ不知不識ノ間ニ父母ニ對スル愛情ノ幾部分ヲ失ヒ若クハ又父母ニ對スル愛情ヲ大ニ發育セシムルノ機會ヲ失フヲ免ル可ラス。又子女ハ大抵ノ家庭ニ在リテハ父母ヨリモ多クノ智識ヲ有スルコトトナリ特ニ高



等教育ノ門ニ入ルニ及ヒテハ漸々父母ト思想感情趣味嗜好ヲ異ニスルニ至ルハ避ク可ラサル也。更ニ又當今ノ子女ハ其ノ身體ノ發育其ノ精神ノ修養之ヲ昔日ノ子女ニ比スレハ父母ニ負フコト少キヲ知ルカ故ニ半ハ無智識ニ父母ヲ疎ンスルコト無キヲ得サル也。由來『親思ふ心に優る親心』ト言ヘリ、子女カ父母ニ對スル愛情ハ先天的ニ父母カ子女ニ對スルモノヨリモ濃厚ナルヲ得サルニ加エテ以上ノ事情アリトセハ親子間ノ楔子カ近時益々弛メルモノアルコト實ニ避ク可ラサル勢ト云フノ外ナシ。サレハ當今ニ在リテハ父母ハ極メテ幼少ノ子女トノミ結合シテ一家ヲ爲シ、ヤヤ成長セル子女ハ何トナク外人ラシキ觀ヲ呈シ、爲メニ頗ル家族組織ノ紐帶ヲ薄弱ナラシメタルコト爭ヒ難キ事實ナリトス。

最後ニ家族制度ノ經濟的基礎ニ就キテ吟味スルニ近時經濟組織ノ變革ノ爲メニアハレヤ家族制度ノ據テ立ツ可キ經濟的基礎ハ古キモノハ既ニ挫折シ終リテ新シキモノハ未タ成ラサルノ危キ状態ニ瀕シツツアリ。

前ニ述ヘタルカ如ク家族ノ古キ形式タル父權的家長制ニ在リテハ家族ノ基礎タル可キ財産ヲ爲スモノハ土地ナリ然ルニ家族ノ新形式タル小家族ニ在リテハ土

地ニ對スル關係大ニ弛廢セルコト最モ顯著ナル事實ニシテ家族ノ財産中土地ハ決シテ昔日ノ如ク重要ナル意義ヲ有セサルニ至リタリ。而シテ今日一般ニ見ル所ノ小家族組織ニ在リテハ各家屬ハ大抵特有ノ財産ヲ有シ其意ノ欲スル所ニ從テ自由ニ之ヲ處分スルヲ得從テ家屬ヲ財産的ニ若シクハ經濟的ニ繋キ合ス可キ一勢力ハ喪失セラレタリト云ハサル可ラス。然レトモ土地ニ代ル可キ新シキモノノ入り來リテ家族維持ノ働ヲ爲シツツ有ルモノ無キヤ否ヤハ研究ニ値スル問題タリサルヲ得ス。

元來土地ナルモノハ一家經濟ノ基礎トシテ存在スル間ハ最モ家族ノ維持ヲ助クル力アルモノタルヤ疑無シ。何トナレハ家長制大家族ノ如キハ家屬各員ノ共同勞動ヲ成立ノ一要素トナシ各家屬カ其ノ智能ト筋力トニ應シテ勞動ヲ分擔シ之ヲ一統御力ノ下ニ集メテ組織的ニ一家族經濟ヲ造リ上クルコトハ家族制度ノ據テ立ツ所以ニシテ然モ年齢及ヒ性ヲ異ニスル各家族ヲシテ勞動ノ協同ヲ爲スニ最モ簡單ニシテ且ツ適當ナルモノハ土地ノ耕作ニ若クモノ無カル可ケレハ也。即虛弱ナル者モ何等カノ手傳ヲ爲スヲ得可ク魯鈍ナルモノモ力仕事ヲ爲スニ差支ヘス



最モ智能優レタル者ハ其熟練ト組織力トヲ用キ得可キコト耕作ニ若クモノ無ケレハ也。斯ク土地カ各家屬ノ共同労働ヲ爲スニ便ナルコトハ即チ土地カ家族ノ結合ヲ密ナラシムル所以ニシテ一家ヲ維持ス可キ純粹ナル經濟的勢力カ土地ヨリ來ルコト疑無シ。

然ルニ今ノ小家族ニ於テハ此ノ土地ニ代ハル可キ他ノ何等カノ勢力存在スルヤ否ヤ。或ハ果シテ今日一般ニ唱道セラレルカ如ク英國ノ如キ工業國ニ在リテハ既ニ全ク斯ル勢力亡滅ニ歸シタルモノナルヤ否ヤ。

歐洲ニ在リテハ所謂地主ナルモノハ既ニ決シテ土地ヲ基礎トセル經濟ノ上ニ立ツモノニ非ス。又所謂農民ナルモノニ在リテハ其ノ一家經濟カ幾許ノ程度迄土地ニ負フ所アルカハ甚タ知リ難キ所ニシテ農家ノ子女ニ至リテハ地主ノ子女カ土地ヲ捨テテ立ツト相讓ラサル程度ニ於テ土地以外ニ經濟ノ獨立ヲ得ント努メツツ有リ。然レトモ所謂農業労働者ナルモノニ至リテハ事情ヤヤ之ト異ナルモノ有ルヲ忘ル可ラス。現今ノ農業ハ尙ホ大ニ労働ニ變化ヲ要シ之ニ任スルカ爲ニハ孤立セル個人ヨリモ多數ノ若者及ヒ婦人ヲ取交セテ團結セル家族組織ヲ以テスル

方遙カニ適當ナル場合少カラス、サレハ農業労働者ヲ雇入ルルニ當リテモ一個人ヲ雇入ルルヨリハ家屬ヲ伴ヘル者ヲ一家舉リテ雇入ルルヲ便宜トシ從テ子女ヲ有スル者ノ賃錢ハ孤獨ナル者ノ賃錢ヨリモ高貴ナルヲ常トスルモノ尠カラス、而シテ此種ノモノニ在リテハ家族ヲ結合セシム可キ經濟的紐帶ハ甚ク鞏固ナリトセサル可ラサルヤ論ナシ。

然ルニ農業労働ニ一家ノ全労働力ヲ舉ケテ任スル程ナラサル所ニ在リテハ家族團結ヨリ既ニ一步ノ遠心的傾向ヲ生スルモノニシテ家屬中ノ或者ハ出テテ賃錢労働ニ從事スルニ至ル。然モ其ノ得タル賃錢ハ家族ノ收入トナルカ故ニ其ノ一家經濟ハ唯單ニ農業ノミヲ營ムモノヨリモ豊富ナルニ至ル也。此事ハ工場ノ周圍若クハ鑛山地方ニ於テ多ク見ル所ニシテ其ノ齋ス間接ノ結果モ決シテ無視ス可ラサルモノアリ。即チ之ニ依リテ都市的生活ト田舎的生活トノ結合サルルカ如キハ最モ注目ス可キ間接ノ結果タラسنハ非サル也。

家内工業ノ行ハルル所ニアリテモ家族ノ労働共同ハ行ハレサルニ非ス。家長若クハ一家族ノ統轄ノ下ニ一家ノ労働力ヲ以テ或ル工業的製作ニ從事スルコト屢々



之レアリト雖モ然モ勞働ノ變化ト云フ點ニ至リテハ到底農業ト比肩シ得ヘキモノニ非ス勞働ノ共同脆弱ナルカ故ニ一度ヒ機械ノ發明サレテ工場工業ノ起ルニ至リテヨリハ苦モ無ク之カ爲ニ壓倒セラレ其ノ家族ノ經濟的基礎ハ破壞サレテ各家屬ハ多クハ出テテ工場勞働者タルニ至リタリ然レトモ之カ爲ニ家族生活カ根本ヨリ覆リタリト爲スハ早計ニテ一時大動搖ヲ被リタルニハ相違ナキモ尙ホ能ク其ノ動搖ニ堪エ得テ更ニ新變化ニ適應スヘキ新形式ヲ以テ新基礎ノ上ニ立ツニ至リタリ。

斯ノ如ク家内工業ニ於ケル家族ノ協同勞働ハ漸次其ノ要度ヲ失ヒツツ有ルコト爭フ可ラサル事實ナリト雖トモ此ニ一舉社會ノ各階級ヲ通シテ行ハルル重要ナル分業的勞働共同アリトハ即チ一家内ノ婦人ヲシテ家計一切ノ任ニ當ラシメ主人及ヒ成年ノ男兒ハ出テテ一家ノ收入ヲ計ル可キ業務ヲ營ムコト之ニシテ今日一般ニ行ハルル所ナリ唯々例外トシテ最モ富裕ナル婦人カ家計一切ヲ専門ノ雇人ニ委シテ顧ミサルアルト同時ニ他方ニ於テ最モ貧困ナル婦人カ出テテ賃錢勞働ニ服セサル可ラサルノ必要ヨリシテ同シク家計ヲ捨テテ顧ミサルアルナリ之

レ兩極端ノ例外ナリトス而シテ斯ル場合ニ於テハ其ノ家族的結合漸次弛ミ來ルハ爭ヒ難キ所ナリ然レトモ或ル觀點ヨリスレハ婦人自身カ出テテ賃錢勞働ニ服スルコトハ却テ婦人ヲシテ一家ノ經濟ニ全權ヲ振ハシムルコト無キニ非ス何トナレハ主人及ヒ成年ノ男子ノ如キハ自ラノ得タル賃錢ハ却テ之ヲ獨自一己ノ爲ニ消費シ家屬トシテノ生活ハ之ヲ婦人ノ所得ニ待ツコト多キニ至ル場合尠ナカラサレハ也。

サリ乍ラ之ヲ要スルニ右述ルカ如ク家族制度ノ據テ立ツ可キ經濟的基礎ノ動搖シ挫折セルハ家族制度維持ノ爲メニハ最モ手痛キ打擊タルヤ疑ナキ所ニシテ新經濟事情ニ適應スル新基礎確立サルルニ非サレハ家族制度崩解ノ氣運ハ爲メニ愈々成熟スルヲ避ク可ラサル可キ也。

吾輩ハ本章ノ冒題ニ於テ當今ノ進歩セル經濟組織ノ下ニ在リテ家族制度カ猶ホ能ク餘喘ヲ保チツツ有ル所以ノモノハ其ノ消費方面ニ於ケル職分ノ存スルアルカ爲ナリト述ヘタリ然ラハ家族制度ノ將來ハ如何ト見ルニ元ヨリ之レ事實問題ニシテ今ヨリ豫見スルニ難ケレトモ早晚家族組織ナルモノカ今日ノ共同的團結



ヲ持續シ得サルノ時期ニ會スルコト有ル可シトハ大多數ノ職者ニ依リテ抱懷サルル所ノ見解ナリ。其ノ見解ノ當否ハ別トシテ家族經濟ノ崩解ハ個人及ヒ國民經濟ノ利益ノ爲メニ觀迎ス可キモノナルヘキヤ否ヤ。之レ亦大ナル疑問ナリ。然レトモ思ヘ、近世國民經濟成立ノ際ニ當リテハ舊來ノ各種ノ經濟的結合ハ總テ之ヲ打破セスンハ已マサルノ勢ヲ示シタリ、然カモ合化トカ進化ノ二大法則タル以上ハ之等ノ結合ノ猶好ク保存シ發達セシメサル可ラサルモノ尠ナカラサリシ也。而シテ進化ノ過程ニ於テ必スシモ不適者ナラサルモノハ終ニ能ク殘存シ得可シトセハ現時人類ノ九分九厘迄カ據テ立チツツ有ル家族ト云フ消費組織カ全然崩解シ亡滅シ去ル可シト考フルハ聊カ杞憂ニ過キタラスヤ。然レトモ吾輩自ラモ幾分此ノ杞憂ヲ懷キ居ル一人ナルコトハ自白セサル可ラサル所ニシテ社會主義的經濟組織ノ漸次實現シ來ルニ連レテ家族結合ノ最後ノ據城タル消費經濟モ益々崩解ノ氣運ニ依リテ迫マラルルニ至ル可キヤ略ホ明言シ得可キ所タラスンハ非ス。既ニ家族制度崩解ノ氣運ニ就キテ述フレハ勢ヒ當今ノ大勢力タル社會主義カ家族制度ニ對シテ示ス態度ニ就キテ一言スル所ナカル可ラス。蓋シ社會主義者ノ大

多數ハ家族制度ノ撲滅ヲ主張スル者ニシテ家族制度ニ取リテハ社會主義ナルモノハ不俱載天ノ仇敵ナレハ也。請フ章ヲ更メテ論セシメヨ。

## 第六章 家族制度ニ對スル社會主義者ノ態度

人トシテ財產ヲ得ント希望セサルハ無カル可ク一生營々トシテ勞苦スルモ必竟妻子眷族ノ爲メニ財ヲ畜ヘテ家族全體ノ安慰ト幸福トヲ贏チ得ンカ爲ナリ而シテ其ノ財產ヲ得ントスル慾望ノ動機カ獨自一己ノ安慰ヲ計ランカ爲メニ非サルハ事實ノ證明スル處ニシテ財產ノ觀念ト家族ノ觀念トハ少クトモ當今ノ社會組織經濟組織ニ於テハ猶ホ殆ント離ス可ラサルモノナリ。然ルニ此ニ社會主義ナルモノ有リ標榜シテ私有財產ノ廢止ヲ主張ス。從テ家族生活ニ人生ノ至義ヲ味ヒツツ有ル多數ノ人士カ之ニ向テ絶大ノ憎惡ト反感トヲ抱クハ寧ロ理ノ當然ト云フノ外無シ。社會主義ト家族制度トノ間ニハ永久不和ノ先天的反擊アルナリ。然カノミナラス家族ノ觀念ハ社會主義的國家ノ觀念ト容易ニ一致シ難キモノニシテ家族制度維持論者ハ資本私有制ヲ主張セサルヲ得サルナリ。即チ今日ノ資本



主義的個人主義ノ社會組織乃至ハ近世ノ國家及ヒ近世ノ文明ハ家族制度ヲ基礎トシテ立ツモノニシテ必竟家族カ生ミ出セルモノニ過キサレナリ。サレハ今日ノ社會組織ノ下ニ於ケル市民ハ公共團體ノ利害ヨリモ家族ノ利害ヲ重視スルノ傾向アルハ免レ難キ所ナルニ拘ラス社會主義ハ公共團體ノ利益ヲ以テ家族ノ利益以上ニ置カントスルモノナレハ兩者ノ間ニ意見ノ衝突アルハ殆ント當然ノ數ト謂ツ可キ而已。

社會主義ハ個人ノ平等ヲ理想トスルモノナレトモ之レ亦家族ノ觀念ト相容ルルモノニ非ス。家族制度ハ本來不平等ノ上ニ立ツモノニテ服從關係ノ廢滅ハ即チ家族崩解ノ警鐘ナリ。絶對ノ個人平等ヲ主張スル者ハ先ツ家族制度ヨリ打破シテ掛ラサル可ラス。サスレハ社會主義ト家族トノ相容レサル自明當然ノコトト云フノ外ナシ。私有財産制ノ下ニ於テ隣家ノ財産ヲ羨ミタルモノハ財産平等ノ社會主義ノ下ニ於テハ隣家ノ美婦ヲ羨マサルヲ得サル可ク終ニハ妻女ノ共産ヲ實行セサレハ社會ノ不平等ト不調和トハ之ヲ除クニ由モナシ。プラトール以來多數ノ思想家カ共産主義ヲ夢想シテ終ニ妻女ノ共産ニマテ押シ詰メテ論セサルヲ得サルモノ

決シテ故ナキニ非サル也。

又家族ニ對シテ國家カ絶對權ヲ有シ勞働ヨリ食物ノ末ニ至ルマテ一々國家カ干渉スルニ至レハ勢ノ激スル所國家ハ終ニ人口増殖ノ點ニマテ干渉ヲ試ミサルヲ得サルニ至ル無キヲ保セス。然レトモ之レ到底今日ノ家族ノ觀念ト一致ス可キ所ニ非ス。而シテ社會主義カ婚姻關係ヲ弛廢セシメ結局家族制度ノ根柢ヲ覆スニ至ル可シトノ反對論ニ對シテハ社會主義者ハ極力辯解ヲ試ミ社會主義カ決シテ家族ノ神聖ヲ犯サントスルモノニ非サルヲ辯明スルニ甚ク努ム。一九〇七年十月四日及ヒ五日ニ倫敦ニ於テ開カレタル獨立勞働黨ノ會合ニ於テハ社會主義ハ家族ヲ撲滅セント勉ムル者ニ非サルノミナラス近時資本主義的經濟ノ結果或ハ子女婦人ノ工場使用或ハ賃金ノ低落或ハ「スウエツチング」ノ横暴等ニ依リテ家族制度基礎漸ク動搖セントスルノ時ニ當リ社會主義ハ却テ家族ノ當ノ敵タル資本主義ヲ覆シテ以テ家族ノ強固ヲ助ケントスルモノ也ト宣言セリ。然レトモ斯ノ如キハ極端ナル強辯飾辭ニ過キスシテ今少シク穩健ナル社會主義者ノ眞情ハ今日ノ有産者ノ家族ハ必竟資本ト私有制トヲ條件トシテ立ツモノナレハ若シ此ノ條件ニ



シテ亡滅ニ歸センカ家族制度ハ從テ沒落セサルヲ得ス、近世ノ一夫一婦制ハ昔日ノ妻女共有制ヨリ脱胎セルモノニテ恰モ共產制ヨリ財產私有制ノ認メラレタルト其趣ヲ同フスレハ若シ私有制カ共產的の制度ニ復舊スル曉ニハ當今ノ家族ノ觀念ハ却テ一般ノ社會的感情ニ反スルニ至ル可シト云フニ在リ、要スルニ社會主義ハ私有財產ヲ廢シテ財產ノ公有ヲ實行シ個人的自由競争ニ代ユルニ社會共同ヲ以テシ、依テ以テ社會ノ根底ニ横ハル不公平ト不調和トヲ除去シ各個人ノ物質的福利ヲ増進セシメントスルモノナレハ家族制度ノ如キハ先ツ之ヲ撲滅セサル可ラスト云フノ決論ニ達セサルヲ得サル也、何トナレハ私有財產制ヲ打破スルコトハ即チ家族制度ノ據テ立ツ城塞ノ本丸ヲ爆滅セシムルコトナレハ也、而シテ家族ト云フ觀念ヲ以テ人類ニ自然ナル一種先天的ノモノノ如ク考フルハ笑フ可キ愚ニシテ家族制度ハ元來生活上ノ便宜ノ爲ニ設ケラレタル人爲的ノ制度ニ過キス從テ是有ルコトカ却テ便宜ヲ害スルニ至ラハ之ヲ撲滅スルニ何ノ不可カアラントハ社會主義者ノ一般ニ信スル所ナリ、

更ニ立入りテ云ヘハ多數ノ社會主義者ハ現今ノ婚姻ヲ以テ畜妾淫賣ナトト等シ

ク不徳ナリトナス也、彼等ハ惟ヘラク一ハ金錢ノ爲ニ雇傭關係ニ立ツモノニテ其ノ不徳ナルハ相當ノ勞力ヲ供セシテ不相應ノ代價ヲ請求スルニ在リ、他ハ社會制度ニ依リテ公認サレタル賣買ニシテ一種ノ人身賣買タリ共ニ之レ憎ム可キ罪惡ニシテ現今社會ノ一疑團タラスンハ非ス、而シテ其ノ疑團ノ解決ハ婦人ノ經濟的獨立ニ於テ之ヲ發見スルヲ得可シ、共產主義ノ社會ニ於テハ婚姻ハ今ヨリモ一層意思ト愛情トニ依リテ支配サルル更ニ一層神聖ナル者トナル可キ也ト、又謂ラク我等社會主義者ノ理想トスル所ハ人爲的ナル各種ノ束縛ヲ脱シテ真正ナル自由ヲ享受スルニ在リ、從テ婚姻ノ如キモ人爲ト方便トノ爲ニスルニ非スシテ愛情ト自由選擇トニ依リテ之ヲ取結ハント欲ス、抑モ今日ノ家族ハ婦人ノ良人ニ對スル經濟的從屬ヲ條件トシテ存在スルモノナレハ完全ナル經濟的の自由實現セララルニ於テハ家族ノ紐帶ハ自ヲ解ケサルヲ得ス、此ノ結繩解クルニ於テ甫メテ人ハ愛情ノ發露スルママニアラユル社會的束縛ノ外ニ立チテ夫婦的結合ヲ爲スヲ得可ク、其ノ結合ハ今日ノ如ク一生ニ渉ル契約ト云フカ如キ不條理ノモノニ非スシテ其ノ條件其ノ期間共ニ當事者間ノ自由意思ニ任スル極メテ條理ニ叶ヘルモノ



タルヲ得可キ也ト又思ヘラク社會主義的社會ニ在リテハ婦人ハ完全ニ經濟的の自由ヲ享受シ良人父兄等ニ從屬スルコト無ク其生活費ハ共同團體ヨリ支給セラレ子女ヲ擧クレハ又其ノ數ト健康ノ如何ニ從テ給與ヲ受ケ若シ子女無クンハ家政ノ用務殆ント之無キカ故ニ時間ノ大部分ハ之ヲ他ノ更ニ有用ナル仕事ニ奉スルヲ得可ク從テ其ノ地位ハ安全ニシテ愛情ハ恰モ風ノ自由ナルカ如クニ自由ナル可キ也トサレハ社會主義ノ社會ニ於テハ子女生ルレハ直チニ社會ノ有トナリ或ハ之ヲ公立ノ育兒院ニ入レ保母ノ手ニ依リテ養育シ然ラサル場合ニハ生母自ラ相當ノ支給ヲ受ケテ養育ノ任ニ當ル可シサレハ子女ヲ生ムト云フコトハ一ノ勞働ト化シ賃金ノ爲ニ之ヲ營ムコトト爲ル也又之ヲ育ツルコトモ一ノ專門若シクハ獨立ノ業務ト爲リ營利ノ爲ニ猫兒狗兒ヲ養育スルト殆ント選フ所ナウル可シ父無シ兒母無シ兒ハ混然トシテ國家ノ育兒院ニ群衆嬉戲シ父ト云ヒ母ト云フ文子ハ其ノ意義ニ大ナル變化ヲ破ラサルヲ得サル可シ斯クテハ人ノ愛情モ公權力ニ依リテ治メラルルト云フノ外ナケン。

或ル社會主義者ハ大ニ憂慮シテ曰ク若シ吾等ノ理想ノ如キ社會ニシテ實現セラ

レンカ良人ハ自由氣儘ニ妻ヲ取替エ妻ハ又勝手ニ良人ヲ捨テ其間殆ント秩序ノ保ツ可キ無ク又子女生ルレハ即チ父母ノ手ヲ離ルルニ於テハ人口過剩ノ勢ヲ激成セサルヲ得サル可ク貧困ハ社會ニ瀰漫スルニ至ラン斯クテ一朝憂國者ハ絶叫呼號シテ人口制限ヲ主張スルノ時期ニ到達セサルヲ得サル可シサスレハ子女ノ養育ハ之ヲ父母ノ義務ト爲シ置クコト却テ社會ノ幸福ヲ計ル可キ良策ナルヤモ知ル可ラスト二千二百年前アリストテレースハ等シク人口制限ノ必要ヲ説テ曰ク若シ國家ニシテ賃金ノ保證ヲ爲ストセハ國家ハ又宜シク人口増殖ニ關シテ干涉ヲ爲スノ必要アリ國家ノ認可ヲ得タル出生ニ非サレハ皆之レ不正ノ出生ニシテ其ノ父母ヲ處罰セサル可ラス而シテ國富ノ増進ト共ニ人口認可ノ數ヲ増ス可キハ勿論ナリト雖モ國家ハ無害ニシテ有效ナル避妊法ヲ研究シ之ヲ市民ニ普知セシムルノ必要アリト此ノ見解ニ從テ近來或者ハ精神ノ虛弱ナルモノ遺傳性ノ病症ヲ有スルモノ犯罪的性行ヲ有スル者等ノ結婚ヲ禁ス可シト主張ス。

然レトモ或社會主義者ニ至リテハ家族制度ノ撲滅ニ反對シ國家ノ手ニ依ル育兒ヲ非難ス即チ家族ト云フ組織ハ其ノ子女ノ教育上ニ貢獻スル所最モ多キモノニ



シテ慈愛ナル母ノ温キ手、家族團體ノ個有ノ道德等ハ一トシテ子女ノ精神的教養ヲ助ケサルハ莫ク國家カ「バラック」式ニ大育兒院ヲ設クルカ如キハ最モ亂暴ノ甚シキモノ也ト爲スモノ有リ。

家族制度撲滅ニ對シテ最モ熱心ナル反對ノ地位ニ立ツ可キ者ハ婦人ナルコト勿論ナリ。故ニ社會主義者ハ婦人ノ甘心ヲ買フノ必要ヲ認め好言諛辭以テ之ヲ誘ハントス。即チ社會主義者ハ口ヲ極メテ今日ノ家庭ニ於ケル婦人ノ地位ノ憐ム可キヲ説キ其ノ奴隸的地位ヲ離脱スルニ非サレハ到底人トシテ存在ノ意義ニ叶ハサルモノ也ト論難ス。而シテ婦人解放ノ手段トシテハ經濟的自由ヲ標榜シ職業ノ自由教育ノ對等地位ノ平等收入ノ均等皆之レ社會主義的社會カ婦人ニ保證スル所ニシテ且之ニ加フルニ選舉權ヲ以テスル也。然リ社會主義ノミ獨リ能ク婦人ノ解放ヲ成就スルヲ得ヘシト絶叫ス。

社會主義者カ婦人ノ地位ヲ進メ之ヲ男子ト平等ニシテ選舉權ヲモ附與セントスルコトハ即チ男女ノ間ニ存スル性ノ相違ヲ除去セントスルモノニシテ、從來婦人カ其ノ性ノ異ルカ爲ニ男子ト特別ノ權利利益ヲ享受シタルモノハ亡滅ニ歸セサ

ルヲ得サルナリ。而シテ之レ婦人ニ取リテ勝利ナル可キヤ否ヤハ大ナル疑問タラスンハ非サル也。

### 餘 論

夫妻親子ノ關係漸次疎遠トナルノ事實ハ家族經濟ノ分離的傾向ト相待チテ大ニ家族組織ノ紐帶ヲ弛廢セシメツツ有ルハ疑ナキ所ナリ。而シテ是等ノ事實ハ俱ニ之レ現代ノ思想界ト社會生活ノ各限トニ瀰漫シツツ有ル個人主義的氣風ニ依リテ醸成サレタル新氣運ニシテ然モ同時ニ又此ノ氣運ノ成レルカ爲メニ個人主義的氣風ヲ助長シツツアル也。

個人主義ノ利弊ニ就キテハ大ニ議論アル可シト雖モ所謂夫婦間ノ特別ナル情合親子間ノ愛情ナルモノノ存在ニシテ否ム可ラサルモノナル以上ハ且又此等ノ愛情ハ比較的永續性ニ富ミ能ク一生ニ繼續スルヲ以テ原則ト爲シ寧ロ人ノ天性ヨリ發露スルモノナリトセハ當今ノ家族制度カ全然消滅ニ歸スルコト有ル可シトハ信ス可ラス。彼ノフラインノ「レバブリック」若クハ彼ノ極端ナル社會主義者、共產



主義者ノ唱道スルカ如キ社會組織ハ現代ノ人心ニシテ著シキ變革ニ遭遇セサル  
 限リ到底空想タルニ過スシテ俄カニ實現シ得キモノニハ非サル也。  
 然レトモ翻テ之ヲ思ヘハ若シ假リニ斯ル社會組織ニシテ實現セラレ妻ノ共有行  
 ハレテ子女ハ即チ襁褓ヨリ取リテ之ヲ國家ノ育兒院ニ入レ遊戯寢食總テ國家ノ  
 監督ノ下ニ之ヲ爲サシメ稍々長スレハ國家ノ學校ニ入レテ教育シ學校ヨリシテ  
 直チニ又國家ノ職務ニ就カシムルカ如キニ至リタリトセンカ其曉ニハ父母ハ爲  
 メニ一生ノ業務ノ大半ヲ節約スルヲ得テ當今子女多キ父母カ其ノ養育ノ爲メニ  
 貧苦ニ追ハルルノ慘狀ヲ呈スルコト無キニ至リ其ノ餘力ヲ上ケテ國家公共ノ業  
 務ニ盡シ農工商其他ノ産業ハ云フ俟タス進ミテハ道德學問技術ノ事ニ盡瘁ス  
 ルヲ得テ大ニ文明ヲ進歩セシムルノ結果ニ立至ルナキニシモ限ラサル可シ。  
 然レトモ今一度翻リテ靜カニ斯ノ如キ社會ヲ想像シテ其ノ奈何ニ荒寥ナル可キ  
 カニ想到スレハ吾輩ハ懼然トシテ恐レサルヲ得サル也。誠ニ思ヘ忠恕ト云ヒ仁慈  
 ト云ヒ愛憐ト云ヒ同情ト云ヒ敬慕ト云ヒ撫賑ト云ヒ和親ト云ヒ協助ト云ヒ信賴  
 ト云ヒ報恩ト云フカ如キ吾等カ數エテ以テ美德ト爲スモノノ大多數ハ殆ント之

レ家庭ト云フ温室ニ萌芽セル美花ナラスヤ然ルニ家族制度ノ全ク撲滅セラレタ  
 ル上述ノ社會ニ在リテハ是等人生ノ誇トス可キ多クノ美德ハ一朝ニシテ凋落シ  
 世ハサナカラ嚴冬ノ枯木立ノ如ク欺詐ト奸黠ト嫉視ト猜忌ト冷淡ト酷薄ト排擠  
 ト陷罪ト迫害ト脅喝ト猾智ト誘惑ト粗野ト亂雜トノ相肩摩セル些ノ温カミナキ  
 モノト化ス可キナリケニヤ家族制度ハ數千年來ノ發達ニ係ルモノニシテ幾多ノ  
 試鍊ト經驗トヲ積ミテ以テ今日ニ至レル者ナリ。然ラハ今大膽ニ其ノ物質上ノ利  
 益ハ全ク之ヲ否認ストモ其ノ精神上ノ利益ニ至リテハ蓋シ尠少ナラズ。  
 吾輩ハ個人主義ノ呪咀者ニ非スサレトモ家織制度ハ或ル形態ニ於テ之ヲ維持ス  
 ルノ必要アルヲ信スルモノ也。個人主義大ニ可ナリ然リ大ニ可ナリト雖モ個人ト  
 云ヒ自由ト云ヒ獨立ト云フ中ニハ自ラ組織アリ統制アリ秩序アラサル可ラス。吾  
 輩ハ當今ノ小家族組織即チ夫婦及ヒ未婚未獨立ノ子女ヨリ爲レル家族組織ハ一  
 方能ク個人主義ノ理想ヲ容レ他方又能ク家族主義ノ美質ヲ保持スルヲ得ル(註)好  
 個ノ生活團結トシテ其ノ組織其ノ統制其ノ秩序ヲ發現セシムルニ足ルモノト信  
 セスンハ非ス。希クハ永ク之ヲ以テ社會組織ノ單位タラシメヨ。時勢ノ變轉ニ伴フ